

A110

ALPINE

A small graphic element consisting of three horizontal bars in blue, white, and red, positioned below the word ALPINE.



お車をお買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、次のことに必要な情報が含まれています。

- 車の知識を高め、最適な状態で使用することにより、この車の持つ性能を最大限にご利用ください。
- メンテナンスに関する簡単かつ的確な知識を得ることにより、車の最良の機能性を維持していただく。
- 技術者の修理の必要ない簡単なトラブルに素早く対処できる知識を身につけていただく。

本書には、車の各機能および新機能をご理解いただくにあたって大いに役立つ情報が記載されています。内容について疑問に思うことがございましたら、お近くの指定サービス工場にお問合せください。特定の点についてまだ不明な点がある場合は、当社のネットワーク技術者が追加の情報を提供いたします。

取扱いに役立つ指針については、次の記号の付いた記載をご覧ください。

 と  車両に記されている場合、車両の装置について、詳細な情報または操作の制限を確認するために、取扱説明書を参照してください。

→ （取扱説明書のいずれかにページの記載）。



（取扱説明書のいずれかに、警告、危険、安全上の注意の記載）。

この注意事項におけるさまざまなモデルの説明は、本書の構想の際に分かっていた技術仕様に基づいて作成されました。
「クイック」ガイドには該当モデルの全バージョンの装備がまとめられています（標準装備とオプション装備を含む）。車両の各装備の有無はバージョン、オプションや販売国によって異なる場合があります。

同様に、同年内に導入が予定される新装備につきましても記載される場合がありますのでご了承ください。

取扱説明書の図は、例としてのみ提供されているものです。

満足のいくカーライフをお楽しみください。

フランス語からの翻訳。たとえ部分的であっても、自動車メーカーの許諾書なしに本書の複製または翻訳をすることは、固く禁じられています。

要約

あなたのお車について知っておきましょう	4
カードキー	4
キー、リモコン	12
ドアと開閉部	13
フロントシート	18
シートベルト	20
補助の安全装置	23
子供を乗車させるとき	29
チャイルドシート	33
お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動	40
ドライビングポジション	44
オンボードコンピューター	48
警告灯	68
ステアリング	72
リアビュー	73
ランプ類	74
ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示 灯	76
ワイパー	77
燃料タンク	80
発進する	82
慣らし運転	82
エンジン始動と停止	83
走行モードの選択	89
スタンディングスタートの手順	91
シフトコントロール	93
パーキングブレーキ故障	99
ガソリン車についての注意事項	103
地球にやさしい車づくり	105
メンテナンスと環境に優しい運転のアドバイス	106
ドライビングアドバイス、エコドライブ	107

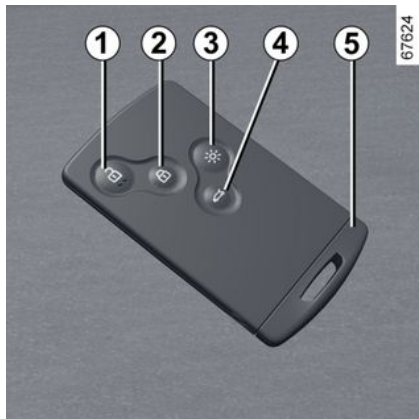
タイヤ空気圧モニターシステム	110
ドライビングアシストと補正装置	114
スピードリミッター	117
クルーズコントロール	119
パーキングアシスト	122
快適装備	128
エアベンチレータ、ヒーター、エアコン	128
マルチメディア装備	135
室内装備	136
各部の収納スペース	139
荷物を積み込む	141
点検整備	143
エンジンへのアクセス、レベル	143
バッテリー：	155
エアロパーツ	157
クリーニング	158
使用上のアドバイス	161
タイヤ	161
車両故障時の対処の仕方	172
ヘッドライト、ランプ: 電球の交換	178
ワイパーブレード: 交換	181
ヒューズ	182
オーディオ（標準装備）	185
アクセサリの取付けと使用	186
作動異常	187
テクニカルスペック	192
車両に関する情報	192
部品および修理	199
整備証明	200
防錆点検	206

要約

カードキー

1

「概要」の項を参照してください



カードは、ケースに収納されています。

1. すべてのドア／テールゲートのロック解除
2. すべてのドア／テールゲートのロック
3. リモート操作によるライトの点灯
4. リアラゲッジルームのロック / ロック解除。
5. 内蔵キー

カードで次のことができます:

- 開閉部（ドア、トランク、燃料充填口フラップ）のロック／ロック解除。
- 室内のライトを遠隔操作でオンにします。
- エンジンの始動➔83。

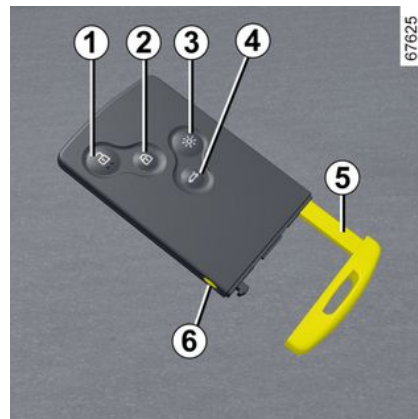
交換時期

電池の状態、タイプ、プラス/マイナスが正常かを確認してください。バッテリーの寿命は約2年ですので、「カードキー バッテリー低下」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されたら交換してください➔10。



バッテリー切れの状態でも車両のロック／ロック解除➔14、➔83は可能です。

カードキーの作動範囲



周囲の条件により異なります。知らずにルノーカードキーの施錠または解錠ボタンを押さないようご注意ください。



カードをケースに収納する場合、1、2、3、4のボタンがケースのマークと反対側になるようにカードを反転します。

内蔵キー5

内蔵キーを使用して、カードが機能しないときに左フロントドアをロックまたはロック解除できます:

カードキー

- カードキーの電池が消耗している、または切れている場合
- 使用しているカードキーと同じ周波数の機器を使用している場合。
- 強い電磁波の影響内に車両がある時。

キー 5 へのアクセス

カードをケースから抜き取ってください。ボタン**6**を押し、キー**5**を引いてからボタンを放します。

キーの使用方法

「ドアの施錠と解錠」の項を参照して下さい。

内蔵キーを使用して車内に入ったら、カードのケースにキーを戻します。

カードをケースに収納します。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**



アドバイス

カードを熱気、冷氣および湿気にさらさないでください。カードを曲がったり、誤って損傷したりする恐れのある場所に入れておかないでください。衣服の後ろポケットなどに入れると、そのまま座ってしまうことがあります。



カードの作り替え: 追加カードが必要

カードを紛失したり、カード交換が必要となった場合には、正規ディーラーにご連絡ください。カードを作り替える場合は設定を入れ替えますので、**お持ちのすべてのカード**と車両を正規サービス工場へお持ちください。1台につきカードは最大4枚までご使用いただけます。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**

カードキー

1

使用方法



67501

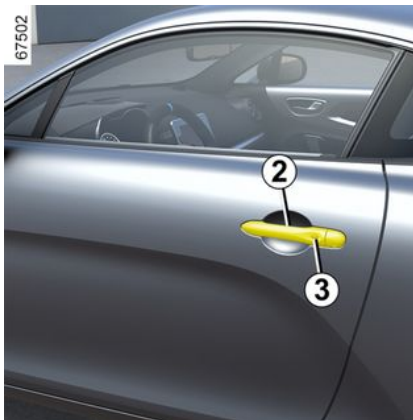
車両を施錠 / 解錠するには次の2つの方法があります:

- 「ハンズフリー」式カードキー、
- リモコンモードのカードキー。



カードを携帯する時、他の電子機器（コンピューター、電話など…）に接触しないようにして下さい。故障の原因となります。

「ハンズフリー」式カードキーの使用



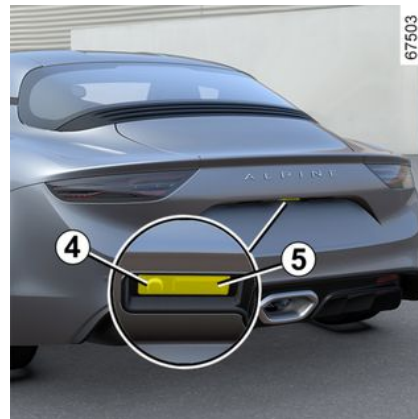
67502

車両のロック解除

カードをエリア1に入れ、車両を施錠し、いずれか1つのフロントドアのハンドル2のボタン3を押します。車両が解錠されました。

ボタン4またはボタン5を押すとトランクが開き、その他のドアが解錠されます。

解錠されると、ハザードランプとサイドマーカーが1回点滅します。



67503

注: ボタン3を押して解錠した後は施錠が抑制されるため、解錠後3秒間は再度車両を施錠することができません。



カードのボタンを押して車両またはラゲッジルームをロック/ロック解除すると、車を離れるときにロックされる機能とハンズフリーモードによるロック解除機能は作動しません。「ハンズフリー」機能を復旧するには、車両を再発進させます。

障害物

近くにリモコンと干渉する機器（外部設置、またはカードと同じ周波数を使

カードキー

用する機器)がある場合、リモコンは作動しないことがあります。

解錠システムの専用機能

非作動な状態が3日間続くと、ボタン3またはボタン4を押して解錠する機能は無効になります。リモコンを押すと車両のロックが解除し、モードが再作動します。



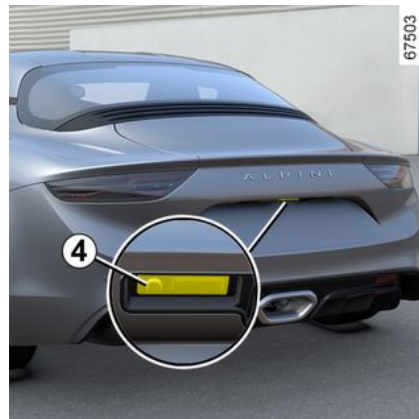
車両のロック

エリア1にカードを入れ、ドアとトランクが閉まっている状態でいずれかのフロントドアのボタン3を押すか、またはトランクルームのドアのボタン4を押します。車両が施錠されます。ロックされると、ハザードランプとサイドマーカーが2回点滅します。



ロックシステムの専用機能

ボタン3またはボタン4を押して施錠した後に車両を再度解錠するには、3秒間ほど待つ必要があります。この3秒間にドアハンドルに触って、車両が正しく施錠されているか確認することができます。



開閉部（ドア、トランク、ボンネット）が開いているか、完全に閉じていない場合、ボタン3またはボタン4を押して施錠すると、ハザードランプと方向指示灯が点滅せずに車両は施錠し、続いて素早く解錠します。

カードキー

1



67504

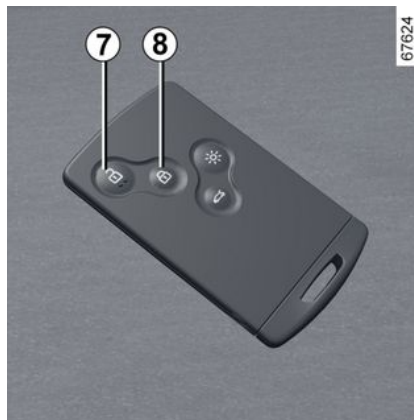
カードがエリア6内にあるときは、車両を施錠できません。

カードの検出不可能の警告音「ハンズフリー」

エンジン作動中にドアを開閉したときにカードキーがエリア6にない場合、インストルメントパネルに「カードキー 検出なし」のメッセージが15秒間ほど表示され、警告音が鳴ります。

カードがエリア6に再び置かれると、警告は消えます。

カードをリモコンとして使用する



67624

カードを使用した解錠

ボタン7を押します。

解錠されると、ハザードランプとサイドマーカーが1回点滅します。



エンジンが作動していると、カードのボタンは非作動になります。

カードキーを使用して車両を施錠する

ドア、トランク、ボンネットを閉じて、ボタン8を押します。車両は施錠されます。

ロックされると、ハザードランプとサイドマーカーが2回点滅します。

注: 車両を施錠できる最大距離は、周辺環境によって異なります。



カードキーを車内に置いたまま、決して車両から離れないでください。



アドバイス

スタンバイ時に車両の早期放電を防止するには、カードを車両から5メートル以上離してください。

カードキー



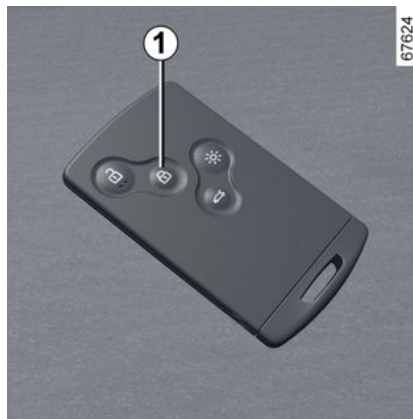
駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれがあります。

スーパーロック機能



スーパーロック装備車の場合、スーパーロック機能で開閉部をロックし、車内からドアを開けられないようにすることができます（ウインドーを割って内側からロック解除を試みる場合などに備えて）。



車内に人が乗っているときは、スーパーロック機能は絶対に作動させないでください。



カードキー仕様車

ボタン1を素早く2回押します。

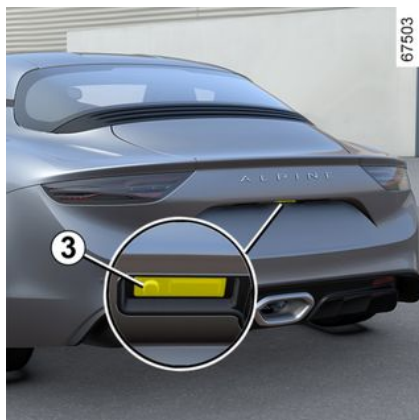
「ハンズフリー式」カード装備車

車両を解錠した状態では、運転席ドアのボタン2、そして助手席ドアまたはトランクのボタン3を続けて素早く押すこともできます。

どちらの場合でも、警告灯と方向指示灯が**ゆっくり2回、そして素早く3回**点滅して施錠を知らせます。

カードキー

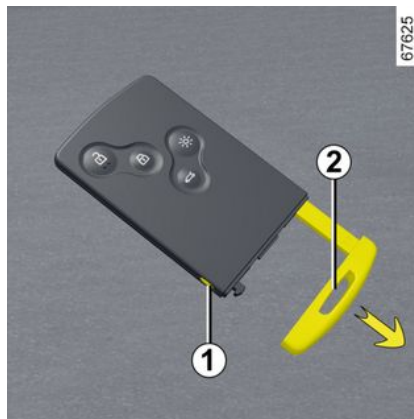
1



特徴：スーパーロック機能はハザードランプまたはスモールランプが点灯しているときは作動しません。

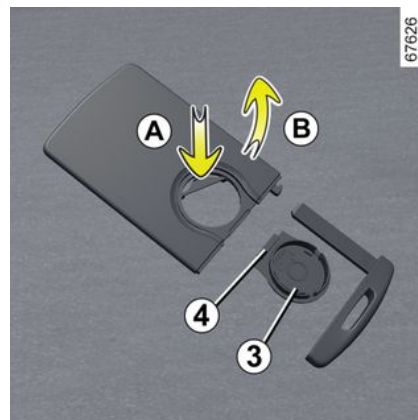
「ハンズフリー」カード: バッテリー

電池の交換



インストルメントパネルに「カードキー バッテリー低下」というメッセージが表示されたら、カードのバッテリーを交換をしてください。ボタン**1**を押しながらスペアキー**2**を手前に引き、タブ**4**を使用してカバー**3**を外します。

一方の側を押さえ（動作**A**）、他方を持ち上げる（動作**B**）ことにより、バッテリーを取り外し、カバー**3**の記載に従って、極性とモデルを確認して交換します。





取り付けは、取り外しと逆の手順で行い、車両付近でカードのボタンを4回押して下さい。次にエンジンを始動させたときに、警告メッセージは消えます。


カバーが確実にはまっているか確認してください。

注：電池交換の際は、カードの電子回路や端子に触れないようにしてください。

カードキー

 電池は指定サービス工場でお求めください。電池の寿命は約2年です。電池の液漏れがないか点検してください（液漏れがあると接触不良になるおそれがあります）。

 交換が必要な場合は、同じタイプまたは同等のタイプのバッテリーを使用してください（指定サービス工場にお問い合わせください）。

 交換時：
- バッテリーが正しく挿入されていることを確認してください。

爆発するおそれがあります。


- フラップが正しく閉まらない場合は、使用しないで子供の手の届かないところに置いてください。

作動異常

バッテリー残量が少なすぎて正常な動作が保証されない場合でも、車両の始動（カードリーダーへのカード挿入）とロック/ロック解除は可能です → 14。

26913



 使用済みのバッテリーをゴミとして捨てないでください。認定ディーラに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。



バッテリーに関する注意事項

- バッテリー（新品または中古）は子供の手の届かないところに保管してください。
- 電池を飲み込まないようにしてください。

死に至る可能性のある化学的なやけどの危険性があります。

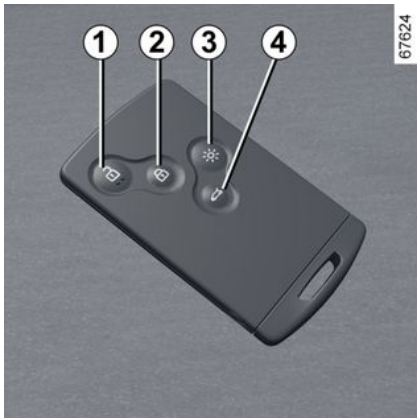
- 身体のいずれかの部分に摂取したり挿入した場合は、できるだけ早く医師に相談してください。

キー、リモコン

1

使用方法

ドアおよびラゲッジルームのロック解除



ボタン **1** を押します。
アンロックされるとハザードランプが **1 回だけ** 点滅します。

運転席ドアのみが解錠している場合:

- ボタン **1** を押すと、運転席側ドアとフューエルフラップのみが解錠します。
- ボタン **1** を2回押すと、ドアとトランクルームが解錠します。

ドアおよびラゲッジルームのロック

施錠ボタン **2** を押します。ハザードランプが2回点滅して、車両が施錠したことを知らせます。開閉部（ドア、トランク、ボンネット）のいずれかが開いていたり、正しく閉じていない場合、またカードがリーダーの中に入ったままの状態である場合、開閉部は施錠してから素早く解錠し、警告灯は点滅しません。

i エンジンが作動していると、カードのボタンは非作動になります。

ハザードランプの点滅によって車両の状態が分かります:

- **1 回点滅**した場合、車両は完全に解錠されています。
- **2 回点滅**した場合、車両は完全に施錠されています。

i 車両がロック解除されてもドアを開けずに2分経過すると自動的に再度ロックされます。

リアラゲッジルームのみの施錠 / 解錠

ボタン **4** を押すと後部トランクルームが施錠 / 解錠します。

注: ボタン **4** を用いてリアトランクのみのロックを解除した後にはその他開閉部のロックを解除するには、次の操作が必要です。

– ボタン **1** を押します。

または

– 車両から離れる際の自動ロックを作動させるためには、車両から離れる動作。この場合、車両に近づくと再びロックが解除されます。

検出不可能の警告音: カード

エンジンがオンのときにドアを開いた状態で、カードがリーダーにない場合、警告のピープ音を伴って「カードキー 検出なし」のメッセージが表示されます。カードを再びリーダーに入れると音声アラームは停止します。

「灯火類リモコン」機能

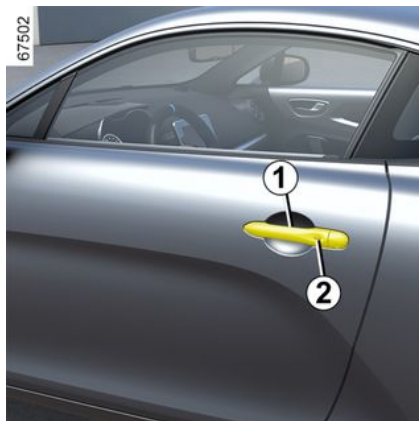
ボタン **3** を押すと、外部ランプおよびルームランプが約30秒間点灯します。この機能は、広い駐車場の中などで自分の車を遠くから見分けるときに便利です。

注: ボタン **3** を再度押すと消灯します。

ドアと開閉部

ドアの開閉

車外からドアを開く



フロントドア

ドアを解錠するには、ハンドル**1**を引きます。

「ハンズフリー」カードキーの特徴

ドアを施錠した状態で、いずれかのフロントドアのハンドル**1**のボタン**2**を押して、ハンドルを手前に引きます。

車内からドアを開けるとき



ドアハンドル**3**を引きます。




ドアを閉めるとウインドーも閉まります。
大ケガを負う危険があります。



安全のために、ドアやラゲッジルームの開閉は必ず停車した状態で行ってください。

ドアまたはテールゲートの締め忘れ警告ブザー

開閉部（ドア、トランク、またはボンネット）が開いているか、完全に閉じていない場合、インストルメントパネ

ルに  警告灯が点灯します。車両が約10 km/hに到達するとすぐに、インストルメントパネルに「テールゲート開」または「ドア 開」のメッセージ（開閉部に応じて）がビープ音とともに表示されます。

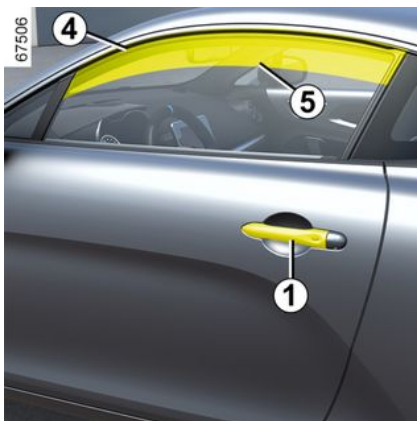


いずれかのドアを開く度に、ドアの動きをスムーズにするためにウインドウが数センチ開きます。ドアを閉めると再度ウインドウが閉まります。ドアを開くときに結氷や雪でウインドーが開かない場合は、ドアを閉める前に、ウインドーが動くように必ず結氷や雪を取り除いてください。

バッテリーの接続を外す場合は（故障など）接続を外している間ドアの開閉をしやすいように、ウインドーを下げてください。

ドアと開閉部

ライト消し忘れ警告アラーム音



ドアを開けたとき、イグニッションスイッチがOFFなのにランプ類が点灯したままになっている場合、警告ブザーが鳴ります。

カード抜き忘れ警告ブザー

運転席側ドアを開けたときにリーダーにカードが残っている場合には警告音が鳴り、インストルメントパネルに「カードを抜いてください」のメッセージが表示され、ビープ音が鳴ります。

作動異常

バッテリー上がりの時:

- ドアを開けるには: ハンドル1を引き、シール4が損傷しないように注意してドアを開きます。
- ドアを閉じるには: ドアがシール4の下を通るようにハンドル1を使用してドアを支えながらウインドウの上部(ゾーン5)を押し、ドアを慎重に閉じます。

パワーウインドーが故障した場合

ドアが開いている時ウインドウが下がらず、ドアを閉めた時にウインドウが閉じない場合。この場合、ウインドウを完全に閉じるには、パワーウインドウスイッチを6回連続して引きます。

ドアを閉めるには、「バッテリーの不具合が生じた場合」の項に記載される説明に従います。



ウインドーを押してドアを閉めないでください。ゾーン5では、指をあまり上の方に置かないようにしてください。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**

開閉部およびドアのロック、ロック解除

車外からのドアのロック/ロック解除

これはカードキー→4を使って行います。

次のような場合には、カードキーが作動しないことがあります:

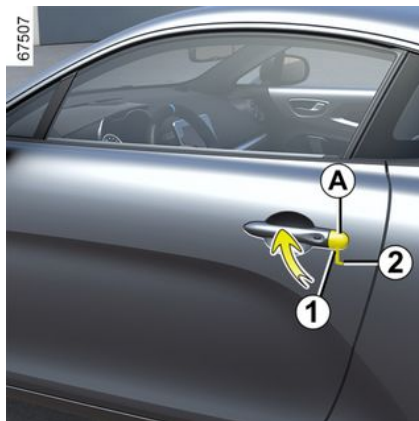
- カードキーの電池が消耗している、または切れている場合
- カードと同じ周波数で作動する機器を使用する場合(携帯電話など)。
- 強い電磁波の影響内に車両がある時。

ドアと開閉部

このような場合は次のようにします：

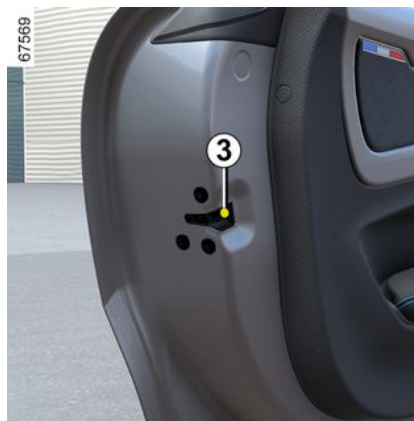
- － カードに内蔵されたキーを使用して左フロントドアを解錠します。
- － 各ドアを手動でロックする
- － ドア内側のロック／ロック解除制御装置を使うこと。

カード内蔵キーの使用法



- － キー2の端をノッチ1に挿入して、左側のドアからカバーAを取り外します。
- － これを上方向に持ち上げてカバーAを外します。
- － キー2を鍵穴に差し込み、左フロントドアを施錠または解錠します。

手動によるドアのロック



ドアを開き、ボルト3を回して（内蔵キーの先端を使用）ドアを閉めます。これでドアを車外からロックできます。

この場合、ドアは車内から開けるか、左フロントドアをスペアキーによってのみ開けることができます。

車内のロック／ロック解除スイッチ



スイッチ4は、ドア、トランクおよび車両によってはフューエルフラップを同時に制御します。

開閉部（ドア、トランク、またはボンネット）のいずれかが開いたままか、完全に閉じていない場合、ロックした後すぐにロック解除します。

トランクを開けたまま荷物を運ぶことが必要な場合でも、他のすべての開閉部を施錠することができます：**エンジンをオフにした状態でスイッチ4を5秒間以上長押しして、他のすべての開閉部を施錠します。**

ドアと開閉部

カードを使わずにドアをロックする

電池が消耗したり、カードが一時的に作動しなくなったなどの場合。

イグニッションをオフにし、ドアまたはラゲッジルームを開いた状態で、スイッチ 4 を長押しします。

次にドアを閉めると、全ての開口部がロックされます。

車両がアクセスゾーン内にある場合は、カードを使用する、またはカードに内蔵されたキーを使用しないと、車両の外からロック解除はできません。



カードのボタンを押して車両またはトランクルームを施錠 / 解錠すると、「ハンズフリー」の施錠と解錠機能は作動しません。

「ハンズフリー」機能を復旧するには、車両を再発進させます。

ドアのロック状態を告げる警告灯

イグニッションスイッチをオンにすると、スイッチ 4 に内蔵された指示灯により、ドアの施錠状態を知ることができます。

– 警告灯が点灯している場合は、ドアとテールゲートがロックされています。

– 表示灯が消えているとき、ドアはロック解除されています。

ドアをロックすると警告灯が点灯し、その後消灯します。



カードキーを車内に置いたまま、決して車両から離れないでください。



ドライバーの責務

ロックしたままの走行は、緊急の場合に乗員の救出が困難になる恐れがあります。

車速感応式オートドアロック

作動原理



車両の始動後に速度が約 10 km/h になると、ドアは自動的にロックされます。

ロックの解除：

- ドア解錠ボタン 1 を押します。
- 停止時に、いずれかのドアを開けます。

注: ドア開閉後も、車速が約 10 km/h 以上になると、ドアは自動的に再ロックされます。

ドアと開閉部

機能の起動／作動解除

エンジンを稼働した状態で、ボタン1をピープ音が聞こえるまで5秒間ほど押します。

作動異常

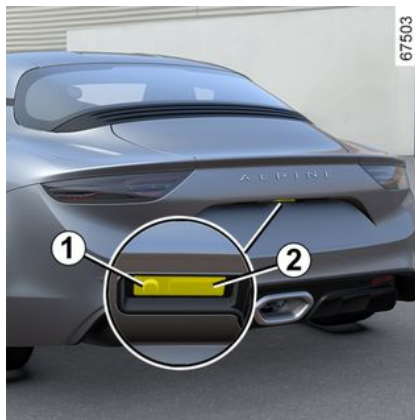
操作不良が発生した場合（自動施錠しない、ドアを施錠するときにボタン1に統合されている警告灯が点灯しないなど）。まず、ドアが適切に閉じていることを確認します。ドアがしっかりと閉まっているのにオートドアロックが作動しない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。



ドライバーの責務

ロックしたままの走行は、緊急の場合に乗員の救出が困難になる恐れがあります。

トランク



開け方

ボタン2を押して、テールゲートを開きます。テールゲートを最大の高さまで上げてラゲッジルームを使用します。

注: 車両がロックされている場合は、ボタン1または2を押してロックを解除し、テールゲートを開きます。

閉めるには

トランクリッドを下げます。テールゲートを押して下げてしっかりと閉めます。



エンジンルームと近いため、エンジン停止後はラゲッジルームの温度が50°Cに達する場合があります。

ます。

– エンジンルームに近い熱い部分には触れないように注意してください。**やけどをするおそれがあります。**

– エアゾールなどの高温に敏感な可燃物をラゲッジコンパートメントに置かないでください。**火災や爆発の危険があります。**

– 高温に弱い物を置くときは注意してください。**損傷のおそれがあります。**



テールゲート上へのルーフキャリア（バイクラック、ラゲッジボックスなど）は禁じられています。

す。お使いの車両に運搬装置を取り付けたい場合は、認定ディーラにご相談ください。

フロントシート

1



調整機能の有無と数は車両およびシート
のタイプに応じて異なります。


マニュアル調節式フロントシート


前後方向の調節


ハンドル**1**を上げてシートのロックを
解除します。選択した位置でハンドル
を放し、きちんとロックされたことを
確認します。

上下方向の調整。

レバー**2**を必要な回数だけ上げ下げし
ます。

 車両にシート高さ調整ス
イッチが搭載されていない
場合は、高さ調整を行うに
はルノー正規サービス工場に連絡
する必要があります。

 背もたれが調節後に正し
くロックされることを確
認します。

 安全のために、この操作
は必ず停止時に行ってくだ
さい。
床の上（運転席の前）に
は物を置かないようにしてくだ
さい。急ブレーキが必要なときに、
ペダルの下に物が滑り込んで急ブ
レーキを踏む妨げになる危険があ
ります。

背もたれを傾ける



制御ノブ**3**を回して背もたれを希望す
る傾きの位置に調整します。



背もたれを後方に傾けず
ぎると、シートベルトの
効果がなくなるおそれか
ありますのでご注意ください。

フロントシート ヒーターシート



イグニッションオン:

- 該当するシートのスイッチ**4**を**初めて押す**と、暖房が「高」に設定された状態でシステムが作動します。スイッチに内蔵されている両方の警告灯が点灯します。
- スwitchを**もう一度押す**と、ヒーターが低温に変わります。1つの一体型警告灯が点灯します。
- **3回目に押す**とヒーターがオフになります。

作動異常

動作不良が検出されると、該当するシートのスイッチ**4**に内蔵されている警告灯が点滅します。正規サービス工場にご連絡ください。

シートベルト

安全のため走行時には必ずシートベルトを着用してください。また各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。



シートベルトの調節が正しく行われていなかったり振れたりしていると、事故などが起こった場合に負傷を最小限に抑えられない危険があります。

シートベルトは1人（大人でも子供でも）につき1つご使用ください。

妊娠中の方も必ずシートベルトを着用してください。この場合には、ラップベルトの余分な遊びをなくし下腹部に圧力がかかり過ぎないように注意します。

エンジンを始動させる前にまずはドライビングポジションの調整を行い、次に最大限の安全を確保するべく全乗員のシートベルト位置を調整します。

ドライビングポジションの調節

－ シートに深く腰掛けます（コートやジャケットなど脱ぐこと）。必ず、背中が正しい位置になるようにお座りください。

－ シートベルトとペダルの位置を調節します。ペダルを深く踏み込める位置を確認し、それより後方にスライドしないようにしてください。背もたれは、ハンドルを握って肘を軽く曲げた状態を保てる角度に調節します。

－ 調整するか、調整スイッチが装備されていない車両の場合は、指定ディーラーにシートの高さを依頼してください。この調節を行うことで、運転中の視界が良好に確保できます。

－ ステアリングポジションを調節します。

シートベルトの調節



どの座席のシートベルトについても調整と位置決めを正しく行うには、次のように対応してください。

－ シートを調整します（使用可能な場合、シートの位置とシートバック角度）。

－ 背もたれに背中が密着するように深く座ります

－ 肩ベルト **1** を、首の付け根に限りなく近く、首には触れない位置まで動かし（必要であればシートベルトの高さも調整し）、肩ベルト **1** が肩に当たっているか確認します。

－ 腰ベルト **2** が腰骨に当たり、腿の上に平らに配置されるようにします。

シートベルトはできるだけ体に密着するように着用する必要があります。

ロック



ベルトをゆっくりと、勢いをつけずに引き出し、バックル **3** をシートベルト

シートベルト

キャッチャー **5** 内にロックします
(バックル **3** を引っ張ってロックを確認します)。

ベルトが引っかかった場合は、いったんベルトを大きく戻し、再度引き出してください。

ベルトが完全に動かない場合は、ゆっくり強く引いて、約 3 cm 引き出します。ひとりでに巻き戻されるままにし、次に再び引き出します。


不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。



運転席と助手席（車両タイプによります）シートベルト締め忘れ警告灯

運転席または助手席のシートベルトが固定されていない場合、イグニッションが ON になったときに、これがインストルメントパネルに表示されます。

車両によっては、シートに人が座っていて、車両が約 20 km/h を超える速度で走行している状態で、シートベルトのいずれかが締められていない状態が外された状態になると、約 120 秒にわ

たり、 警告灯が点滅し、警告音が鳴ります。

注: 車両によっては、助手席に荷物などが置かれていると、警告灯が作動することがあります。

ロック解除方法

ボタン **4** を押すと、シートベルトは慣性リールにより巻き取られます。手を添えてください。



- 初めから車両に取り付けられている拘束システム部品（シートベルト、座席、固定具）は絶対に改造しないでください。特別な場合には（たとえば、チャイルドシートの取り付けなど）、指定サービス工場にご相談ください。
- シートベルトをたるませるためにキャッチの中にピンやクリップなどを突っ込んだり取り付けしないでください。緩すぎるシートベルトは万一の事故の際に大変危険です。
- 絶対に胸部ベルトを腕の下や背中に回さないでください。
- 同じシートベルトを複数の人間で使わないでください。乳幼児やお子様を膝の上に乘せてシートベルトを装着しないでください。
- シートベルトを着用するときは、ねじれないように注意してください。
- 車両が事故にあった後は、シートベルトの交換が必要かどうかを指定サービス工場ですべて確認してください。また、明らかに損傷がある場合はシートベルトを交換してください。

シートベルト

1

- シートベルトのタングプレートは対応するバックルに差し込んでください。
- シートベルトのロック部分に異物が挟まっていないか確認してください。ベルトの機能を妨げる可能性があります。
- 固定ブロックが適切な位置にあることを確認してください。（人や物によって隠れたり、つぶされたり、押さえられたりしてはいけません。）

補助の安全装置

フロントシートベルト補助拘束装置

車両に応じて、次の部品で構成されています：

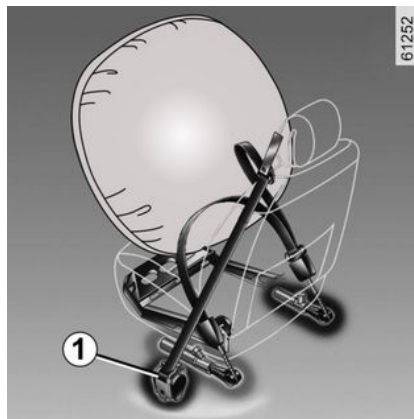
- フロントシートベルトリトラクタープリテンショナー；
- 胸部フォースリミッター、
- airbags 運転席および助手席フロント。

これらのシステムは正面から衝撃があった際に、独立または連動して作動します。

衝撃の強さに応じて、システムは次のように作動します。

- シートベルトをロックする。
- 慣性リールシートベルトプリテンショナーを作動させ、シートベルトのたるみをなくす。
- airbags。

シートベルトプリテンショナー



プリテンショナーには、シートベルトを体に密着させることで乗員をシートに固定し、シートベルトの効果を高める働きがあります。

イグニッションスイッチがONの状態 で前方から強い衝撃を受けると、衝撃の強さに応じて、システムは、慣性リールシートベルトプリテンショナー **1** を作動させ、即座にシートベルトを巻き込みます。



- 万一車両が事故にあった場合は、指定サービス工場 で全拘束装置の

点検を受けてください。

- システムの一切の部品（プリテンショナ、airbags、コントロールユニット、配線）に手を加えないでください。システムの構成部品は同じモデルであるとしても絶対に別の車両で再利用しないでください。

- システムが誤って作動してケガをする恐れがありますので、プリテンショナとairbagsの修理点検は必ず資格のある作業員が行うようにしてください。

- プリテンショナーの起動装置の電気系統に関する点検修理は、特別にトレーニングを受け、専用の機器を用意している指定サービス工場にお任せください。

- 車両を廃車にする場合は、プリテンショナのガス発生器およびairbagsの廃棄について指定ディーラーにご連絡ください。

補助の安全装置

1 ベルトフォースリミッター


ベルトフォースリミッターは、衝撃が一定以上加わると、限度内においてベルトを伸ばし、体に加わる衝撃を緩和します。

運転席および助手席フロント Airbags

運転席と助手席の正面に設置されています。

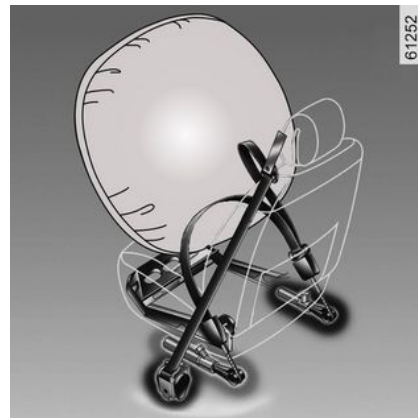
この装備が搭載されていることは、ステアリングホイールとダッシュボード（airbagのゾーンA）の「Airbag」マークによって表示されます。また、車両に応じて、フロントウインドウ下部のラベルによって示されます。

airbagシステムは次のコンポーネントで構成されています：

- airbagおよびガス発生器は、運転席のステアリングホイール、助手席のダッシュボードに取り付けられています。
- ガスジェネレーターの電動イグナイター制御システムを制御する電子制御ユニット
- 制御表示灯  が、インストルメントパネルにひとつだけあります。



airbagシステムは着火の原理で作動します。このため、エアバッグが膨らむと加熱して発煙（火災が起こるわけではありません）、起爆のような音が鳴ります。airbagの展開が必要な状況下では、瞬時に膨張するため、これにより肌の軽い擦りむきなどが生じることがあります。



作動

このシステムは、イグニッションスイッチがONのときのみ作動します。


正面から激しい衝撃を受けるとairbagsは素早く膨張し、ステアリングホイールに対するドライバーの頭部と胸部の衝撃、およびダッシュボードに対する助手席の乗員の衝撃を緩和します。また、膨張したエアバッグは衝撃後にすぐに収縮するため、車両から脱出する際の妨げになりません。

補助の安全装置

作動異常



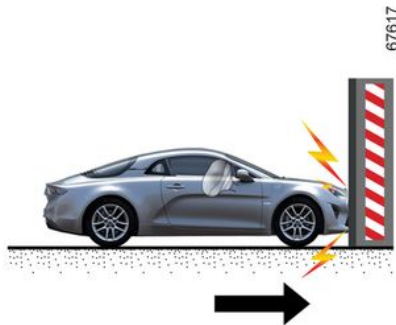
イグニッションスイッチをオンにすると、インストルメントパネルに警告灯

2  が点灯し、数秒後に消えます。

イグニッションスイッチをオンにしても警告灯が点灯しない、あるいはエンジンが始動しても点灯したままである場合、これはシステムに不具合があることを示しています。

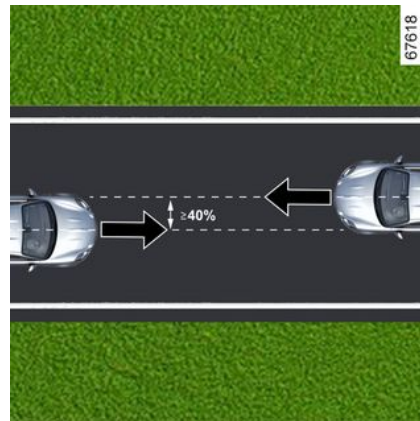
できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

点検整備が遅れると、万一の事故の際に十分な乗員保護効果が得られない恐れがあります。



次のようなケースでは、プリテンショナまたはairbagsがトリガーされます。

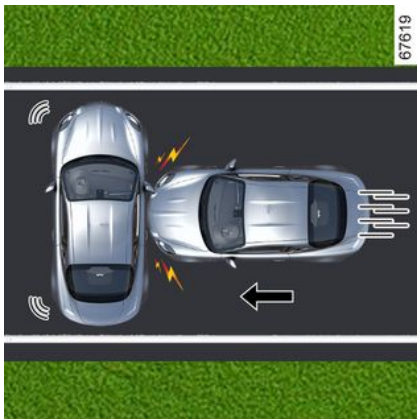
25 km/h 以上の衝撃速度での硬質表面（変形していない）に対する正面衝突。



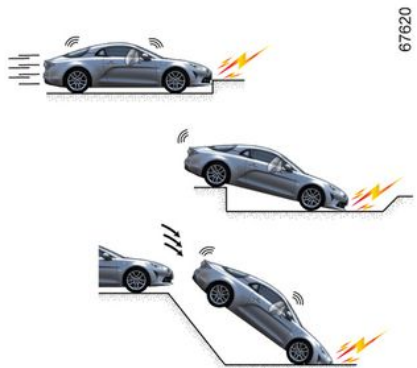
自車両の同等以上のカテゴリーに属する他車両と正面衝突した場合に、衝突面積が40%以上で、両車両の速度が40 km/hを超えている場合。

補助の安全装置

1



同等またはそれ以上のカテゴリーの他の車両との側面衝突時に、衝突速度が 50 km/h を超える。



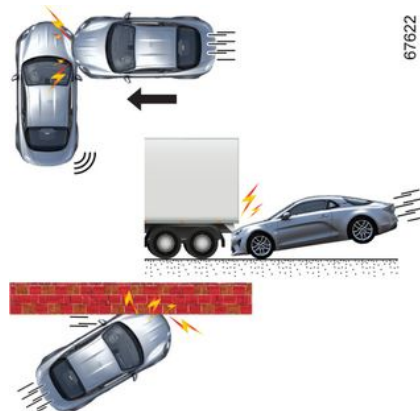
プリテンショナまたはairbagsは、以下のような場合にトリガーされることがあります。

- (舗装縁石に乗り上げたなどにより) 車両底部に衝撃が及んだ場合。
- 穴
- 落下または衝撃を伴う落下
- 石
- ...



以下のような場合には、プリテンショナまたはairbagsがトリガーされないことがあります。

- 車両後方からの激しい衝突の場合。
- 車両の転倒



- 車両の前方または後方で側面から衝突された場合。
- ローリーのテール下で前方から衝撃を受けた場合。
- 鋭い角度の障害物に対する前部衝突
- ...

下記のすべての警告は、airbagが膨張するときにこれを妨げるものが一切ないようにすることを意図しています。また、膨張時に何かが飛び出ることによって重大な負傷が起こる危険を防止する目的もあります。

補助の安全装置



ドライバーのairbag

- ステアリングホイールやボスを絶対に改造しないでください。
- どんな状況においてもステアリングホイールボスに物を被せないでください。
- ステアリングホイールボスには異物（ステッカー、ロゴマーク、時計、スマホホルダーなど）を着けないでください。
- ステアリングホイールを絶対に取り外さないでください（指定サービス工場の技術者以外は絶対に行わないでください）。
- 運転時にステアリングに近づき過ぎないでください。腕を少し曲げた状態になるように運転席を調節します（1章の「運転席およびシートの調整」の項を参照）。こうすることで、エアバッグが展開するのに十分な空間が確保され、エアバッグの効果が正しく発揮されます。

助手席の乗員に関連する警告 airbag

- ダッシュボード上またはairbag付近に一切のもの（ステッカー、ロゴ、時計、携帯電話ホルダーなど）を取り付けたり、貼り付けたりしないでください。
- ダッシュボードと乗員の間には何も（ペット、傘、杖、缶、箱など）置かないでください。
- ダッシュボードの上またはシートの上に足を置かないでください。不安定な姿勢をとっていると、万一の事故の際、大ケガをするおそれがあります。また、乗車中はダッシュボードから頭や膝、腕などをできるだけ離してください。
- 衝突時の乗員保護のため、チャイルドシートを取り外したら、すぐに助手席エアバッグシステムを作動させてください。

チャイルドシートを助手席に後ろ向きに設置するときは、必ずフロントシートベルト補助拘束装置を解除してください

（1章の「お子様の安全: 助手席airbagの解除、作動」の項を参照してください）。

乗員補助拘束システム

下記のすべての警告は、airbagが膨張するときにこれを妨げるものが一切ないようにすることを意図しています。また、膨張時に何かが飛び出ることによって重大な負傷が起る危険を防止する目的もあります。

補助の安全装置

1



airbagはシートベルトの機能を補完するためのものです。airbagとシートベルトはどちらも同じ乗員保護システムにおいて不可欠な構成部品です。従って、シートベルトは必ず常時着用してください。シートベルトを着用しないと、事故の際に乗員が重傷を負う恐れがあります。airbagが展開する際には皮膚表面に軽い負傷が生じる危険を高めるものではありませんが、このような軽い負傷はエアバッグに常に伴うリスクです。転倒や後面衝突の際は、激しくても必ずプリテンショナーやairbagsが作動するわけではありません。歩道への乗りあげ、車道の穴、石などによる車両の下からの衝撃によってエアバッグが展開してしまうことがあります。

- airbagのすべての部位（airbags、プリテンショナー、コントロールユニット、配線ハーネスなど）の修理や変更は**固く禁じられています**（ネットワークの有資格者を除き）。

- システムを正常な状態に保ち誤作動を避けるためにも、ネットワークからの有資格者以外はairbagシステムでの修理を行わないでください。

- 安全のため、事故や盗難にあった場合には、airbagシステムの点検を受けてください。

- 車両を販売または貸出する際には、この車両ユーザーマニュアルを引き渡す際に、これらの条件を新しい購入者に知らせてください。

- 車両を廃棄処分にする場合、エアバッグやプリテンショナーの起動装置に内蔵されたガス発生器を処理する必要があります。指定サービス工場にご相談ください。

子供を乗車させるとき

「概要」の項を参照してください

お子様を乗車させるとき

各国の法規を確実に遵守してください。

走行中は（たとえ短距離走行でも）、子供も、大人と同様に正しく着座し、身体を固定する必要があります。お子様を乗車させるときは、お子様の安全が確保されるように気をつけてください。

子供は大人の小型版ではありません。子供の筋肉や骨は成長期にあるため、特殊なケガをする危険にさらされています。お子様を乗車させるときは、シートベルトだけでは十分ではありません。適切なチャイルドシートを正しくご使用ください。



通常車速 50 km/h で衝突した場合、乗員は 10 m の高さから落ちたときと同じくらいの衝撃を受けます。したがって、子供をチャイルドシートに着座させないで走行することは、地上 4 階の手摺のないベランダでお子様を遊ばせているようなものなのです。絶対にお子様を抱いて乗車しないでください。事故の場合、たとえお客様がシートベルトを締めていてもお子様を保護することはできません。走行中に車両が事故に巻き込まれた場合は、チャイルドシートを交換しシートベルトを交換します。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**

チャイルドシートの使い方

チャイルドシートが提供する保護レベルはチャイルドシートがお子様を支える容量と取付け方によって異なります。取付け方が悪いと、急ブレーキをかけたときや衝突時にお子様を保護することができません。

チャイルドシートを購入する前に、国の法規に適合していること、またお車に取付けられることを確認してください。お車に合ったチャイルドシートをお探しの場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

お子様の移動に関する規則は、各国に固有です。移動中のチャイルドシート

子供を乗車させるとき

の使用は、お子様の年数および / またはサイズおよび / または体重によって異なります。チャイルドシートで移動する必要のないお子さまの場合、シートベルトが正しく調整され、締められていることを確認してください。あらゆるケースで、各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

チャイルドシートは、取扱説明書を読み、その内容に従って取り付けてください。取付け中に問題が発生した場合は、機器のメーカーまでお問い合わせください。取扱説明書はチャイルドシートと一緒に保管してください。



シートベルトを締めるところをお子様に見せて、お子様に次のことを教えてください：

- 正しく取り付けること。
- 必ず、車道とは反対の歩道側から乗降すること。

中古のチャイルドシートや取扱説明書がない場合には使用しないでください。

チャイルドシートの中や近くに取付けの邪魔になるものがないか気をつけてください。



お子様を乗車させるときは、絶対にお子様から目を離さないでください。

お子様の身体が常にしっかり固定されていること、またハーネスやベルトが正しく調整されていることを確認してください。衣服が厚すぎるとベルトがたるんでしまいます。お子様を乗車させるときはこのような衣服は避けてください。詳細については、1章の「シートベルト」の項を参照してください。

お子様が窓から頭や手を出さないように気をつけてください。走行中は、お子さまがチャイルドシートに正しく着座していることを常にご確認ください（とくにお子さまが眠っているとき）。

チャイルドシートの選択



後ろ向きに取り付けるチャイルドシート

乳児の頭は大人に比べ身体の割りに重く、首は衝撃に大変弱いので気をつけてください。お子様を乗車させるときは、できるだけ長い期間（少なくとも2歳まで）チャイルドシートを後ろ向きに取り付けてください。この向きだと頭部と首が保護されます。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。また、お子様の頭がチャイルドシートからはみ出さないうちに交換してください。

子供を乗車させるとき



前向きに取り付けるチャイルドシート

体重18 kgまたは4歳までは、お子様を前向きに座らせて走行することができます。

お子様のサイズに合わせてシートを選択してください。頭と腹部を最も保護する必要があります。前向きに取り付けるチャイルドシートを車両にしっかり固定すれば、頭に衝撃が加えられる危険性が減ります。お子様を乗車させるときは、身長が使用可能な範囲内である限り、ハーネス付きの前向きに取り付けるチャイルドシートに座らせてください。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。



ブースタークッション

体重が15 kg（または4歳）になったら、シートベルトを身体に合わせることでできるブースタークッションが使用できます。シートベルトがお客様の腹部ではなく腿の上にくるようにするガイド付きのブースタークッションを使用してください。シートベルトが肩の中央にくるように、ベルトガイド付きの高さ調整可能な背もたれをお勧めします。シートベルトは絶対に首や腕にかからないようにしてください。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。

チャイルドシートの取付け方法の選択

シートベルトによる取付け

シートベルトは、急ブレーキをかけたときや衝突時に正常に作動するように、正しく調整してください。

チャイルドシートのメーカーによって指示されたベルトの通し方を守ってください。

チャイルドシートを押しながら、まずシートベルトの上部を引き、次にシートベルトをできるだけぴんと張ってシートベルトがしっかり締まっていることを必ず確認してください。

チャイルドシートを前後左右に動かして正しく取付けられているか確認します：チャイルドシートはしっかり固定されていなければなりません。

チャイルドシートが斜めに取り付けられていないか、またウインドウに当たっていないか確認してください。



チャイルドシート拘束用シートベルトが緩む危険がある場合はチャイルドシートを使用せず、設置する場合には、シートクッションがシートベルトのバックル／ストライカーの妨げとならない位置に設置してください。

子供を乗車させるとき

1



シートベルトは絶対に緩めたりねじったりしないでください。シートベルトは絶対に腕の下や背中後ろを通さないでください。シートベルトが鋭角部によって損傷していないか確認してください。シートベルトが正常に機能しないと、お子様を保護することができません。メーカーにお問い合わせください。シートベルトを修理するまでは、この座席は使用しないでください。



初めから車両に取り付けられている拘束システム部品（シートベルト、座席、固定具）は改造しないでください。



前向きに取り付けるチャイルドシートの背もたれが車両のシートの背もたれに当たっていることを確認してください。この場合チャイルドシートは必ずしも車両のシートクッションの上に置かれているわけではありません。

チャイルドシート

チャイルドシートの取り付け、 一般情報

一部の座席にはチャイルドシートを取り付けることができません。図と取付け表は、チャイルドシート ➡ 34 を取り付ける位置を示しています。

言及されたタイプのチャイルドシートはお求めになれません。他のチャイルドシートを使用する場合は、お車に取り付けられるかどうか事前にメーカーに問い合わせてください。



チャイルドシートやお子様の足が、フロントシートの正しいロックを妨げていないかご確認ください

い➡ 18。

チャイルドシートがしっかり車両に取り付けられており、外れるおそれがないことを確認してください。

チャイルドシートは、使用しないときでも必ず車両に取り付けてください。固定されていないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に飛び出すおそれがあり危険です。

フロント

子供を助手席に座らせる場合の規定は、国によって異なります。現行の規定を確認し、図および取付け表 ➡ 34 の説明に従ってください。

チャイルドシートを助手席に取り付ける前に（認可されている場合）：

- シートベルトを一番下まで下げます。
- シートを一番後ろまで引きます。
- ほぼ直立するまでシートバックを上げます。
- シートクッションの高さを一番高くします（高さ調整機能装備車の場合）。

チャイルドシートを取り付けた後に、必要に応じて車両のシートを移動できます。後ろ向きのチャイルドシートについては、ダッシュボードに接触したりシートを最も前に出した位置にしないで下さい。

チャイルドシートを取り付けた後で、上記の調整を変更しないでください。



死亡または重傷の危険あり：チャイルドシート
は、必ず、airbag が無効化 ➡ 40 されているか確認してから助手席に取り付けてください。

チャイルドシート

1

シートベルトによる取付け

下表は、現行の規制に従うために必要な、取付け図上の情報をまとめたものです。

チャイルドシートのタイプ	子供の体重	フロントシート助手席			
		airbag 無効化		airbag 有効化	
		シート調整 (3) あり	シート調整 (3) なし	シート調整 (3) あり	シート調整 (3) なし
横置き乳児用シート グループ 0	< 10 kg 未満	X	X	X	X
後ろ向き乳児用シート グループ 0 または 0+	< 10 kg まで、および < 13 kg まで	U (1) (2)	X	X	X
ベビーシート／後ろ向き チャイルドシート グループ 0+ および 1	13 kg 未満および 9 ~ 18 kg	U (1) (2)	X	X	X
前向き取付けチャイルド シート グループ 1	9 ~ 18 kg	X	X	U (2)	X
シートリフター グループ 2 および 3	15 ~ 25 kg および 22 ~ 36 kg	X	X	U (2)	X



(1) 死亡または重傷を負う危険があります: チャイルドシートを助手席に取り付ける前に、必ずairbag作動解除
→ 40が行なわれているか確認して下さい。

X= この種類のチャイルドシートの取付けに適さないシート。

チャイルドシート

U=「ユニバーサル型」の認可チャイルドシートはシートベルトで取り付けことができます。正しく取り付けを確認してください。

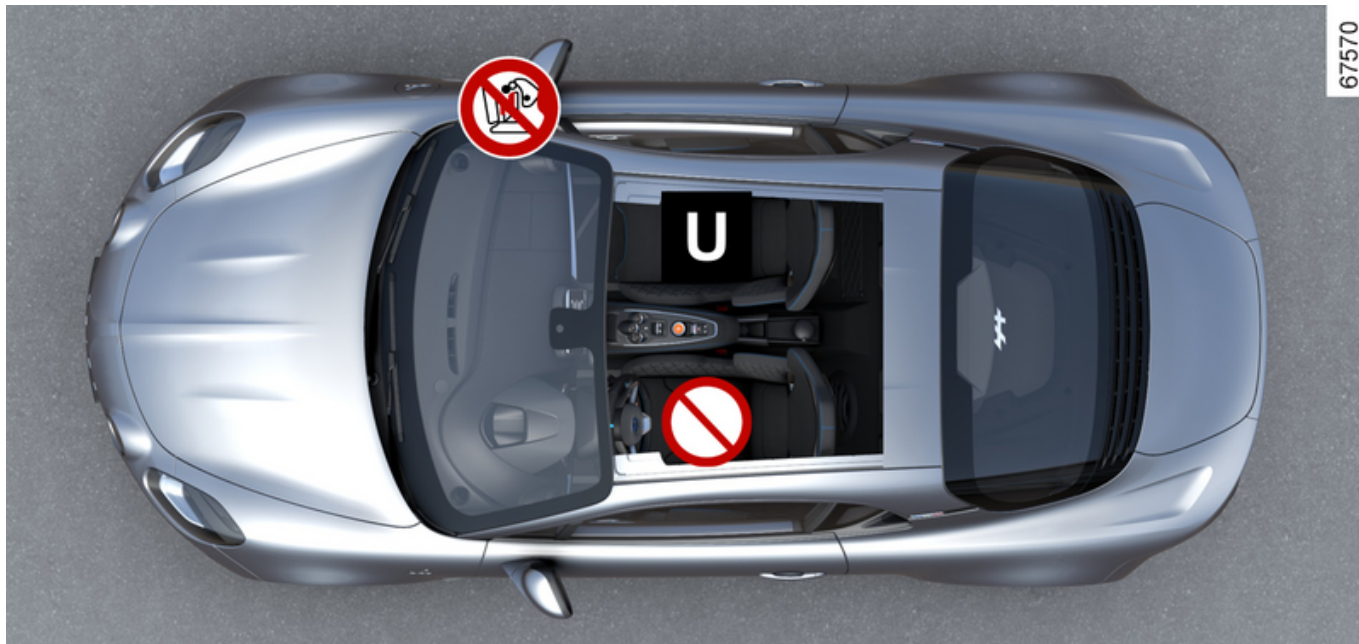
(2) シートを最大限に上げ、できるだけ後ろに配置し、ほぼ直立するまで背もたれを起こします。

(3) 助手席では、チャイルドシートを取り付けるには、シートを前後に移動するスイッチとシートクッションを上下に移動するスイッチが装備されている必要があります。

チャイルドシート

1

シート調整装備車両での取付け図



67570



死亡または重傷の恐れあり: 後ろ向きチャイルドシートを助手席に取り付ける場合は、その前に、助手席airbagが無効化されているか必ずご確認ください➡ 40。

チャイルドシート

1



お車に適合しない子供用セーフティーシステムを使用した場合には、お子様（または赤ちゃん）を正しく保護することができません。このような場合には、死傷や重傷を負う危険があります。



乗員が着座する前またはチャイルドシートを取り付ける前に airbag の状態を確認してください。



チャイルドシートの取り付けが禁止されている座席。



シートベルトを用いて「汎用」認定チャイルドシートを取り付けられるシート。

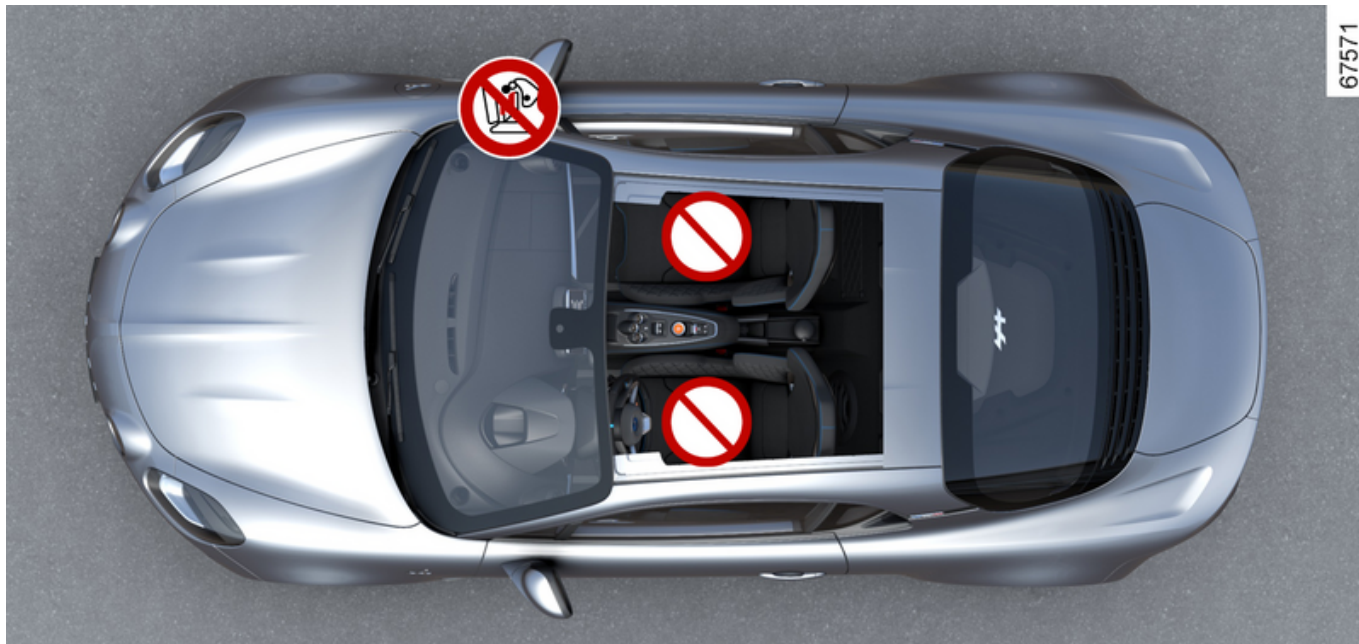


お子様の身体が常にしっかり固定されており、使用中の安全ハーネスやベルトが正しく設置および調整されているか確認してください➡ 20。
必要に応じて、シートの位置を調整します。


チャイルドシート


1

シート調整非装備車両での取付け図



67571

 乗客を着席させる前に airbag の状態を確認してください。

 チャイルドシートの取り付けが禁止されている座席。

チャイルドシート



このチャイルドシートは適応しないため、シートベルト装備の助手席に絶対に取り付けしないでください。

1

お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

1

警告



助手席airbagの作動解除
や作動は、車を停車して
イグニッションをオフに
してから行ってください

助手席エアバッグ作動解除

(装着車の場合)


チャイルドシートを助手席に取り付けるときは、以下のことに注意してください。

- 該当するシートにチャイルドシートを取り付け可能であることを確認します。
- 後ろ向きのチャイルドシートを使用する場合は、**必ず**airbagを無効にする必要があります。

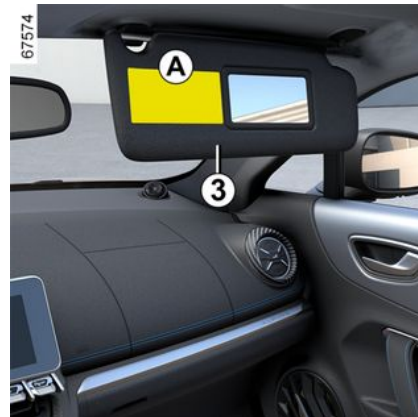


airbagを**非作動**にするには: 車両を停止してイグニッションスイッチをオフにします。ロック1を押してOFF位置まで回します。

イグニッションスイッチをオンにして

から、ディスプレイ2に  警告灯が点灯することを**必ず**確認します。

この警告灯は点灯したままとなり、助手席へのチャイルドシートの装着が可能であることをドライバーに知らせます。



お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動



危険

フロント助手席のairbagの動作は後ろ向きに配置するチャイルドシートとの適応性がないため、フロントのAIRBAGを作動した状態のシートには後ろ向きのチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。お子様の死亡や重傷につながるおそれがあります。

A



ダッシュボード上にある各マークや、助手席サンバイザー 3 の各サイドにあるラベル A（詳しくは上記ラベルをご覧ください）は、これらの指示についてお知らせするためのものです。


助手席エアバッグを作動させる



チャイルドシートを助手席から取り外したら、衝撃を受けた際に助手席乗員の安全を確保するため、必ずすぐに助手席airbagを再び作動させてください。





airbagを再度作動するには: 車両を停止し、イグニッションオフにした状態で、ロック1をON位置まで押し回します。

イグニッションスイッチをオンにしてから、ディスプレイ2に  警告灯が消灯していることを必ず確認します。助手席airbagが作動するようになりました。

作動異常

助手席Airbag作動停止システムに故障が発生した場合、インストルメントパ

ネルに   警告灯が表示されます。イグニッションをオフにし、ロック1の位置を確認します。

お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

1

イグニッションを再びオンにします:
警告灯が消灯します。

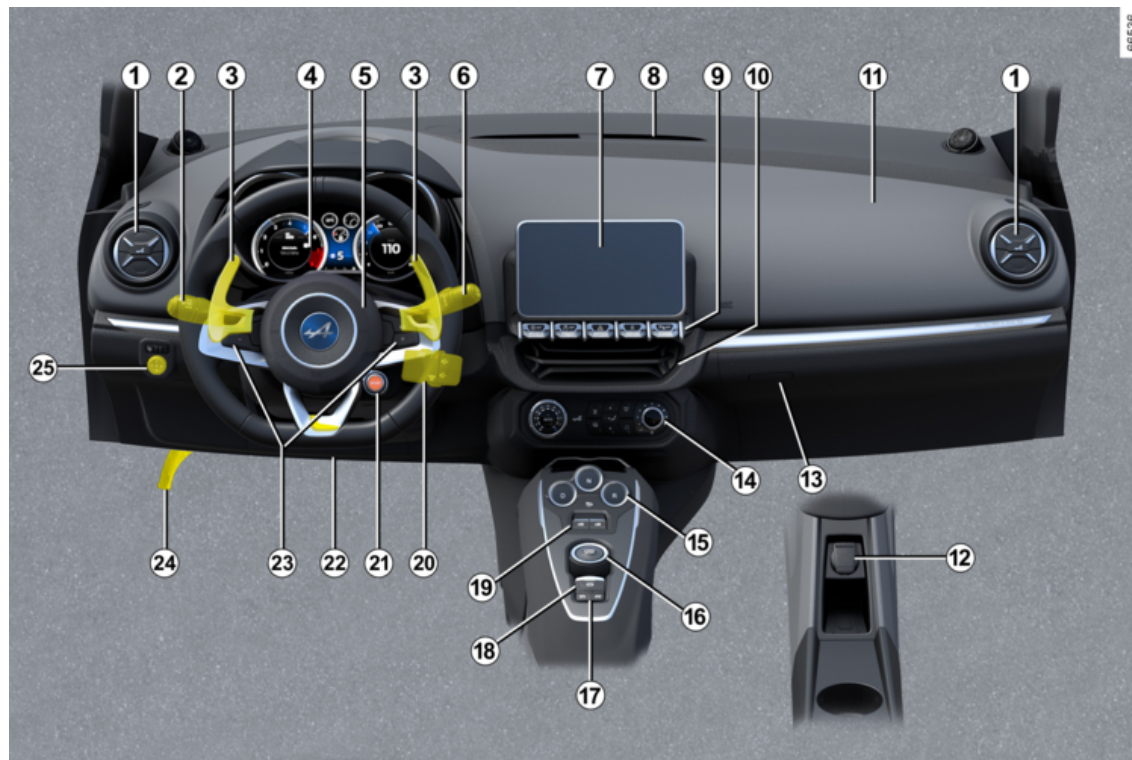
問題が解決しない場合は、システム障害を通知します。この場合、助手席に後ろ向きのチャイルドシートを装着したり、他の乗客が座席を占有したりすることは禁止されています。

できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

ドライビングポジション

1

左ハンドル車運転席レイアウト



ドライビングポジション

次に記載した装備は車両バージョンおよび国によって異なります

1. サイドベンチレーター。

2. レバー：

- 方向指示灯；
- ヘッドランプ；
- リアフォグランプ。

3. パドルシフト。

4. インストルメントパネル。

5. 運転席エアバッグ収納部airbag、ホーン。

6. レバー：

- フロントウインドウおよびリアウインドウウォッシャー/ワイパー。
- トリップコンピューターおよび警告システム情報表示。

7. マルチメディア画面。

8. フロントウインドーデフォグガー

9. スイッチ：

- Stop and Start機能の作動 / 非作動。
- ESC機能とトラクションコントロール機能の停止。
- ハザードランプ；
- 集中ドアロック。
- マルチメディアシステムを起動 / 停止する。

10. センターベンチレーター

11. 助手席エアバッグ収納部airbag。

12. シガーライター／アクセサリーソケット

13. カードリーダー ALPINE。車両によっては、カバーの下にあります（2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください）。

14. ヒータ／エアコンコントロール

15. 選択スイッチR、N、D。

16. エンジン始動／停止ボタン。

17. クルーズコントロール／スピードリミッタースイッチ。

18. アシストパーキングブレーキスイッチ。

19. パワーウインドウスイッチ。

20. マルチメディア装備ステアリングコラムコントロール。

21. 走行モードの選択スイッチ。

22. ステアリングホイール調整レバー

23. クルーズコントロール／スピードリミッタースイッチ

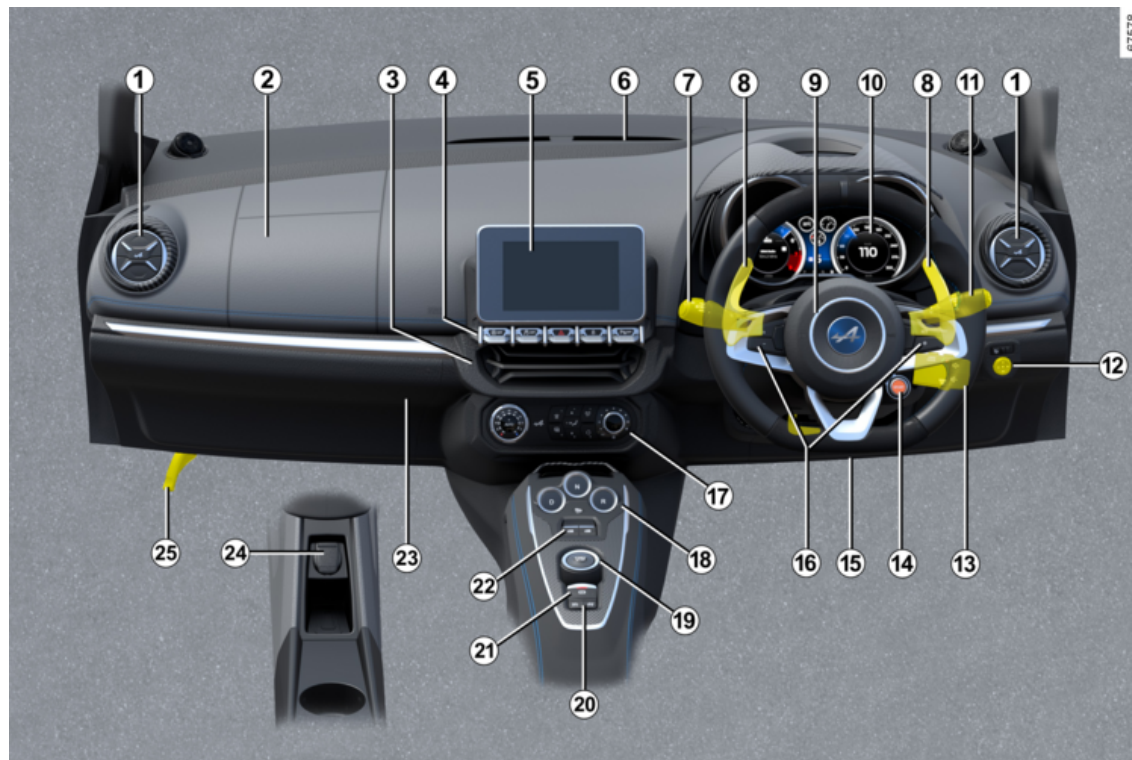
24. ボンネットアンロックスイッチ

25. ドアミラー調節スイッチ

ドライビングポジション

1

右ハンドル車運転席レイアウト



ドライビングポジション

次に記載した装備は車両バージョンおよび国によって異なります

1. サイドベンチレーター。
2. 助手席エアバッグ収納部airbag。
3. センターベンチレーター
4. スイッチ：
 - Stop and Start機能の作動 / 非作動。
 - ESC機能とトラクションコントロール機能の停止。
 - ハザードランプ；
 - 集中ドアロック。
 - マルチメディアシステムを起動 / 停止する。
5. マルチメディア画面。
6. フロントウインドーデフォッガー
7. レバー：
 - 方向指示灯；
 - ヘッドランプ；
 - リアフォグランプ。
8. パドルシフト。
9. 運転席エアバッグ収納部airbag、ホーン。
10. インストルメントパネル。
11. レバー：
 - フロントウインドウおよびリアウインドウウォッシャー / ワイパー。
 - トリップコンピューターおよび警告システム情報表示。

12. ドアミラー調節スイッチ
13. マルチメディア装備ステアリングコラムコントロール。
14. 走行モードの選択スイッチ。
15. ステアリングホイール調整レバー
16. クルーズコントロール / スピードリミッタースイッチ
17. ヒータ / エアコンコントロール
18. 選択スイッチR、N、D。
19. エンジン始動 / 停止ボタン。
20. クルーズコントロール / スピードリミッタースイッチ。
21. アシストパーキングブレーキスイッチ。
22. パワーウインドウスイッチ。
23. カードリーダー ALPINE。車両によっては、カバーの下にあります（2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください）。
24. シガーライター / アクセサリーソケット
25. ボンネットアンロックスイッチ

オンボードコンピューター

1

「概要」の項を参照してください

トリップコンピュータ A



レバー2のボタン4または5を繰り返し短く押して、以下の情報を上下にスクロールします（ディスプレイは車両の装備および国によって異なります）。

– 多機能画面: stalk 1 → 65のボタン3を短く繰り返し押して、この機能に関連する情報を右にスクロールします。



– トリップ設定: レバー1のボタン3を繰り返し短く押して、以下の情報を水平方向にスクロールします。

- a) 走行距離
- b) 平均LPG燃料消費
- c) 平均速度
- d) 総走行距離とトリップメーター
- e) 現在の燃費消費
- f) 航続距離
- g) 整備までの走行距離。
- h) タイヤ空気圧をリセット



- ログブック、情報メッセージの表示、動作不良と警告。
- インストルメントパネルの明るさ調整。
- 車両設定: カスタマイズメニュー → 63。

オンボードコンピューター

走行パラメーターのリセット（トップスタート）



67515

トリップ設定の1つを選択した状態で、ディスプレイがゼロにリセットされるまでボタン**3**、**4**、または**5**を長押しします。

走行パラメーターの自動リセット



67516

各種走行パラメーターのいずれかが容量を超えた場合は、自動的にリセットされます。

リセット後の表示値について

区間平均燃費、予想航続距離、区間平均時速の数値は、リセット後の走行距離が伸びるほど正確に算出されます。

リセットボタンを押してから最初の数キロメートルの間は、表示数値が走行につれて増加することがあります。これは最後のトップスタート後に実行された平均燃料消費がインプットされたためです。平均燃料消費は次の時に低下します：

- 車両が加速を終えたとき

- エンジンが作動温度に達した時（エンジン冷間時にリセット）；
- 市街地から郊外の幹線道路へ移ったとき




オンボードコンピューター

1

行程に関する設定

オンボードコンピューター




上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。

メニューの選択	選択された表示内容の説明
 522 km	a) 前回のリセットからの走行距離。
 5.8 L/100	b) 平均燃費消費（前回のリセット後）。 値はリセット後少なくとも 400 m 走行した後で表示されます。
 123.4 km/h	c) 平均速度（前回のリセット後）。 リセット後 400 m 以上走行しないと表示されません。

オンボードコンピューター

1


上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。

メニューの選択		選択された表示内容の説明
	101 778 km	d) 総走行距離。 e) 現在の燃費消費。 走行速度が約 30 km/h に達すると表示される数値。 f) 燃料残量の航続可能距離。 リセット後 400 m 以上走行しないと表示されません。
	7.4 L/100	
	541 km	

オンボードコンピューター

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。

1

メニューの選択		
オイル交換までの航続可能距離のメッセージがあるオンボードコンピューター（続き）		選択された表示内容の説明
オイル交換までの航続可能距離	点検 / 15 000 km / 12か月	<p>g) 点検またはオイル交換までの航続距離。</p> <p>オイル交換までの航続可能距離</p> <p>イグニッションオン、エンジン非作動、ディスプレイを「点検 間隔」に設定した状態でボタン2または3を5秒間押しと、オイル交換までの航続可能距離を表示します（次のオイル交換までの距離または時間）。オイル交換距離または時期が近づくと、次のようなシナリオが発生することがあります。</p> <p>– 残りの航続可能距離が1,500 kmまたは1か月未満の場合: 「点検時期が近づいています」メッセージが最短の値（距離または時間）とともに表示されます。</p> <p>– 航続距離が0 kmまたは点検日に到達した場合: 「」メッセージ「点検が必要です」が  警告灯とともに表示されます。</p> <p>車両のオイル交換を出来るだけ早く実行しなければなりません。</p>
	点検時期が近づいています 300 km / 24日	
	点検が必要です	

リセット: 点検前の航続距離をリセットするには、点検前の航続距離が表示されてオンの状態が保持されるまでボタン**3**、**4**、または**5**を10秒間ほど押します。

オンボードコンピューター

1

注: エンジンオイルを交換しないで点検を行った場合、次の点検までの航続可能距離のみをリセットします。エンジン点検の表示の場合には、同時にオイル交換までの航続距離と点検時期の両方をリセットする必要があります。

オンボードコンピューター

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。

メニューの選択	選択された表示内容の説明
タイヤ空気圧: 設定（長押し）	h) タイヤ空気圧をリセット➡ 110。

オンボードコンピューター

1

情報メッセージ

車両始動をサポートし、選択や走行状態に関する情報を提供します。

情報メッセージの例は以下のとおりです。

メッセージの例	選択された表示内容の説明
« パーキングブレーキ ON »	パーキングブレーキがかかっていることを示しています。
« コントロ機能 点検中 »	イグニッションスイッチを ON にした時の車両自動点検時に表示されます。
「トラクションコントロール非作動」	トラクションコントロール機能を解除したことを示します。
« ハンドルを回して START を押します »	車両のエンジン始動ボタンを押しながらステアリングホイールを少し回転させてステアリングコラムのロックを解除します。
「ステアリングがロックされていない」	ステアリングコラムがロックされていないことを知らせます。

オンボードコンピューター


メッセージの例	選択された表示内容の説明
« パーキングブレーキ ON »	パーキングブレーキがかかっていることを示しています。
« コントロ機能 点検中 »	イグニッションスイッチを ON にした時の車両自動点検時に表示されます。
「トラクションコントロール非作動」	トラクションコントロール機能を解除したことを示します。
« ハンドルを回して STARTを押します »	車両のエンジン始動ボタンを押しながらステアリングホイールを少し回転させてステアリングコラムのロックを解除します。
「ステアリングがロックされていない」	ステアリングコラムがロックされていないことを知らせます。


オンボードコンピューター

1

故障メッセージ

メッセージの例	メッセージの内容の説明
« ライトを 点検 »	ヘッドランプの故障を知らせます。
« 車両 点検 »	ペダルセンサー、バッテリー管理システムのセンサー、オイルレベルセンサーなどのうちどれか1つが故障していることを示しています。
« エアバッグ 点検 »	シートベルト補助システムに故障があることを示しています。事故の場合に正しく作動しない恐れがあります。
汚染防止システム 点検	エミッションコントロールシステムの不具合を知らせます。

これらのメッセージが警告灯  とともに表示されたら慎重に運転し、出来るだけ速やかに指定サービス工場で点検をお受け下さい。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れあります。

この種のメッセージは、ディスプレイ の選択ボタンを押すか、または数秒間 すると消え、ログブックにメモリーされます。警告灯  は点灯したままになります。システムの故障メッセージの例を以下に示します。

オンボードコンピューター

1

警告のメッセージ

メッセージの例	選択された表示内容の説明
« エンジン不具合 危険 »	インジェクションの故障、エンジン過熱、エンジンに重大な問題があることを示しています。
« パワーステアリング 不具合 »	ステアリング装置の故障を知らせます。
「ブレーキシステム 不具合」 または「車両を 停止」	ブレーキシステムの故障を知らせます。アシストパーキングブレーキを手動で締付けて、車止めブロックを使用して車両を固定します。
« 電気系統故障 危険 »	車両のバッテリー回路に問題があることを示します（オルタネーターなど）。
« パンク »	少なくとも1本のタイヤがパンクしているか空気圧が著しく不足していることを示します。

これらのメッセージが警告灯 **STOP** と共に表示されたら急ブレーキは避けて周囲の交通状況に注意しながら、なるべく早く車両を停止してください。エンジンを停止し再始動させないでください。正規サービス工場にご連絡ください。

警告メッセージには以下のものがあります。**注意**：メッセージはディスプレイ上に単独で現われるか、または交互に現われます（複数のメッセージがある場合）。警告灯や警報音を伴う場合もあります。

オンボードコンピューター

1 ディスプレイとメーター類



インストルメントパネル
車両を解錠すると点灯します。

タコメータ1
(目盛り x 1,000)

エンジンオイルレベル下限警告 表示

エンジン始動後、エンジンオイルが下限レベルに達するとディスプレイ2に警告が表示されます。4章の「エンジンオイルレベル」の項を参照してください。

オンボードコンピューター2



1章の「オンボードコンピューター」の項を参照してください。

水温警告灯

イグニッションスイッチをオンにするかエンジンを始動すると、表示灯5（「Normal」モード）または表示灯6（「Sport」モードまたは「Track」モード）が赤色で点灯し、数秒後に消灯します。

選択した走行モードに応じて、表示灯3（「Normal」モード）または表示灯6（「Sport」モードまたは「Track」モード）が青色で点灯し、水温が低いことを示します。エンジン性能が制限されています（出力、トルク、エンジン回転数）。

表示灯3が消灯するか、蛍光灯6が白色で点灯する場合、エンジン性能が最適であることを示します。

警告灯5または6が赤色で表示される場合は、過熱を示しています。車両を停止してください。エンジンを冷ましてから冷却水レベルを点検してください（4章の「冷却水レベル」の項を参照してください）。レベルが正常な場合は、表示灯は別の原因で点灯しています。正規サービス工場にご連絡ください。

注: レッドゾーン4は最大エンジン回転数制限 (rpm) を示します。冷却水温度に応じて変化します。

外気温度計7



オンボードコンピューター

時計8

フューエルゲージ9

スピードメーター10と11



(単位: km/h またはマイル/h)

メーター10は情報を提供するために設けられています。

承認されたスピードメーターのみ11に従って速度を調整してください。

速度超過警告音

車両によっては、車両が 120 km/h を超えて走行するとピープ音が鳴ります。

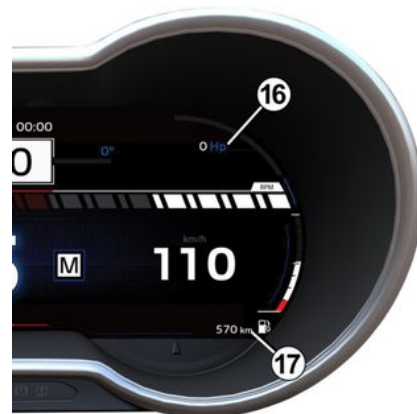
「Sport」モードまたは「Track」モードのインジケータ



選択した走行モードによって (2 章の「走行モードの選択」の項を参照してください)、次の情報が表示される場合があります。

– エンジン冷却水温度12。クーラント温度 (摂氏または華氏) を示します。

注: クラッチの作動温度はおよそ115°C以下である必要があります。温度が高すぎると、インストルメントパネルにメッセージが表示されます。



– エンジン回転数13。エンジン回転数を表示します (rpm)。

– エンジントルク14。利用できるトルクのレベルを示します (ニュートンメートル単位)。

– ステアリングホイール角度15 (度単位)。

– エンジン出力16。リアルタイムのエンジン出力を表示します (単位: PS DIN)。

– 燃料残量に対する予想走行可能距離17。

オンボードコンピューター

1



67515



67516



マイル表示のインストルメントパネル (車両によっては km/h に切り替える オプションあり)

- 車両を停止し、設定メニューが表示されるまでボタン19または20を数回押します。ボタン18、19、または20を長押しして、メニューに入ります。
- ボタン19または20を使用して、「単位」を選択します。
- ボタン18を短く押して単位を変更します。新しい単位が即座に適用されます。

前のモードに戻りたいときは、同じ作業を行ってください。

注: いずれの場合も、一旦電源を切ると、トリップメーターの測定単位は自動的に工場出荷時の単位に戻ります。

オンボードコンピューター



i インstrumentパネルサポート**21**の上に物を置かないでください。
instrumentパネルのディスプレイが損傷する危険があります。

車両調整のパーソナリゼーションメニュー



装備車ではこの機能はトリップコンピュータ**1**に内蔵されており、これによって車両の一部の機能を作動 / 作動解除したり、調整することができます。

車両調整のパーソナリゼーションメニューへのアクセス

車両を停止し、設定メニューが表示されるまでボタン**3**または**4**を数回押します。ボタン**2**を長押ししてメニューに入ります。

調整の選択



ボタン**2**を使用して、変更する機能を表示して選択します。

車両により、次の機能があります。

- 走行中のドアオートロック
- リアパーキングアシスト機能の作動。
- フロントパーキングアシスト機能の作動。
- 夜間モードの自動作動
- 時刻

オンボードコンピューター

1



67516



67515



67516

- 言語の選択
- 単位の選択: km/h または mph



調整のカスタマイズメニューは走行時には使用できません。時速4 km/hを超えると、オンボードディスプレイが自動的にトリップコンピューターモードに戻り、「設定メニュー: 静止状態」というメッセージが表示されて警告します。



機能作動



機能作動解除

ラインを選択したら、ボタン2または3を押し続けて機能を変更します：

「単位」または「言語」については、さらに選択する必要があります。この場合、ボタン3または4を使用して選択を行い、ボタン2を長押しして確定します。

メニューを終了するには、ボタン3を使用して「終了」を選択し、ボタン2を短く押して確定します。

オンボードコンピューター マルチ機能画面



この機能は補助的機能です。したがって運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。
また運転者は常に運転に関する規則に準拠してください。

ディスプレイA



このシステムは連続的にリアルタイムのテクニカルパラメーターを表示します。

車両のイグニッションスイッチをオンにしてから、画面Aにマルチ機能画面メニューが表示されるまで上下にスクロールします（レバー2のボタン4または5を使用します）。



車両によっては、レバー1のボタン3を押して以下を表示することができます。

- スロットルボディー開度
- ブレーキ回路油圧
- リアルタイムのターボ過給圧
- 横加速度と縦加速度の計測。

オンボードコンピューター

1

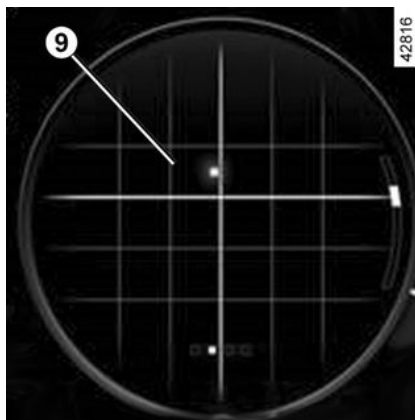


スロットルバルブの開度6

スロットルバルブの開度を知ることができます（単位：%）。

ブレーキ回路圧7

ブレーキ回路の圧力を表示します（単位：bar）。圧力が高くなると、制動力が増します。



リアルタイムのターボチャージャ圧8

リアルタイムにターボチャージャーのロードと利用可能な過給量を知ることができます（単位：mbar）。

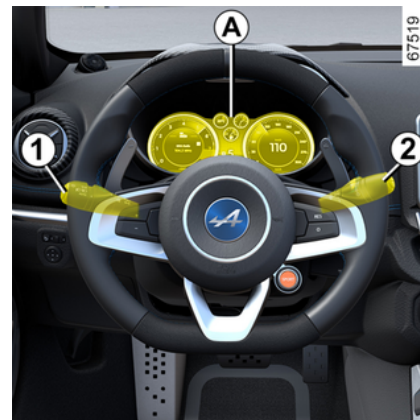
横加速度と縦加速度の測定9

加速時、アイドリング時、旋回時に車は横加速度と縦加速度を受けます。

この画面にその加速度を表示してリアルタイムに計測することができます。

時計／外気温度計

時計



ディスプレイAの時間設定を操作するには、車両を静止した状態で、設定メニューが表示されるまでボタン4または5を数回押します。3、4、または5のボタンを長押しします。

オンボードコンピューター

67515




時計が表示されるまで、レバー2のボタン5を押します。

- レバー1のボタン3を短く押して、時間設定を操作できる状態にします。
- ボタン4または5を繰り返し短く押して時間を設定します。
- ボタン3を短く押して、分設定を操作できる状態にします。
- ボタン4または5を短く押して分を設定します。
- ボタン3を短く押して確定します。

67516



時計メニューを終了するには、ボタン3をもう一度短く押します。

 電気の供給が途絶えた場合（バッテリー不足、ケーブル切断など）は、時計を合わせる必要があります。ただし、走行中に時計の操作は危険ですのでおやめください。

外気温度計

専用装備:

外気温が -3°C ～ $+3^{\circ}\text{C}$ の範囲になると、 $^{\circ}\text{C}$ の文字が点滅します（路面凍結の危険をお知らせ）。



外気温度計

凍結の条件は気候や湿度、温度により異なります。外気温の表示だけで凍結の有無を判断することはできません。

1

警告灯

1

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。



インストルメントパネルA: 車両が解錠すると点灯します。車両調整のメニューで明るさを調整できます（1章の「車両調整のカスタマイズメニュー」の項を参照してください）。一部の警告灯の点灯と同時にメッセージが表示されることがあります。



スモールランプ表示灯



ハイビーム表示灯



ロービーム表示灯



リアフォグランプ表示灯



左方向指示器表示灯




右方向指示器表示灯



警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。正規サービス工場にご連絡ください。



警告灯  が表示されたら慎重に運転しながらできるだけ速やかに **ルノー正規サービス工場** で点検を受けてください。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れがあります。



ビジュアルリターンまたは音声がない場合には、インストルメントパネルが故障しています。周囲の交通に注意しながら、直ちに停車してください。車両が固定されていることを確認して、指定工場に連絡してください。

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。



STOP 緊急停車警告灯

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。この表示灯は場合によって他

警告灯

の表示灯やメッセージとともに点灯し、同時にピープ音が鳴る場合もあります。

この警告灯が点灯したら周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車してください。エンジンを停止し再始動しないでください。

正規サービス工場にご連絡ください。

① ブレーキ回路の故障検出警告灯

イグニッションをオンにすると表示され、パーキングブレーキを離すと消えます。

ブレーキを掛けたときに点灯し、同時

に警告灯 **STOP** が点灯して警告音が鳴る場合、ブレーキ回路のフルードレベルが低下しているか、またはブレーキシステムに異常があると思われるます。

周りの交通に注意しながら速やかに停車し、認定ディーラご連絡ください。

バッテリー充電警告灯

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中に警告灯 **STOP** が点灯して警告音が鳴る場合は、電気系統の過電圧または放電を示しています。

周りの交通に注意しながら速やかに停車し、認定ディーラご連絡ください。

エンジン油圧警告灯

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中にこの警告灯 **STOP** が点灯して警告音が鳴る場合は、必ずただちに停車し、エンジンを切ってください。

走行中に点灯したときは、周囲の交通に注意しながら安全な場所に直ちに停車し、イグニッションスイッチを OFF にして、オイルレベルを点検してください。レベルが正常な場合は、表示灯は別の原因で点灯しています。

正規サービス工場にご連絡ください。

可変式パワーステアリング表示灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中に警告灯 **STOP** と共に点灯した場合は、システムの故障です。

周りの交通に注意しながら速やかに停車し、認定ディーラご連絡ください。

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。



警告灯

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。この警告灯の点灯と同時に他の警告灯も点灯し、メーターパネルにメッセージが表示されることがあります。

この警告灯が点灯したら慎重に運転しながらできるだけ速やかに指定サービス工場で点検を受けてください。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れがあります。

エミッションコントロール警告灯

装備車両の場合、エンジンを始動したときこのランプが点灯し、車種に

警告灯

よってはイグニッションをオフにしたとき点灯し（エンジンがスタンバイ状態にある場合）、その後消灯します。

（第2章の「Stop and Start機能」の項を参照）。

－ この警告灯が常時点灯している場合は、できるだけ早く認定ディーラにご相談ください。

－ 警告灯が点滅する場合は、消灯するまでエンジン回転数を下げてください。できるだけ早くルノー正規サービス工場でお受けください。

第2章の「メンテナンスと排気ガス制御のアドバイス」の項を参照してください。

ハンドブレーキ／アシストパーキングブレーキ警告灯

2章の「ハンドブレーキ」または「オートマチックパーキングブレーキ」の項を参照してください。

エンジン冷却水温警告灯

インストルメントパネル上での表示灯の位置は、選択した走行モードと冷却水温度に従います（1章の「ディスプレイとインジケータ類」を参照してください）。

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると赤く点灯し、数秒後に青色、白色になります。エンジン冷却水温度レベルによっては消灯します。

赤く点灯した場合は、停車して1、2分エンジンをアイドル回転させてください。温度が下がり表示灯が白く点灯するか消灯する必要があります。消灯しない場合は、エンジンを停止します。冷ましてから冷却水レベルを点検してください（4章の「冷却水レベル」の項を参照してください）。レベルが正常な場合は、表示灯は別の原因で点灯しています。正規サービス工場にご連絡ください。

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。



ABS 警告灯

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中に点灯したときは ABS に何らかの異常があることを意味します。

ブレーキシステムの機能は ABS 非装着車と同じになります。できるだけ早く指定サービス工場でお受けください。



ギア表示灯

マニュアルモードでは、点灯してシフトアップ（上向き矢印）またはシフトダウン（下向き矢印）を知らせます。第2章の「運転のアドバイス、エコドライブ」の項を参照してください。



エレクトロニックスタビリティコントロール（ESC）およびトラクションコントロールシステムに関する警告灯

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

警告灯が点灯する原因はさまざまです。第2章の「ドライビングアシストと補正装置」の項の記載をお読みください。



エレクトロニックスタビリティコントロール（ESC）とトラクションコントロールシステムの作動解除警告灯

第2章の「ドライビングアシストと補正装置」の項を参照してください。

警告灯



スピードリミッター表示灯

2章の「スピードリミッター」の項をお読みください。



クルーズコントロール警告灯

2章の「スピードリミッター、クルーズコントロール」の項をお読みください。



エンジンがスタンバイ状態にならない場合

第2章の「Stop and Start機能」の項を参照してください。



エンジンがスタンバイ状態にならない場合

第2章の「Stop and Start機能」の項を参照してください。



タイヤアンダーインフレーション警告灯

この警告灯は、イグニッションスイッチを ON にするかエンジンを始動すると点灯し、数秒後に消灯します→ 110。

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。



次の機能に関する表示灯airbag

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

イグニッションスイッチをオンにしても警告灯が点灯しない、あるいはエンジンが始動しても点灯したままである場合、これはシステムに不具合があることを示しています。

できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。



燃料残量警告灯

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中に点灯した場合は、できるだけ早く燃料を補給してください。最初に警告灯が点灯してから約 50 km 走行することができます。第2章の「ガソリン車の特記事項」の項をご覧ください。



ドア開警告灯

いずれかのドアが開いていると点灯し、インストルメントパネルにメッセージが表示される場合もあります。



シートベルト締め忘れ警告灯

第1章の「シートベルト」の項をご覧ください。



パーティキュレートフィルタシステム警告灯 (ガソリン車)

第2章の「ガソリン車の特記事項」の項をご覧ください。



センターコンソールB上



Airbag 助手席 OFF

1章の「お子様の安全：助手席エアバッグの作動解除、作動airbag」の項を参照してください。

ステアリング

1

ステアリング

ステアリングホイールの高さと前後位置の調節



レバー**1**を引いてステアリングホイールを必要な位置にセットし、抵抗点を超えるまでレバーを押してステアリングホイールをその位置にロックします。

ステアリングが確実にロックされたことを確認します。

パワーステアリング

可変式パワーステリング

車両には走行速度に応じてステアリングの操作力を自動的に調整する、車速

感応式パワーステアリングが装備されています。

このシステムは、駐停車時などの低速走行中には、楽にステアリング操作ができるよう十分なパワーアシストを行い、高速走行中は、速度の上昇にしがって安定した走行を行うためにパワーアシスト量を抑えます。

注: パワーステアリングは、選択したドライブモードによって異なります。

(第2章の「走行モードの選択」を参照)



安全のために、この調整は必ず停止時に行ってください。



ステアリングを左右どちらかいっぱい切った状態で長く保たないでください。



エンジン停止時またはシステムが故障した場合でも、ステアリングを回すことができます。ただし、より大きな力が必要です。



下り坂の走行中、および一般に走行中には絶対にエンジンを停止しないでください（パワーステアリングやエマージェンシーブレーキアシストが使用できなくなってしまう）。

リアビュー

ドア／ルームミラー

ドアミラー



調整

スイッチ2でドアミラーを選択し、制御3を使用して希望する位置に調整します。

ドアミラーデフロスター

第3章の「マニュアルエアコン」と「オートエアコン」の項を参照してください。

ドアミラーの格納

スイッチ1を押してドアミラーを格納します。スイッチ1をもう一度押すと、ドアミラーが展開します。

ウェルカム機能とグッドバイ機能

(車種によります)

スイッチ1を押してもドアミラーが格納されない場合:

- 車両をロックするとドアミラーは自動的に格納されます。
- 車両をアンロックするとドアミラーは自動的に展開されます。



ルームミラーに映るものは見た目よりも近くにいます。

安全のために、操作する前に距離を正しく認識することを考慮してください。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

ルームミラー



角度は調節できます。

レバー付きバックミラー 4

夜間走行中は、後続車両の灯火類による眩惑を防止するため、ルームミラーの裏側にある小さなレバー 4 を手前に引きます。

レバーなしのバックミラー 4

後続車がヘッドランプを点灯しているとルームミラーの色が自動的に濃くなります。

ランプ類

1

灯火類



67515

スモールランプ



記号がマーク3の反対側になるまでレバー1のリング2を回します。メーターパネルの警告灯が点灯します。

注: 車両によっては、パーキングブレーキがかかっているとき、またはシフトコントロールがP位置にあるときにのみ、スモールランプを手動で点灯できます。それ以外の場合は、メッセージ"ポジションランプ 点灯不可"がインストルメントパネルに表示され、スモールランプを点灯できないことが示されます。

ランニングデイルイトの点灯



67524

AUTO記号がマーク3に合うまでレバー1のリング2を回します。

注: AUTO位置では、エンジンが始動するとデイトタイムランニングランプが自動的に点灯し、エンジンが停止すると消灯します。



夜間走行の際は、電子機器が正常に作動することを確認し、ヘッドランプの光軸調整を行ってください（積載量が普段と異なる場合）。常に、汚れ、泥、雪、積載荷物などによってランプが遮られることのないように注意してください。

67515



ロービーム



手動での作動


ランプ類

リング 2 を回してマーク 3 に合わせます。メーターパネルの警告灯が点灯します。

オートマチック機能

リング 2 を、AUTO 記号がマーク 3 に合うまで回します。この状態でエンジンスイッチを ON にすると、ロービームは、レバー 1 を操作しなくても、灯火類の輝度に応じて自動点灯または消灯します。

ハイビーム：

 エンジンが回転し、ロービームが点灯しているときに、レバー 1 を押します。メーターパネルの警告灯が点灯します。

ロービームに切り替えるときは、もう一度レバー 1 を手前に引きます。

ランプの消灯

AUTO のシンボルがマーク 3 に合うまでリング 2 を回します。ハイビームが点灯していない場合、エンジンを停止したり、運転席ドアを開いたり、車両をロックしたりするとランプが消灯します。

ライト消し忘れ警告アラーム音

運転席側ドアを開けると警告ブザーが鳴り、ランプが点灯していることを知らせます。

ウェルカム機能とグッドバイ機能

(車種によります)

機能が作動すると、Renault カードが検知されるか車両のロックが解除されたときに、スモールランプが自動的に点灯します。

照明は以下の場合に自動的に消灯します：


- 点灯してから約 1 分後に。
- エンジンが始動したとき（照明制御レバーの位置に応じて）。

または

- 車両の施錠時。



リアフォグランプ


 レバーの中央リング 4 がマーク 3 に向くまで回してから、放します。ランプはスイッチリング上で選択されたとおりに点灯します。選択されたランプが点灯すると同時にメーターパネル上のマークも点灯します。

リアフォグランプは点灯の必要がなくなったら直ちに消灯してください。後続車の迷惑になります。

ランプの消灯

リング 4 をもう一度回してマーク 3 をリアフォグランプに対応する記号に合わせます。インストルメントパネルの警告灯が消灯します。

ヘッドランプを消灯すると、リアフォグランプも連動して消灯します。

 霧の深いとき、降雪時またはルーフを超える荷物を積載している場合には、ランプは自動点灯しません。フォグランプはドライバーによって制御されます：点灯／消灯の状態はインストルメントパネルの表示灯（点灯／消灯）によってわかります。

ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯

1

ホーン



ホーンを鳴らすにはステアリングホイールのボス **A** を押します。

パッシングランプ

ヘッドランプを点滅させるには、レバー **1** を手前に引きます。

方向指示灯

レバー **1** をステアリングホイールと平行して曲がりたい方向に動かします。

ワンタッチモード

レバー **1** を、抵抗がなくなる位置まで短く上下に動かしてから離します。するとレバーは元の位置に戻り、

該当する方向指示灯が3回点滅します。



ることがあります。スイッチ **2** を1回押すとオフにできます。

ハザードフラッシャー



スイッチ **2** を押します。

このスイッチを押すと、前後左右の方向指示灯とサイドマーカーが同時に点滅します。ハザードランプは、危険な場合、つまり特殊な運転状況や交通状況のために、普段は停車しない場所や駐車禁止区域にやむをえず停車しなくてはならないことを他の運転者に知らせるときにしか使用しないでください。

仕様によっては、急激な減速をしたときにハザードランプが自動的に点灯す

ワイパー

フロントウインドーワイパー ／ウォッシャー



イグニションスイッチオンにして、
レバー1を操作します。

A. 停止

B 間欠ワイパー

2. 間欠作動では、ワイパーブレード
が一往復するごとに数秒間停止し
ます。リングを回してワイパーの作動間
隔を変更することができます。

C. 低速ワイパー

D. 高速ワイパー



B、C、Dの位置は、イグ
ニッションがオンの状態で
操作することができます。



特徴

走行中に、車両が停止するとワイパーの
作動速度が遅くなります。高速モード
を選択すると、停車時は遅速モードへ
切り替わります。

車両が再び走行を開始すると走行中に
選択されていたもとの速度に戻り
ます。レバー1に対するすべての操作が
優先され、自動動作をキャンセルしま
す。



エンジンルームで作業を
する場合は、フロントウ
インドウワイパーのレ
バーがA位置（オフ）に
あることを確認してください。
場合によってはケガを負うこと
もありますのでご注意ください。

オートマチックワイパー機能装 備 車両



エンジンが作動している状態で、レ
バー1を操作します。

A オフ

ワイパー

1

i C位置は、イグニッションがオンの状態で操作することができます。BとDの位置は、エンジンが作動している場合にのみ操作できます。

67516



B オートワイパー機能

この位置を選択すると、システムがフロントウインドーの水滴を感知し、ワイパーを適切な速度で作動させます。リング2を回すと、作動基準値や間欠ワイパーの間隔を変更できます。

- E: 最少感度
- F: 最高感度

注: 霧や降雪の天候下では、ワイパーは自動的に作動せず、ドライバーの操作によって機能します。

C. 低速ワイパー

D 高速連続作動

注:

- レインセンサーは運転時の操作を補助するものにすぎません。視界が悪くなった場合、運転者は手動でワイパーを作動してください。霧や降雪がある場合には、自動ワイパー機能は停止し、運転者の意志によって制御されます。
- 温度が0度を下回ると、車両が発進しても自動ワイパーは作動しません。車両が一定の速度（約8 km/h）を超えると、自動的に作動します。
- 乾燥した天気の場合は自動ワイパーを作動させないでください。
- 自動ワイパーを作動させる前に、ウインドウの氷を完全に除去してください。
- ローラータイプの洗車機で洗車する場合は、レバー1をオフ位置Aに戻して自動ワイパーを無効にしてください。

ウインドウウォッシャー

67516



イグニッションをオンにした状態で、レバー1を手前に引きます。

短めに押すとウインドーウォッシャーに加えてワイパーが往復作動します。

長めに押すとウインドーウォッシャーに加えてワイパーが3回作動し、数秒後に4回目の作動が実行されます。

ワイパー



フロントウィンドウで何らかの作業をする場合（洗車、デフロスタ、フロントウィンドウの清掃など）、作業前にレバー**1**を**A**位置（オフ）に戻してください。
負傷および／または損傷の恐れがあります。



ワイパブレードの効率

ワイパーブレードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- きれいに保ってください：ワイパブレード、リアウィンドウをセッケン水で定期的に洗浄してください。
- ウィンドウが乾燥している状態で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、ワイパをウィンドウから離してください。

いずれにしても、機能の低下が見られた場合にはすぐに交換してください（およそ1年ごと）（5章の「ワイパーブレード: 交換」の項を参照）。

ワイパをご使用になるときの注意事項

- 凍結時または降雪時には、ワイパを始動する前に、ウィンドウをきれいにしてください（モータの加熱の危険性があります）。

- ワイパをご使用になる前に、輸送荷物がブレードのストロークを妨げないことを確認してください。

燃料タンク

1

燃料の品質について



各国で定められた規格に準拠する高品質の燃料を使用してください。カバー1のラベルに記載されている仕様に必ず準拠することが必要です。6章の「エンジンの仕様」の項を参照してください。



給油後フラップを確実に閉じます。



指を使ってバルブ 2 を押さないでください。高圧洗浄をするときに、給油口を開いたまま給油ゾーンを洗浄しないでください。



どんなに微量であっても絶対に軽油にガソリン（無鉛または E85）を混ぜないでください。車両がエタノールベースの燃料に対応していない場合は、エタノール燃料を使用しないでください。燃料に添加剤を（添加剤、試薬など）加えないでください。エンジンが損傷する可能性があります。燃料に添加剤を加える場合は、技術部の承認を得た製品をご利用ください。正規サービス工場にご連絡ください。

必ず 無鉛ガソリンを使用してください。オクタン価（RON）は、カバー1のラベルに記載される情報に準拠することが必要です。6章の「エンジンの仕様」の項を参照してください。



欧州で販売された車両のエンジンで適用される欧州規格に適合する燃料タイプは互換性があります。第6章の「エンジン仕様」表を参照してください。



コントロールユニット、配線、ホース/パイプ類、インジェクター、プロテクターを含め燃料供給システムは絶対にご自分で脱着したり分解したりしないでください。大変危険です。点検修理は指定サービス工場におまかせください。

給油

イグニッションをオフにした状態で、ノズルを挿入してバルブ 2 を開き、**完全**に挿入してからトリガーを押してタンクを満たします（飛散のリスクを防ぐため）。

給油中はノズルをこの位置に保ち、給油が完了するまで離さないでください。

最初の給油が自動的に完了した後、予備の給油を行うことができます。一定

燃料タンク

量を足すと再びカチッと止まります。
これを最高2度まで繰り返すことができます。

注入の際は、水が侵入しないように注意します。

充填後は、水や異物がシステムに侵入しないようフラップ **1** を閉じます。

バルブ **2**、フラップ **1** およびその周囲にほこり、泥、汚れなどがいないか常に確認します。

有鉛ガソリンの使用は触媒装置に損傷を与える恐れがあります。このような場合は保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

有鉛ガソリンの使用を避けるために、ガソリンエンジン車両の給油導管には、**無鉛ガソリンの給油ポンプのノズルしか通さない安全装置**が取り付けられています。



燃料の臭いがするとき

燃料の臭いがする場合は以下のとおり処置してください:

- 周囲の交通に注意しながら停車して、イグニッションスイッチを OFF にします；
- ハザードランプを点滅させ、同乗者を車両から降ろし、安全な場所に避難するよう促します。
- ルノー指定サービス工場にご連絡ください。



燃料を充填するには、エンジンスイッチを OFF

(Stop and Start 機能装備車両の場合はスタンバイ状態) にし、イグニッションス

イッチ ➔ **83** を OFF にしなければなりません。

火災の恐れがあります。

慣らし運転

エンジンを始動させます

走行距離が**1,000 km**になるまでは、トップギアで130 km/hまたはその他のギアで3,500 rpmを上回る走行はしないでください。またアクセルペダルをいっぱいまで踏み込んで加速しないでください。

車両走行距離が約 **3000 km** に達するまで、「スポーティ」走行を避けま

す。
車両が本来の性能を発揮できるようになるのは、この期間を過ぎてからです。

注: 新車を運転している場合: クーラントレベルがタンクの「MAXI」マークより高くなることがあります。続いて、「MINI」マークと「MAXI」マーク間に下がります。この作業には危険は伴いません。

点検時期: 整備手帳の記載をご覧ください。



車両の走行中にスタンディングスタート手順を開始することは禁止されています（エンジン劣化のリスク）。

始動手順の詳細については、第2章の「スタンディングスタートの手順」の記載をお読みください。

車両に新しいパッドが装備されている場合、ブレーキは慣らしが必要です。

したがって、車両の走行距離が約 200 km に達するまで、ブレーキペダルをあまり強く押さないことをお勧めします。

慣らしに必要な作業の詳細については、指定サービス工場にお問い合わせください。

ブレーキパッドの作動

エンジン始動と停止

「ハンズフリー」による始動



カードを検出ゾーン **1** 内に置いてください。

トランスミッションをPまたはN位置に入れ（第2章の「オートマチックトランスミッション」の項を参照）、ブレーキペダルに足を置き、ボタン**2**を押してエンジンを始動します。



トランク開放状態での「ハンズフリー」始動

この場合、カードを紛失しないよう、ラゲッジルームに置いたりしないでください。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれ。

2

エンジン始動と停止

リモコン式カードを使用した車両の始動

2



乗車したら、カード内蔵キーをカードリーダー3の奥まで差し込みます。

トランスミッションをPまたはN位置に入れ（第2章の「オートマチックトランスミッション」の項を参照）、ブレーキペダルに足を置き、ボタン2を押してエンジンを始動します。

注意事項

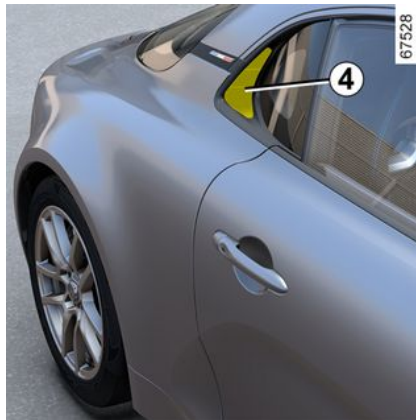
－ エンジン始動の条件がひとつでも満たされない場合、「ブレーキを踏み＋スタート」、または「Pを選択」というメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

－ 場合によっては、ステアリングコラムのロックを解除するために、スタートボタン2を押しながらハンドルを動かす必要があります。その場合、「ハンドルを回してSTARTを押します」という警告メッセージが表示されます。

アクセサリ機能

（イグニッションスイッチをONにします）

一部の電装品（ラジオ、ナビゲーションシステム、ワイパーなど）は乗車するとすぐに使用することができます。



他の機能を活用するには：

－ 「ハンズフリー」カード装備車両：室内にカードを置き、ペダルを踏まずにボタン2を押します。

－ リモコン式カード装備車両：カードをリーダー3に差し込みます。



エンジンを始動する前に、ベンチレーター4の妨げになるものがないことを確認します。

作動異常



場合によってはハンズフリーカードが作動しないことがあります。

－ カードキーの電池が消耗している、または切れている場合
－ カードと同一周波数の機器（ディスプレイ、携帯電話、ゲーム機など）の近くにある場合。

エンジン始動と停止

– 強い電磁波の影響内に車両がある時。



「キーカードを挿入」というメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

フラップ6近くのカバー5を引いて、クリップを外します。

カードをカードリーダー7に奥まで差し込みます。

エンジン停止の条件

車両を停車して、トランスミッションを位置PまたはNにします（第2章の「オートマチックトランスミッション」の項を参照してください）。



特徴

車両に応じては、エンジンがオフの場合、運転席のドアが開いている場合、ドアがロックされている場合に、電装品（ラジオなど）の機能が停止します。



車両が完全に停止するまでは絶対にイグニッションキーをOFFにしないでください。エンジンを停止すると、ブレーキサーボ、パワーステアリングなどやパッシブセーフティ装置（airbagsやプリテンションなど）が無効になります。

「ハンズフリー」カード

カードを車両に入れたまま、ボタン2を押します: エンジンがオフになります。運転席ドアを開けるか車両をロックすると、ステアリングコラムがロックされます。



車両を離れる場合、とりわけカードを携帯している際には、エンジンが完全に停止していることを確認してください。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を 작동させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急上昇します。**死亡または重傷のおそれ。**

リモコン式カード

エンジン始動と停止

カードリーダー**3**にカードを差し込み、ボタン**2**を押します。エンジンが停止します。この場合、カードをリーダーから取出すとステアリングコラムがロックされます。

特徴

カードが室内にないか、またはカードのバッテリーが消耗している場合、車両停止中にエンジンをオフにしようとすると、「キーカード検出できません STARTボタンを押す」のメッセージがインストルメントパネルに表示されます: ボタン**2**を3秒間以上押してください。

Stop and Start 機能

このシステムによって、燃料の消費と温室効果ガスの排出を減少させることができます。

車両が発進するとシステムは自動的に作動します。走行中に車両が停止すると（渋滞や信号待ちで…）、このシステムはエンジンを停止させます（スタンバイ状態にします）。

スタンバイ状態の環境

– 車両が、前回の停止以後走行していたとき。

と

– トランスミッションがD、MまたはNにある（第2章の「オートマチックトランスミッション」の項を参照）。

と

– 部歴ペダルが踏み込まれた状態（十分な力）。


と

– アクセルペダルが押されていません。

と

– その他に車速が約1秒間ゼロです。

P位置（第2章の「オートマチックトランスミッション」の記載を参照）に締結している場合、またはN位置に締結していてパーキングブレーキが適用されて、ブレーキペダルから足を放している場合、エンジンはスタンバイ状態のままになります。

インストルメントパネルに  の警告灯が点灯しエンジンをスタンバイ状態が起動することを知らせます。


エンジンが停止している間でも、車両の装備は機能します。



エンジンがスタンバイ状態にあるとき、アシストパーキングブレーキは自動的に作動しません。



エンジンがスタンバイ状態の時に、車両を走行させないでください（インストルメントパネルの表

示灯  が点灯します）。



降車する前には必ずエンジンを停止してください。スタンバイ状態のままにはしないでください（第2章の「エンジンの始動と停止」の項をお読みください）。

エンジンがスタンバイ状態にならないためには

交差点を走行するなど特定の状況下では、エンジンをオンにしたままで素早く始動するようにすることができます（システム作動状態）。

ブレーキペダルを軽く踏んで車両が動かないようにしてください。

エンジンのスタンバイ状態を解除するためには

– ブレーキペダルを離して、DまたはM位置に締結します。

または

エンジン始動と停止

– ブレーキペダルを離して、N位置に締結し、パーキングブレーキを離します。

または

– ブレーキペダルをもう一度踏み、P位置またはN位置に締結して、パーキングブレーキをかけます。


または

– R位置に締結します。

または

– アクセルペダルが踏まれていない。

注意:車種によって、エンジンがスタンバイ状態であるときにイグニッションスイッチをオフにすると、インストル

メントパネルに  警告灯が数秒間点灯します。



燃料の補充を行うときは、必ずエンジンをオフにしてください (Stop and Start機能装備車両

ではスタンバイ状態のままではなく): エンジンを完全にオフにする必要があります (第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください)。

火災の恐れがあります。

エンジンがスタンバイ状態にならない場合

一部の条件下ではエンジンをスタンバイ状態にする機能が作動しなくなります。特に、

- リバースギアが入れられた時;
- 運転席ドアが閉まっていない;
- 運転席のシートベルトが着用されていない場合。
- 外気温が低すぎるか高すぎる。
- バッテリーが十分に充電されていないとき;
- 車内の温度とオートエアコンデショニングの設定温度との差が大きすぎる場合。
- SportまたはTrackの走行モードが作動 (第2章の「走行モードの選択」の項をお読みください)。
- 高度が高すぎる。
- 勾配が急すぎる。
- 「クリアビュー」機能が作動 (第3章の「オートエアコン制御」の項を参照してください)。
- エンジンの温度が低くすぎます。
- …

インストルメントパネルの警告灯



が点灯します。これは、エンジンのスタンバイが利用できないことを知らせます。



エンジンルーム内で作業を始める前には必ずイグニッションをオフにしてください。(第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください)

注意:

エンジンがスタンバイ状態のとき (渋滞、信号待ち等)、運転手がシートベルトを外して運転席ドアを開ける、または席から立ちあがると、イグニッションスイッチがOFFになります。

ハンドブレーキが自動的に作動します。

エンジンを再始動し、Stop and Startシステムを再起動するには、エンジンを始動します (第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください)。

エンジン自動再始動の特徴

何らかの状況で、あなたの安全と快適さを保証するために、エンジンは操作なしに再始動することがあります。

これは、次の場合に発生することがあります。

- 外気温が低すぎるか高すぎる。
- 「クリアビュー」機能が作動 (第3章の「オートエアコン制御」の項を参照してください)。

エンジン始動と停止

- バッテリーが十分に充電されていないとき；
- 車両の時速が 5km/h 以上（下り坂など）；
- ブレーキペダルを繰り返し踏み、ブレーキシステムが必要である場合。
- ...

機能の起動と解除



機能を解除するには、スイッチ **1** を押します。インストルメントパネルに「ストップ&スタート無効」メッセージが表示され、スイッチ **1** のインジケータライトが点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システムが再び作動します。インストルメントパネルに「ストップ&スタート作動」

メッセージが表示され、スイッチ **1** のインジケータライトが消灯します。



特記事項: エンジンがスタンバイ状態の時にスイッチ **1** を押すと、エンジンが自動的に再始動します。

スタートボタンを押して車両が始動するたびに、システムは自動的に再起動します（第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参考してください）。

作動異常

インストルメントパネルに「ストップ&スタートシステムを点検」メッセージが表示され、警告灯 **1** が点灯する場合、システムが解除されたことを示しています。

正規サービス工場にご連絡ください。



降車する前には必ずエンジンを停止してください。スタンバイ状態のままにはしないでください（第2章の「エンジンの始動と停止」の項をお読みください）。

走行モードの選択

走行モードの起動コマンド

車両に応じて、次のモードを使用できます。

- Normalモード。
- Sportモード。
- 「」モード Track.

i SportモードおよびTrackモードでは、Stop and Start 機能は解除されません。

i ESC システムやトラクションコントロールシステムの詳細については、2章の「補正装置とドライビングアシスト」の項を参照してください。

i 選択したモードに応じて、ESC やトラクションコントロールシステムのパラメーター、パワーステアリングのアシスト法則、アクセルペダル、オートマチックトランスミッションの設定を変更することができます。

Normal モード

エンジン、トランスミッション、ESC システム、トラクションコントロールに対して、これはデフォルトの作動モードになります。

他のモードが選択されている場合は、スイッチ**1**を必要な回数だけ押して



Normalモードに戻します。インストールメントパネルの表示が変更されます。

Sport モード

Sportモードを選択するには、スイッチ**1**を必要な回数押します。インストールメントパネルの表示が変更され、「Sport」のメッセージが表示されます。

次の作動設定を変更できます。

- エンジンタイプ。
- エグゾースト
- アクセルペダル
- パワーステアリング法則
- トランスミッション

これらの変更は、補正装置を有効化するしきい値を下げます。



走行モードの選択

Track モード

(車種によります)

Trackモード:

- ESCシステムとトラクションコントロールシステムの作動を遅らせます。
- 変速時間を短縮します。
- 強制的なシフトアップは無効になります。

トランスミッションをDまたはM位置に入れた状態で（第2章の「オートマチックトランスミッション」の記載を参照）、スイッチ**1**を長押ししてTrackモードを選択します。インストルメントパネルの表示が変更され、「Track」のメッセージが表示されます。

「ESCトラック」のメッセージがインストルメントパネルに表示され、



警告灯が点灯して、すべてのESCシステムおよびトラクションコントロール機能に変更されたことを知らせます。

エンジン、エグゾースト、ペダル、ステアリングアシスト法則は Sport モードと同じ設定になります。

トランスミッションが自動的にM位置に切り替わります。

ESCシステムとトラクションコントロールは安全性を高めるため、無効にすることは推奨されません。

ハザードの点灯

車両に応じては、急激な減速をするとハザードが点灯します。

注: SportモードおよびTrackモードでは、急な減速時にハザードランプが非作動になります。



負荷が高くなった場合（「スポーティ」走行など）、エンジンは一時的に性能（速度やトルク）に制限をかけエンジンを保護することがあります。

スタンディングスタートの手順



車両に装備されている場合、車両を停車させた状態からのスタンディングスタートの手順（Launch Control）は、停止状態から最大加速するための機能です。

注: この機能は、機械部品が動作温度に達したときのみを使用してください。



システムの集中的な使用は、機械部品（クラッチ、トランスミッションなど）の寿命を短くさせます。

システムの作動

システムの作動開始は

- エンジンがオン、車両が停止状態。
- SportまたはTrackモードを作動します（第2章の「走行モードの選択」の項を参照）。
- 左足でブレーキペダルを踏みます。
- ブレーキペダルを踏んだまま、インストルメントパネルに「Launch Control ON」メッセージが表示されるまで2つのステアリングホイールのパドル1を引きます。
- パドル1を離します。
- 60秒以内に、左足でブレーキペダルを踏んだまま、右足を使用して抵抗点を超えてアクセルペダルを完全に踏み込みます（エンジン速度は最大4秒間車両に応じて、約2,500 rpm、または約3,000 rpmで自動的に安定します）。
- 車両がパワーのある発車するために4秒以内にブレーキペダルをはなします。



最適なスタンディングスタートの場合は、Sportモードを使用します。



滑る、または濡れた道の上でこの機能を使用しないでください。

車両制御の喪失の危険性があります。

システムの無効化条件


特定の条件下では、システムの作動が無効になります。


- 5つの手順が連続して実行された場合、または車両によっては、15秒以内に手順がすでに実行された場合、機能は約10分間中断されます。
- エンジン冷却温度が低くすぎます。
- クラッチ温度が過剰に高くなっています。
- トランスミッションオイル温度が高すぎる。
- 道路傾斜の利率が大きすぎます。
- 車両によって1,000以上または1,500以上が始動します（その後、機能は無効になります）。
- 車両のシステム障害（ESC...）。

注: これらの条件のいずれかによって機能が抑制されている場合、「Launch Control ON」メッセージはインストルメントパネルに表示されません。

スタンディングスタートの手順

2

 車両の走行中にスタンディングスタート手順を開始することは禁止されています（エンジン劣化のリスク）。慣らし運転の詳細については、第2章の「慣らし運転」の記載をお読みください。

 この機能は、車両に応じて最大 1,000 または 1,500 回の使用で設定されます。この制限を超えた場合、この機能は完全に無効になります。残りの使用回数を確認するには、ブランドの取扱者に送ってください。

注: この機能を使用すると、タイヤの摩耗が大幅に加速します。5章の「タイヤ」の項を参照してください。



この機能が提供する加速は、交通条件が許すおよび地域の規制を遵守している場合のみ使用されます。

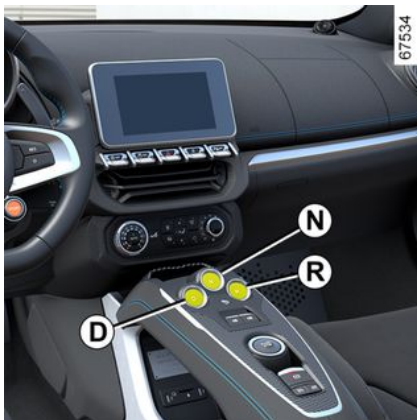
毎回使用前に確認してください。

事故や大ケガを負う危険があります。

シフトコントロール

オートマチックトランスミッション

選択スイッチ



スイッチR、N、Dを使用してさまざまなトランスミッション位置に締結できます。

- (R) 位置: リバースギア。
- (N) 位置: ニュートラル。
- (P) 位置: パーキング。
- (D) 位置: オートマチックモードで走行。
- (M) 位置: マニュアルモードで走行。

インストルメントパネルには、**どの位置が締結しているか**を示す**5**シンボル

とどのギアが締結しているかを示すインジケータ**4**が表示されます。

ギア変更パドル1と2



パドル**1**と**2**は、トランスミッションが「マニュアルモード」(M)または「オートマチックモード」(D)にある場合のギア変更に使用できます。

1. シフトダウンスイッチ (-)。
2. シフトアップスイッチ (+)。

(P)、(N)、(R)の位置はパドルを使用して締結できません。

作動



車両が静止している状態で、イグニッションをオンにして電子パーキングブレーキをかけると、R、N、Dスイッチに組み込まれた表示灯が点灯します。

トランスミッションを位置(P)または(N)に入れた状態で、ブレーキペダルを踏み込んだままで(インストルメントパネルの表示灯**3**が消えます)エンジンを始動します。

「パーキング」位置(P)を解除するには

車両を停止した状態でエンジンを回転させ、ブレーキペダルを踏み、希望する位置(R)、(N)、(M)、または(D)を選択します。

シフトコントロール

(R)、(N)、(D)、または(M)の位置は、車両を停止し、ブレーキペダルに足を置き、アクセルペダルを放し、エンジンが回転している状態でのみ締結できます。

ブレーキペダルが完全に踏み込まれていないと、インストルメントパネルに警告灯3が表示されます。

注：

－ (P) 位置が締結していない状態でドライバーがドアを開けて車両から離れようとする、ピープ音が鳴り、「Pに締結していない」メッセージがインストルメントパネルに表示されません。

－ 警告灯3は、ブレーキペダルを踏んでオートマチックトランスミッション位置を変更する必要がある場合に毎回に点灯します。

「パーキング」位置 (P) を締結するには



車両を停止し、エンジンを回転させるかイグニッションスイッチをオンにして、Nスイッチに内蔵された表示灯が赤く表示されるまでスイッチNを長押しします。インストルメントパネルにPが表示されます。トランスミッションがパーキング位置 (P) にシフトします。

注: エンジン停止ボタンを押してエンジンをオフにすると、(P) 位置が自動的に締結し、装備車両の場合は電動パーキングブレーキが作動します。Nスイッチの表示灯が赤く点灯し、インストルメントパネルにPが表示されません。



位置 (D)、(M) または (R) を選択すると、ブレーキペダルから足を放すと同時に (アクセルペダルを踏まなくても) 車両が前進します。



P表示灯がインストルメントパネルに点灯し、Nスイッチに内蔵されている赤い表示灯が表示されたことを確認してから降車します。

車両のブレーキングの喪失の危険性



「ギヤボックス 点検」または「電気系統故障 危険」のメッセージが表示された場合、またはバッテリーに不具合が生じた場合は、電動パーキングブレーキを使用して車両を停車します。できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

シフトコントロール

ニュートラル (N) を締結するには

車両を停車し、エンジンを稼働した状態で、ブレーキペダルを踏み、Nスイッチを短く押します (Nスイッチ内蔵の表示灯が白く点灯し、インストルメントパネルにNが表示されます)。

注: 位置 (R)、(M) または (D) が締結している場合、(N) 位置を締結するためにブレーキペダルを踏む必要はありません。



操作時にサブフレームに衝撃があった場合 (縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など) 車両を損傷した恐れがあります (リアアクスルの変形など)。放置すると事故が起こるおそれがあるので、正規サービス工場で点検を受けてください。

オートマチックモードで走行: (D) 位置

車両を停車し、エンジンを稼働した状態で位置 (P)、(N) または (R) に締結し、ブレーキペダルを踏み、Dスイッチを短く押します (Dスイッチ内蔵の表示灯が白く点灯し、インストルメントパネルにDが表示されます)。

これらの条件がひとつでも欠けていると、D表示灯が約5秒間点滅し、インストルメントパネルに表示灯3が表示されたままになります。

注: エンジンを回転させ、車両を運転し、(D) 位置に締結した状態でDスイッチを1回押すだけで、マニュアル走行モード (M) に切り替えることができます (Dスイッチに内蔵された表示灯が青く点灯し、インストルメントパネルにMが表示されます)。

通常の走行条件ではスイッチを押す必要はありません。アクセルペダルの踏み込み度合いや選択した走行スタイル、道路の種類に応じて、自動的に最適なギアに切り替わります。

注: エンジンが回転し、車両を0 ~ 10 km/hほどで走行し、(N) または (R) 位置に締結している場合、(D) 位置に締結するためにブレーキペダルを踏む必要はありません。パーキング操作で前進と後進を交互に何度も繰り返す必要がある場合に便利です。



位置 (D)、(M) または (R) を選択すると、ブレーキペダルから足を放すと同時に (アクセルペダルを踏まなくても) 車両が前進します。

経済的に走行するには

運転時には常にトランスミッションを (D) 位置にして、エンジン回転数が低いときに自動的なギアチェンジが確実に行われるようにアクセルペダルを少しだけ踏みます。

一気に加速する

アクセルペダルを素早くいっぱいに踏み込んでください (アクセルペダルが重くなる位置よりさらに踏み込みます)。

こうすることによりエンジンの性能の範囲内で最適なギアにシフトダウンします。

一時マニュアルモードで走行する

一時マニュアルモードは、オートマチックモード (D) がすでに締結されているときに使用できます。

パドルを操作してギアシフトを強制する (一時マニュアルモード) ことができます。

- ギアのシフトダウンを行うには、左パドルを押します。
- シフトアップを行うには、右パドルを操作します。

選択されたギアは、メーターパネルのディスプレイに表示されます。

注: トランスミッションは次の場合にオートマチック走行モードに戻ります。

- 5秒間以上どちらのパドルも操作していない場合。
- Dスイッチをもう一度押した場合。

シフトコントロール

– 右パドルを押し続けた場合。

注意：

特定の運転状況によっては（エンジン保護モード、エレクトロニックスタビリティコントロールの作動: ESCなど）、オートマチック機能が自動的にギアチェンジを行います。

要求されたギアは、道路勾配と走行スタイルに基づいてシステムにより設定された期間だけ維持されます。

この期間が経過するとオートマチックシステムが操作を引き継ぎ、場合によっては自動的にギアチェンジが行われます。

また、誤作動を防止するために、自動制御システムによってギアチェンジが無効になることがあります。この場合、締結したギアがインストルメントパネルに数秒間点滅して警告します。



上り坂で、停止の状態であるためには、アクセルペダルの踏み続けしないで下さ

い。

トランスミッションが過熱する恐れがあります。

マニュアルモードで走行: (M) 位置

車両を停車し、エンジンを稼働した状態で位置 (P)、(N)、または (R) に締結し、ブレーキペダルを踏み、Dスイッチを短く押します (Dスイッチ内蔵の表示灯が白く点灯し、インストルメントパネルにDが表示されます)。(M) の位置に切り替えるには、Dスイッチをもう一度短く押します (Dスイッチに組み込まれている表示灯が青色に点灯し、Mがインストルメントパネルに表示されます)。

パドルを何度か連続でシフトさせると、手動でギアシフトができます。

– ギアのシフトダウンを行うには、左パドルを押します。

– シフトアップを行うには、右パドルを操作します。



選択されたギアは、メーターパネルのディスプレイに表示されます。



注: エンジンを稼働した状態で車両を運転し、(M) 位置に締結した状態では、Dスイッチを1回押すだけでオートマチックモード (D) に切り替えることができます (Dスイッチに内蔵された表示灯が白く点灯し、インストルメントパネルにDが表示されます)。


ギアシフトしきい値インジケータ

表示灯6がインストルメントパネルに表示されている場合:

– 長線とともに白く表示される場合、エンジン回転数に応じたギアが締結していることを示します。

シフトコントロール

-  で赤く表示され、ピープ音が鳴る場合、ギアをシフトアップする必要があることを示します。
-  とともに表示されている場合、シフトダウンする必要があります。

 「Track」モードでは、トランスミッションは恒久的なマニュアルモード (M) に変更します。
オートマチック走行モード (D) に変更するには、「Normal」または「Sport」モードを選択します (第2章の「走行モードの選択」を参照してください)。

注意：

走行条件によっては (エンジン保護など)、オーバーレブの場合やアンダーレブに近づいているときに、自動でギアチェンジが行われることがあります。マニュアルモードは ON のままです。

同様に、不正確な動作を防止するために、トランスミッションによってギアチェンジが無効になることがあります。この場合、締結しているギアの表示が数秒間点滅してドライバーに警告します。

マルチシフト

車両によって、「Sport」「Track」走行モードが ON の場合 (2 章の「走行モードの選択」を参照してください)、いくつかのシフトダウンを素早く行うことが可能です。

トランスミッションを (M) 位置に締結してブレーキをかけた状態で、左パドルを必要なだけ何回も長押しすると、自動的に最適なギアまでシフトダウンできます。

停止する

ボタンを押してエンジンをオフに切り替えると、(P) が自動的に締結し、装備車両の場合はアシストパーキングブレーキ (装備車両の場合) も締結します。Nスイッチの表示灯が赤く点灯し、インストルメントパネルにPが表示されます。

車両が停車し、エンジンが回転している状態で、Nスイッチに内蔵する表示灯が赤く点灯するまでNスイッチを**長押しします**。トランスミッションがパーキング (P) 位置にシフトします。

注意：

エンジンを停止すると自動的に (P) 位置に締結するため、一部の洗車や車両の運搬時などではトランスミッションを (N) 位置にすることが必要な場合もあります。



降車する場合は必ずトランスミッションをP位置にしてエンジンをオフにしてください。

車両が停止していても、ギアの入っている状態でエンジンがかかっていると、車両が動き出す場合があります。

事故の恐れがあります。

エンジンをオフ、イグニッションをオン、ドアを閉じ、トランスミッションが (P) 位置のとき、Nスイッチを短く押すと同時にブレーキペダルを踏むことで (N) 位置に切り換えることができます (Nスイッチに内蔵された表示灯が白く点灯し、Nがインストルメントパネルに表示されます)。

(N) 位置は、運転席ドアが開く前とエンジン停止後45秒以内に締結できます。この時間が経過したか、運転席ドアが開いた後で (P) 位置を解除するには、もう一度イグニッションをオンにすることが必要です。

注：エンジン停止後に締結すると、車両のイグニッションが再びオンになるまで (N) の位置が維持されます。

シフトコントロール

2



「Stop and Start」機能
に関する特記事項:

「Stop and Start」機能によりエンジンがスタンバイ状態になる前に運転席のシートベルトを外す場合、(P)位置に締結していることを確認してください。確認としてP表示灯がインストルメントパネルに表示されます。ブレーキ喪失のリスクがあります。



インストルメントパネルから情報が消えた場合、アシストパーキングブレーキを使用するか、Nスイッチを長押しで（エンジンがオンの場合はスイッチ内蔵のN表示灯が赤く点灯）(P)位置に締結して車を停止し、駐車します。

リバースにするには

車両が停止し、エンジンをオンにした状態で、位置 (P)、(N)、(M)、または (D) に締結し、ブレーキペダルを踏み、Rスイッチを**短く押します**（Rスイッチ内蔵の表示灯が白く点灯

し、インストルメントパネルにRが表示されます）。

リバースギアを選択する（イグニッションオン）と同時にリバースランプが点灯し、車両によって後方カメラが作動します（第2章の「リバースカメラ」の項を参照してください）。

ブレーキペダルが踏み込まれていない場合、R表示灯が5秒間ほど点滅し、**3**警告灯がインストルメントパネルに表示されたままになります。

注: エンジンが回転し、車両を0～10 km/hほどで走行し、(N)または(D)位置に締結している場合、(R)位置に締結するためにブレーキペダルを踏む必要はありません。パーキング操作で前進と後進を交互に何度も繰り返す必要がある場合に便利です。

例外的な状況

路面やカーブによってオートマチックモードを持続できない場合は（山道での走行など）、マニュアルモードに変更することをおすすめします。

そうすることにより、登りで「オートマチック機能」が頻繁に変速することを避けると共に、長い下りでエンジンブレーキを効かせることができます。

メンテナンス期間

オートマチックトランスミッションでスケジュールに従ったメンテナンスが必要であるかどうかを確認するために、車両のメンテナンス資料を参照す

るか、指定サービス工場にご相談ください。

メンテナンスの必要がない場合は、オイルを補充する必要はありません。

作動異常

– **走行中に**インストルメントパネルに「ギヤボックス 点検」というメッセージが表示される場合、これは不具合の発生を示しています。

アシストパーキングブレーキを使用して車両を移動しないようにします。

できるだけ早く正規代理店にご相談ください。

– **走行中に**「ギヤボックス オーバーヒート」というメッセージがインストルメントパネルに表示された場合は、速やかに停車し、トランスミッションを冷やして、このメッセージが消えるまでお待ちください。

– **オートマチックトランスミッション車が故障した場合は**、第5章の「けん引」の項をお読みください。



安全上の理由から、車両が完全に停止するまでは絶対にイグニッションスイッチをOFFにしないでください。

パーキングブレーキ故障

電動パーキングブレーキ

アシスト操作



アシストパーキングブレーキの作動
車両が停車している状態では、エンジンのスタート/ストップボタンを押すとアシストパーキングブレーキが車両を駐車します1。



エンジnstールまたはStop and Start機能によりエンジンがスタンバイ状態にあるとき（第2章の「エンジン始動と停止」および「Stop and Start機能」を参照）など、その他のすべての状況下では、アシストパーキングブレーキは自動的に作動しません。

このような場合は手動機能を使用してください。


アシストパーキングブレーキ機能は、一部の国では作動しません。詳しくは「手動操作」をご覧ください。

アシストパーキングブレーキがかかっていることを確認するため、インストルメントに「パーキングブレーキON」メッ

セージと「」警告灯が表示さ

れ、スイッチ2に表示灯3が点灯します。

エンジンをオフにすると、アシストパーキングブレーキをかけた数分後に表示灯3が消え、車両の施錠時に

 警告灯が消えます。

注: アシストパーキングブレーキの作動をドライバーに知らせるために、警告音が鳴り、「パーキングブレーキを入れてください」メッセージがインストルメントパネルに表示されます:

- エンジンがONの状態では運転席側のドアが開いた場合。
- イグニッションオフの状態（エンジンストール時など）: ドアを開けたとき。

この場合に電動パーキングブレーキをかけるには、スイッチ2を引いて離します。

アシストパーキングブレーキを解除する場合

アクセルペダルを踏み込みながら車両を発進させると、パーキングブレーキは自動的に解除されます。


パーキングブレーキ故障

2



Stop and Start機能に関連する特別な機能: Stop and Start機能によりエンジンがスタンバイ状態


になる前に運転席のシートベルトが着用されていない場合は、パーキングブレーキが作動していることを確認してください。インスト

ルメントパネルに  警告灯が点灯してこれを確認します。
ブレーキング喪失のリスクがあります。



アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前

に、アシストパーキングブレーキが作動していることを確認してください。パーキングブレーキの適用は、ドアが施錠されるまでスイッチ2の表示灯3の点灯および

インストルメントパネルの  警告灯点灯によって確認できます。車両によっては、フロントウインドウの上部にラベルがある場合があります。

一時停止

(赤信号で停車した際、エンジンの回転が止まった際などに) 電動パーキングブレーキを手動でかけるには、スイッチ2を引いて離します。

車両を再発進させるとすぐに、パーキングブレーキは自動的に解除されます。


手動での作動



手動でアシストパーキングブレーキを作動させることができます。


手動でアシストパーキングブレーキを作動させる

スイッチ2を引きます。警告灯3と警

告灯  がインストルメントパネルに点灯します。

手動でアシストパーキングブレーキを解除する

イグニッションをオンにした状態でブレーキペダルを踏んでからスイッチ2

を押します。警告灯3と  警告灯が消えます。

パーキングブレーキ故障

注意：

坂道駐車

斜面に駐車したり、トレーラー牽引中に駐車したりする場合には、スイッチ2を数秒間引いて制動力を最大化します。



電動パーキングブレーキ解除状態での駐車




パーキングブレーキを解除する場合は、その前に車両が安定しているかご確認ください。

電動パーキングブレーキ解除状態で駐車するには、パーキングブレーキの解除が必要です。

方法：

- P位置にシフト：駆動輪が駆動シャフトにより機械的にロックされます。
- エンジン始動／停止ボタン1を押してエンジンを停止します。
- 運転席シートベルトを外します。
- 運転席側ドアを開けます
- 手で電動パーキングブレーキを解除します（詳しくは、「電動パーキングブレーキの手動解除」と題された段落をご覧ください）。車両が安定しているか確認します。
- 運転席ドアを閉めます。必要であれば車両をロックします。


作動異常


- 不具合が生じた場合、インストルメントパネルに  警告灯が点灯して「パーキングブレーキを点検してください」メッセージが表示され、場合に

によっては  警告灯が点灯します。

できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。

- パワーアシストパーキングブレーキ

に不具合が生じた場合は、 警告灯と「ブレーキシステム 不具合」のメッセージが表示され、警告音が鳴り

ます。また、場合によっては  警告灯が表示されます。

その場合、周囲の交通に注意しながら直ちに停車します。



「電気系統故障 危険」、「要バッテリー点検」または「ブレーキシステム 不具合」という

メッセージが表示された場合は、必ず、車両を不動化し、シフトレバーを1速（マニュアルトランスミッション装備車両の場合）位置またはP位置（オートマチックトランスミッション装備車両の場合）にしてください。

条件と傾斜によって必要である場合は、車両に車輪止めを使用してください。

車両のブレーキングの喪失の危険性があります。

正規サービス工場にご連絡ください。

パーキングブレーキ故障

2



車両から離れる際には、必ず、トランスミッションをP位置にし、エンジンスイッチをOFFにしてください。車両が停止していても、ギアの入っている状態でエンジンがかかっていると、車両が動き出す場合があります。**事故の恐れがあります。**



ビジュアルリターンまたは音声がない場合には、インストルメントパネルが故障しています。周囲の交通に注意しながら、直ちに停車してください。車両が固定されていることを確認して、指定工場に連絡してください。

ガソリン車についての注意事項

次のような場合、触媒装置が過熱することがあります：

- 燃料残量警告灯が点灯したまま長時間走行したとき。
- 燃料残量警告灯が点灯した状態で、「スポーティ」な走行や過酷な条件下（カーブの急速なコーナリングなど）で走行するとき。
- 燃料に有鉛ガソリンを使用したとき。
- 指定外の潤滑剤や燃料を使用するとき。

または次のような場合でも、触媒装置が過熱することがあります：

- イグニッションシステムの故障、燃料切れ、スパークプラグの外れなど、走行時に失火や振動などの症状が表れたとき。
- エンジン出力が低下。

触媒装置が過熱すると、排気ガス浄化性能が低下するだけでなく**触媒装置本体の損傷や熱により重大な車両の損傷を引き起こすことがあります。**

上記のような異常が発生したら、無理に走行を続けず、ただちに指定サービス工場で点検修理を受けてください。

メンテナンスブックに記載されている点検整備を指定サービス工場で定期的に受けることにより、異常の発生を未然に防ぐことができます。

エンジン始動時の注意事項

キャタライザーまたはスタータの損傷を防ぎ、またバッテリーの早期の消耗を避けるために、**始動時のエンジンエラーの原因を特定して修正せずに、何度も始動操作を繰り返さないでください（スターターボタンを使用したり、車両を押したり、けん引したりしないこと）。**

原因がわからない場合はそれ以上無理に始動操作を続けず、指定サービス工場にご連絡ください。



枯れ葉や草、紙屑など燃えやすいものの近くで停車したままエンジンを作動し続けしないでください。高温となっている排気系統のコンポーネントに、これらのものが接触して火災になる恐れがあります。

パーティキュレートフィルタ


パーティキュレートフィルタは、ガソリンエンジンからの排ガスの処理に用いられます。

インストルメントパネルの警告灯



が点灯した場合は、パーティキュレートフィルタが飽和状態になって

いて、清掃が必要であることを示しま

す。この場合、警告灯が表示されてからは80 km ~ 110 km/h の範囲内で交通状況に注意しながら制限速度を遵守し、警告灯が消灯するまで走行します。

警告灯は約 20 分後に消灯します。


注意: フィルター清掃に必要な走行条件が完全に満たされていない場合、警告灯が20分後に消灯することがあります。

警告灯が消える前に運転を止めると、作業をやり直すことになります。

フィルタが飽和状態になると、




警告灯が点灯し、車両に応じ

ては警告灯と「インジェクション点検」メッセージがインストルメントパネルに表示されます。この場合は、正規代理店に連絡してください。



警告灯が点灯し、車両に応じ

ては警告灯と「エンジン不具合危険」のメッセージがインストルメントパネルに表示されたら、車両を停止して、正規販売店にお問い合わせください。

ガソリン車についての注意事項

2



警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。正規サービス工場にご連絡ください。

地球にやさしい車づくり

お使いの車両は、その生産から走行を経て廃車へと至るライフサイクルを全うできるよう、**環境**に配慮して設計されています。

製造

本車両は（水やエネルギーの消費を節約し、視覚的、聴覚的侵害を抑え、大気や水への汚染物質の排出を抑え、廃棄物の選別と再生を実施し）自然環境への影響を除去する過程を経た製造場で製作されました。

排気ガス

お使いの車両は、使用中に排出される温室効果ガス（CO₂）の量や使用中の燃料消費量がより少なくなるように設計されています（ガソリン車両では、4.2 L / 100 km 相当の 100 g/km を実現しています）。

さらに（燃料タンクからの燃料蒸発ガスの大気中への放出を防ぐ）触媒コンバータ、O₂センサー、ガソリン蒸気フィルタなどの排気ガス浄化装置を装備しています。

お客様ご自身も、環境保護に参加しているという意識を持ってお取り扱いください。

－ 部品や車両の寿命が終了した場合、部品を捨てないでください。環境

基準に適合する法的存在に渡す必要があります。

71021



－ タイヤやオイル（空または充填済みのタンク）のような、車両の定期保守中に交換する消耗部品や構成部品は、専用の回収場所で処分しなければなりません。

－ 交換した使用済みの**電気**および**電子**部品（バッテリーなど）をゴミとして捨てないでください。認定ディーラに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。

－ 車両のリサイクルを寿命の最後に最適化するために、認定サービス工場に連絡するか、メーカーのウェブサイト参照して、地域の法律に準拠した環境を尊重するための回収ポイントに指示することができます。

リサイクル

お使いの車両は、少なくとも 85% はリサイクル可能で、少なくとも 95% は回収可能な素材で作られています。

そのため多数の部品がリサイクルできるように設計されています。素材と構造は次の目的で慎重に設計されています：

－ これらの部品を簡単に取外して専門会社で再処理することができます。
－ 循環エコノミーの促進（再使用、リサイクル、回収など）

これは、特に電気自動車のバッテリーに該当します。

最初の素材の段階から資源を維持するために、お車には多数のリサイクルされたプラスチック素材と再使用可能な素材（木綿や羊毛のような植物または動物素材）が使用されています。

メンテナンスと環境に優しい運転のアドバイス

2

あなたのお車は 2015 年に施行されるリサイクル基準および使用済み車両の価格設定基準を満たしています。

あなたのお車のいくつかの部品は将来のリサイクルを考慮して設計されています。

これらの部品は容易に分解でき、リサイクルの過程においても処理し易くなっています。

さらに、お車は、設計、初期調整、低燃費などにおいて、排出ガス浄化装置に関する現行法規に適合しています。ルノーでは、地球環境を保護するという企業姿勢により有害排出ガスの削減および省エネルギーに積極的に取り組んでいます。お車を使用するにあたっては、ドライバーや乗員を含めた交通を利用するものすべての責任において、排気ガスや環境汚染物質などの有害排出物の発生を抑え、少しでも燃料の消費を抑えるなどの努力が必要です。メンテナンスをこまめに行って、お車を正しくお使いください。

点検整備

環境保護に関する法規に違反した場合、車両の所有者が処罰の対象となる可能性があります。

エンジンや吸排気システムの部品をメーカー指定品以外の部品に交換したり改造した場合、お車が排出ガス規制やその他の環境保護に関する法規に適合しなくなる恐れがあります。

メーカーが指定するサービス工場にて、整備手帳の指示に従ってお車の調整と点検を受けてください：ルノー指定サービス工場では、お車を新車時の調整にするために必要なすべての設備が整っています。

エンジンの調整

– **スパークプラグ**：消費、作動効率、性能の最適条件は、メーカー社の研究所が定めた仕様に厳格に従わなくてはなりません。

点火プラグを交換するときは、必ず同一メーカーの製品で、お車のエンジンに指定されているものをセットでご使用ください。メーカーにお問い合わせください。

– **エアクリーナー、燃料フィルタ**：目詰まりしたフィルタを使用するとエンジンの作動効率が低下します。定期的に変換してください。

– **イグニッションとアイドリング速度**：調整の必要はありません。

排気ガス浄化装置のチェックシステム

このシステムはお車の排気ガス浄化装置の異常を検出します。

排気ガス浄化装置に異常が発生した場合、有害物質の排出が多くなるだけでなく車両の損傷を引き起こすことがあります。



インストルメントパネル上にあるこの表示灯は、システムに不具合がある可能性を示しています。

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。

– この警告灯が常時点灯している場合は、できるだけ速やかに正規ディーラーにご相談ください。

– 警告灯が点滅する場合は、消灯するまでエンジン回転数を下げてください。できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

燃料消費量は標準的な規制方法に基づいて認証されています。すべてのメーカーで同一され、車両間が比較できません。

実際の使用での消費量は車両、機器、ライディングスタイルの条件によって異なります。消費を最適化するため以下をご参照ください。

車両に応じて、燃料消費量を減らすために利用できるさまざまな機能が用意されていることがあります。

- タコメータ；
- ギア表示灯；
- Stop and Start機能（第2章の「Stop and Start機能」の項をご覧ください）。

ナビゲーションシステムが車両に装備されている場合は、これらの情報を補います。

ギアチェンジ表示1



燃料消費を最適化するため、マニュアルモードではインストルメントパネルの表示灯がシフトアップ/シフトダウンの最適なタイミングを知らせます：

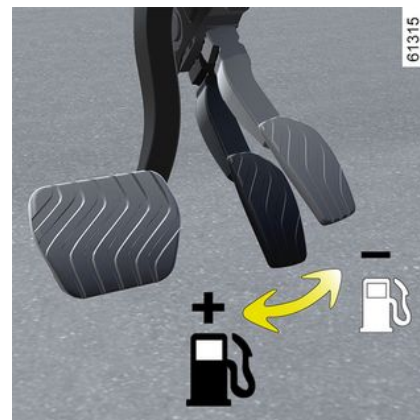


シフトアップしてください。



シフトダウンしてください。

ドライビングアドバイスとECOドライブ



行動

- 停車した状態で暖機運転をするより、エンジンを始動したらすぐに発進するようにしてください。ただし、エンジン温度が通常温度になるまでは、ゆっくりと走行するようにしてください。

- 高速走行は車両の燃料消費量に大きく影響します。

例（定速走行時）：

- およそ時速 130 km/h から時速 110 km/h に減速すると、約 20% の燃料を節約することができます。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

2

– およそ時速 90 km/h から時速 80 km/h に減速すると、約 10% の燃料を節約することができます。

– 「スポーティ」な運転は大量の燃料を使用します。スロットルは穏やかに操作してください。「通常」走行モードを推奨します（1 章の「走行モードの選択」の項を参照してください）。
– 中間ギアでエンジン回転数を上げ過ぎないようにしましょう。

常に出来る限り高めのレンジを使用して走行してください。

– 急加速はやめましょう。

– ブレーキ操作は可能な限り少なめにします。障害物やカーブを早めに察知することにより、アクセルペダルから足を放すだけですみます。

– エンジン停止前の加速は現代の車では無用です。

– 悪天候、浸水した道路：



道路上の水溜りの深さがホイールリムにまで達するようでしたら走行を見合わせてください。

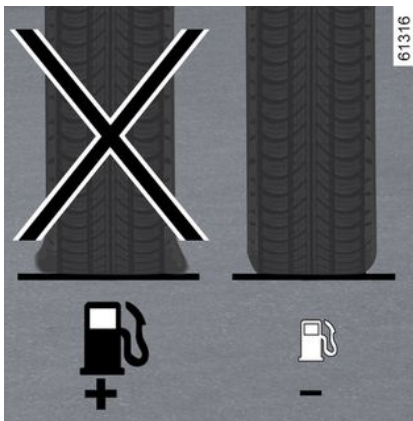
暖房レベル

通常、暖房（特に外気温が 0°C 未満の状況での暖房使用）またはエアコンを使用すると、車両の燃料消費量が増加します。



運転の妨げになるもの

運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてははいけません。
ペダルの動きを妨げる危険があります。



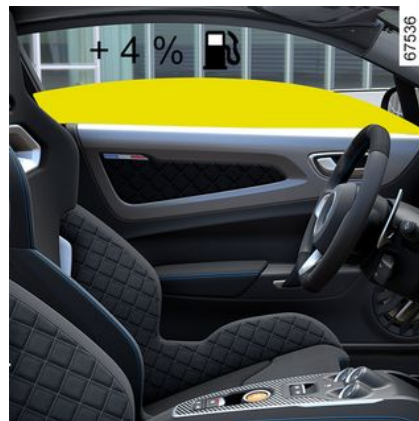
タイヤ

– タイヤ空気圧が低すぎると燃費を悪くします。

– 運転席ドアの下部に示されている最高タイヤ空気圧または推奨空気圧を選

択して、燃料消費量を最適化することができます（4 章の「タイヤ空気圧」の項を参照してください）。

– 非推奨タイヤを使うと燃料消費量が増加します。



エアコンの上手な使い方

– 電気はエンジン（燃料）によって発電されます。不要な電装品の電源は OFF にするよう心がけましょう。**ただし安全のため、視界不良のときにはヘッドランプを点灯するようにしてください。**

– なるべくベンチレーション機能を使いましょう。窓を開けたまま 100 km/h で走行した場合、窓を閉じているときに比べて約 4% 燃費が悪くなります。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

- タンクから燃料が溢れる恐れがあるため、満杯まで給油しないでください。
- マニュアルエアコン装備車両では、不要時にはエアコンをお切りください。

燃料の消費を最小限に抑え、環境を守るためのアドバイス:

炎天下に駐車していたときは、走り出す前にドアやウインドウを開けて熱気を車内から逃すようにしてください。

- 走行距離が短い割に信号などによる停車時間の多いような「近場」のドライブは、できるだけ避けてください。このような短距離の走行では、エンジンが最適な作動温度に達しません。

タイヤ空気圧モニターシステム

2



車両に装備されている場合、このシステムがタイヤ空気圧をモニターします。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。したがって運転される時は、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。

毎月1回、スペアタイヤも含めてタイヤの空気圧を点検してください。


作動原理



各タイヤ（スペアタイヤは除く）のバルブにセンサーが取り付けられていて、このセンサーが空気圧を定期的に測定します。

システムは、現在の警告をインストルメントパネル **3** 上に表示し、空気圧が不十分な場合はその旨をドライバーに警告します。

空気圧が不十分である場合（タイヤの空気圧減少、パンクなど）には、警告

灯  **1** が点灯したままになり、ドライバーに警告します。



警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。

タイヤ空気圧基準値のリセット手順

次の場合には、リセットが必要です；

- タイヤ交換の後；
- 使用条件に適應するために（空荷時、積載時、高速走行）、タイヤ空気圧の基準値を変更しなければいけないとき；
- 左/右ホイールの位置交換後（この方法は推奨されません）➔ **161**。

タイヤ空気圧モニターシステム

システムのリセットは、冷間時に4本のタイヤの空気圧を確認してから行ってください。

タイヤの空気圧は車両の現在の使用に対応していなければいけません（空車時、積載時、高速走行など）。規定空気圧を遵守してください（スペアタイヤも同様）。1か月に一度、または長距離走行の前には、必ず空気圧を点検をしてください（運転席側ドアに貼付されているラベルをご覧ください）

➔ 164。



初期化の手順

リセットの起動条件:

- イグニッションスイッチ ON、
- 車両を停車させます。
- タイヤ空気圧が1.6 バールを超えています ➔ 164。



タイヤ空気圧のリセット条件が満たされない場合は、「タイヤ空気圧SETを使用できません」のメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

リセットするには:

- ボタン4または5を押してトリップパラメータを選択し、ボタン2を使用してディスプレイ3の「タイヤ空気圧: SET（長押し）」機能を表示します。
- ボタン2、4、または5を長押しして（3秒間ほど）、リセットを開始します。「タイヤ空気圧学習 開始」メッセージが5秒間ほど表示されます。タイヤ空気圧の基準値のリセット要求が考慮されています。

走行中には、数分後にリセットが行われます。

注: タイヤ空気圧値を運転席ドアの端、または車両によっては運転席ドアの下部に記載されている推奨値を下回る値にすることはできません。

タイヤ空気圧の調整

圧力は冷間時に調整する必要があります（運転席ドアの端のラベル、または車両によっては運転席ドアの下部に記載されています）。

タイヤが冷えている状態で空気圧を点検できない場合は、推奨空気圧より0.2 ~ 0.3バール（3 PSI）高めに調整してください。

温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。

スペアタイヤ

タイヤ空気圧モニターシステム装備車の場合、スペアタイヤにはセンサが付いていません。

ホイール／タイヤの交換

タイヤ空気圧モニターシステムは、専用装備（ホイール、タイヤなど）を必要とします➔ 161。

タイヤの交換や、このシステムと互換性があり、正規販売網から入手できる純正アクセサリについては、正規ディーラにご相談ください。非正規品のアクセサリを使用すると、システムが正常に作動しない恐れがあります。

タイヤ空気圧モニターシステム

2



タイヤの交換

このシステムは、タイヤの位置と空気圧を極力正しく計算するため、走行によっては数分間かかることがあります。車への作業を行った後は、必ずタイヤの空気圧を点検してください。

タイヤパンク修理剤と空気入れキット

販売網の各社が認定している正規品に限りお使いいただけます。それ以外の者を使うと、システムの有効化遅延や誤作動が生じるリスクがあります

→ 165。

タイヤ空気注入キットの使用後、タイヤの空気圧を調整し、タイヤ空気圧の基準値のリセットを開始します。

タイヤ空気圧の不具合





システムがタイヤ空気圧の異常を検出すると、警告メッセージがインストールメントパネル 3 に表示されます。

タイヤ空気圧モニターシステム

警告のメッセージ

この表には、システムが空気圧の問題（ホイールの空気の抜け、ホイールのパンクなど）を検出したときにインストルメントパネルに表示されるアラートメッセージが含まれています。

警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。

表示灯	メッセージ	読み取り値
 が点灯（点滅ではありません）します。	タイヤ空気圧を調整してください	これは、タイヤの空気圧不足が検出されたことを示しています。冷えているときに4本すべてのタイヤの空気圧を点検し、調整してください。警告は、運転開始から数分後にインストルメントパネルに表示されなくなります。
 + STOP ピープ音とともに表示され、そのままの状態になります。	パンク	これは、該当するタイヤがパンクしているか空気圧が著しく不足していることを示しています。タイヤの空気が抜けている場合は、冷えているときに4本のタイヤの空気圧を調整します。警告は、運転開始から数分後にインストルメントパネルに表示されなくなります。タイヤがパンクした場合は、タイヤを交換するか、タイヤを交換してからシステムをリセットしてください。
 が点滅後に点灯し、  警告灯が表示されます。	タイヤ空気圧センサーの点検	これは、少なくとも1本のタイヤにセンサーが取り付けられていない（スペアタイヤなど）か、センサーが故障していることを示しています。車両によっては、ホイールがインストルメントパネルに表示されなくなりました。メーカーにお問い合わせください。

ドライビングアシストと補正装置

- ABS（アンチロックブレーキシステム）。
- ESC（エレクトロニクススタビリティプログラム、アンダーステアコントロールおよびトラクションコントロール付き）。
- エマージェンシーブレーキアシスト；
- 坂道発進アシスト



これらの機能は車の挙動を運転者の意志に適合させるための、限界運転時の補助サポートで

す。
ただし、この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。車両の限界を超えるものでも、より速い走行を促すものでもありません。運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください（常に細心の注意を払って運転してください）。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

急制動時、ABS はホイールのロックを防止し、制動距離を制御して、車両の

コントロールを可能のまま保持します。



これらの条件により、ブレーキをかけながらの障害物回避操作が可能となります。さらに、このシステムにより接地性の悪い路面（濡れた路面など）での制動距離が最適化されます。

ABS 作動中は、制動中のブレーキペダルに小刻みに振動を感じます。ABS は、タイヤの、路面や路面保持に関する「物理的な」性能を向上させるものではありません。走行速度に応じた適切な車間距離を保つなど、**必ず** 基本的な注意や気配りを怠らないでください。



緊急制動が必要なときには、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキを断続的に操作するポンピングブレーキの必要はありません。ABS がブレーキシステムに掛けられた力を加減します。

作動不良：

-  および  がインストールメントパネルに点灯し、「ABSを点検」、「ブレーキシステムを点検」、「ESC点検」のメッセージが表示：ABS、ESC、および緊急ブレーキアシ

ストが無効になりました。制動力は保たれます。



STOP がインストールメントパネルに点灯し、「ブレーキシステム 不具合」メッセージがインストールメントパネルに表示：これは**ブレーキシステムの故障を示しています**。

いずれにしても、指定の販売店にご相談ください。



この場合でも、ブレーキシステムは部分的に作動します。ただし、**急ブレーキは避けて**、周囲の交通状況に注意しながら、なるべく早く車両を停止してください。正規サービス工場にご連絡ください。

アンダーステアコントロールとトラクションコントロールシステム付き横滑り防止装置ESC


横滑り防止装置 ESC

このシステムによって、緊急時に（障害物の回避、カーブでのグリップの欠如など）車両コントロールを保持することができます。

ドライビングアシストと補正装置

作動原理

ステアリングホイールセンサーは、ドライバーの望んでいる運転経路を感じ知します。

その他のセンサーは車両の各部に配置され、実際の運転経路を測定します。システムはドライバーの操作と車両の実際の経路と比較し、必要に応じて特定のホイールの制動やエンジン出力に作用して経路を修正します。システムが作動すると、インストルメントパネルの表示灯  が点滅します。

アンダステア制御

このシステムは、アンダステア（フロントアクスルの路面保持性能の欠如）が生じた際に ESC の作動を最適化します。

トラクションコントロール

このシステムは発進または減加速時のホイールスピン（空転）を抑え、車をコントロールする働きをサポートします。



作動原理

ホイールセンサーにより、システムは常に駆動輪の速度を測定比較し、オーバーレブを検知します。1 輪が空転し始めると、空転しなくなるまでそのホイールにブレーキをかけます。

同時にエンジン回転数もアクセルペダルの踏み込み量とは関係なく制御され、ホイールスピンを抑えます。

作動異常

システムによって動作障害が検出されると、「ESC 点検」メッセージと

 および  の警告灯がインストルメントパネルに表示されます。この場合 ESC とトラクションコントロールが作動解除されます。正規サービス工場にご連絡ください。


ESC とトラクションコントロールが Track モード

スイッチ **1** を長押しして Track モードを選択すると、ESC 機能を変更し、ドライバアシストを遅延できるようになります（第2章の「走行モードの選択」の項をご覧ください）。




ESC 機能とトラクションコントロール機能の停止

濡れた地面、雪道、ぬかるみを走行する場合や、Sport、Track モードで走行する場合などでは、スイッチ **2** を長押ししてこれらの機能を無効にすることができます。

 警告灯と「ESC OFF」のメッセージがインストルメントパネルに表示されて警告します。

スイッチ **2** を短く押すことでいつでもこれらの機能を再作動できます。

 スイッチ **1** を押して走行モードを変更すると、ESC 機能とトラクションコントロール機能が再作動します（第2章の「走行モードの選択」の項を参照してください）。

緊急時ブレーキアシスト

ABS を補助して、車両の制動距離を短くするシステムです。

作動原理

このシステムは急ブレーキを検知することができます。急ブレーキをかけると、ブレーキアシストが瞬時に最大性能を発揮し、ABS 制御を作動します。ブレーキペダルから足を放さない限りブレーキ ABS は維持されます。

ハザードの点灯

ドライビングアシストと補正装置

車両によっては、急激な減速を検知するとハザードランプを点灯させます。

ブレーキアンティシペーション

車両によっては、アクセルペダルから急に足を放すと、システムがブレーキ操作を先取りし、制動距離を短くします。

注意：

クルーズコントロール使用時：

- アクセルペダルを使用する場合、ペダルから足を離すとシステムが起動することがあります。
- アクセラレータを使用しない場合、システムは起動されません。

作動異常

システムが機能に異常を検出すると、「ブレーキシステムを点検」がインストルメントパネルに表示され、



警告灯が点灯します。

正規サービス工場にご連絡ください。



これらの機能は車の挙動を運転者の意志に適合させるための、限界運転時の補助サポートで

す。

この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。**車両の限界を超えるものでも、より速い走行を促すものでもありません。**運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならぬことを忘れないでください（常に細心の注意を払って運転してください）。

ヒルスタートアシスト

勾配の角度によっては、このシステムは坂道発進の際にアシストします。ドライバーがアクセルを踏むためにブレーキペダルから足を上げたときに、ブレーキが自動的に掛かって、車両が後退するのを防ぎます。

エアサスペンションの作動

この機能はトランスミッションがD位置にあり、車両が完全に停止しているとき（ブレーキペダルを踏み込んだ状態）のみ作動します。

このシステムは約**2秒**間車両を保持します。その後ブレーキは徐々に解除さ

れます（勾配に応じて車両は走行します）



坂道発進アシストシステムは、急な勾配などでは車の後退を完全に防ぐことができるわけではあり

ません。

ドライバーはどんな場合でもブレーキペダルを踏んで、車両の後退を防ぐことができます。

長時間の停車には坂道発進アシスト機能を使用せず、代わりにブレーキペダルを使用してください。

この機能は常時車両を停止させるために使用するものではありません。

必要に応じてブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。運転者は滑りやすい路面やグリップの弱い路面では特に慎重に運転してください。

大ケガを負う危険があります。

スピードリミッター



スピードリミッターは選択した走行速度（設定速度と呼びます）を超えないようにする機能です。

制御



1. メインの「オン/オフ」スイッチ。
2. スイッチ：
 - a. 制限速度 を作動、保存、上昇します(+).
 - b. 設定速度を減少します(-)。
3. 保存された制限速度を作動、呼び出します (RES)。
4. 機能をスタンバイ状態にし、制限速度を記憶できます (0)。

作動

⚙️ 側のスイッチ1を押します。インストルメントパネルに ⚙️ 表示灯が

橙色に点灯し、点線が表示され、スピードリミッターが作動していること、そして設定速度の入力を待っていることを知らせます。

現在の車速を保存する場合は、a側のスイッチ2を押します (+): 長線の代わりに設定速度が表示されます。

保存できる最低速度は30 km/hです。

発進する



制限速度がメモリされている場合には、その速度に達していない限り、走行はスピードリミッタの装備されていない車両と同様に行なわれます。

記憶速度に達すると、緊急時以外は、アクセルペダルを踏んでもプログラミングされた速度を超えない状態になり

スピードリミッター

ます（詳しくは、「制限速度の超過」にある情報をご覧ください）。

2

設定速度の変更

制限速度設定値を変更するには、スイッチ2を繰り返し押します:

- 速度を上げるには**a**側 (+)。
- 速度を下げるには**b**側 (-)。



スピードリミッター機能はブレーキシステムにはいかなる影響も与えません。

設定速度を超えて加速させる

次の操作を行うといつでも設定速度を超えることができます: これを行うには、アクセルペダルを抵抗点を超えて**完全に底まで**踏み込みます。

設定速度を超えている間は、メーターパネルの設定速度が赤く点滅します。

次に、アクセルペダルを放します。走行速度がメモリーされている制限速度以下の速度になると、スピードリミッターの機能と表示は元の状態に戻ります。

設定速度を維持できない場合

急激にスピードを落とすと、システムが制限速度を維持できないことがあります: 保存された速度がインストルメ

ントパネルに赤く点滅し、ピープ音が通常の間隔で鳴ってドライバーに知らせます。

機能のスタンバイ



スイッチ4を押すと、スピードリミッター機能が一時停止します (0)。この場合、設定速度はメモリーされ、メモリーされた速度がインストルメントパネルに表示されます。

設定速度の呼び出し


設定速度が保存されている場合、スイッチ3を押すと設定速度を呼び出すことができます (RES)。



スピードリミッターがスタンバイ状態のときに、スイッチ2の**a** (+) 側を押すと、保存されている速度を考慮せずに機能が再作動し、現在の車速が登録されます。

クルーズコントロールの停止



スイッチ1を押すとスピードリミッター機能が中断します。この場合、速度は保存されなくなります。インストルメントパネルの表示灯 (橙色)  が消灯し、機能が停止したことを示します。

クルーズコントロール



クルーズコントロールは、**制御速度**と呼ばれる選択した一定値に走行中の速度を保つのをアシストする機能です。常用速度は任意に設定することができます（30 km/h以上）。



クルーズコントロールはブレーキシステムにはいかなる影響も与えません。

制御



1. メインの「オン/オフ」スイッチ。
2. スイッチ：
 - a. 常用速度を作動、保存、上昇します (+)。
 - b. 常用速度を下げます (-)。
3. メモリーされた制御速度による作動 (RES)。
4. (巡航速度が記憶された状態で) 機能をスタンバイ状態にできます (0)。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、いかなる場合でも、ドライバーには、制限速度

度を守り、速度内で走行する責任があります。運転者は常に車両を制御する必要があります。

したがって、どのような場合でも速度制限に注意し、細心の注意を払う（突然の事態にもブレーキを踏めるように常に備える）必要があります。操作中の責任はドライバーにあります。

交通渋滞時、曲がりくねった道や滑りやすい路面（凍結、ハイドロプレーニング、砂利）、天候不良時（霧、雨、横なぐりの雨など）にはクルーズコントロールを使用しないでください。

事故の恐れがあります。

クルーズコントロール

作動



側スイッチ1を押します。

表示灯が点線付きで緑色に点灯した場合は、クルーズコントロール機能が作動し、設定速度の入力を待機しています。

設定速度の設定

約30 km/h以上の安定した速度で、a (+) 側のスイッチ2を押します: 機能が作動し、現在の速度が保存されます。

ダッシュの代わりに設定速度が表示されます。制御速度が緑で表示され、警

告灯が点灯することでクルーズコントロールを確認できます。車速 30 km/h 以下で機能を有効にすると機能は作動しません。

発進する



設定速度がメモリーされ、システムが作動しているとき、足をアクセルペダルから放すことができます。



緊急事態に備え足をペダルの側に置く必要があります。

設定速度を変更する



スイッチ2を連続して押すと常用速度を変更することができます:

- 速度を上げるにはa側 (+)。
- 速度を下げるにはb側 (-)。



クルーズコントロールはブレーキシステムにはいかなる影響も与えません。

設定速度を超えて加速させる

アクセルペダルを踏めば、いつでも加速することができます。設定速度を超えている間、メーターパネルのクルー

クルーズコントロール

ズコントロールの表示灯が赤く点滅します。

またアクセルペダルを放すと数秒後に自動的に最初の設定速度に戻ります。

設定速度を維持できない場合

急激にスピードを落とすと、システムが追いつけないことがあります：メーターパネル上のメモリーされている設定速度は赤く点滅して、このことをドライバーに知らせます。

機能のスタンバイ



以下を行うと機能が一時停止します：

- スイッチ4 (0)。
- ブレーキペダルを踏む
- ギアをN位置にシフトします。

3 つすべての場合に、設定速度がメモリーされ、インストルメントパネルに速度が表示されます。


スタンバイは、設定速度がグレーで表示されることで確認されます。

設定速度の呼び出し

設定速度がメモリーされている場合は、交通条件（交通量、車道の状態、気象条件など）が適切であることを確認してから設定速度を呼び出すことができます。車速が30 km/hになったらスイッチ3 (RES) を押します。

メモリーされた速度の呼び出し中には設定速度が緑で点灯し、クルーズコントロールの作動を確認することができます。


注意：メモリーされている設定速度が現在の走行速度よりもはるかに高い場合は、車両はその設定速度に達するまで急な加速を続けます。

 常用速度が一時停止しているときに、スイッチ2のa側 (+) を押すと、保存された速度を考慮せずに常用速度機能が再起動します：車両の現在の速度が考慮されます。

クルーズコントロールの停止



スイッチ1を押すと、常用速度機能が非作動になります：この場合、速度は

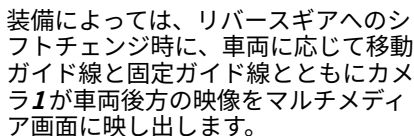
保存されなくなります。緑の  表示灯が消灯し、機能が停止したことを示します。



クルーズコントロール機能をスタンバイ状態またはOFFにしても急減速はしないため、原則するにはブレーキペダルを踏んでください。

2

作動




注: 車両設定のカスタマイズメニューから一部の設定を調整できます ➔ 63

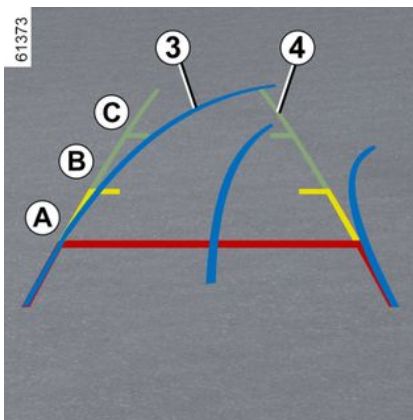
特徴

カメラのレンズが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。



 この機能は補助的機能です。したがって運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。

ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください:
車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがいないことを確認します。



可動ガイド線 3

(車種によります)

これはマルチメディア画面 **5** に黄色で表示されます。ハンドルの切れ角に応じて、車両の軌道を示します。

固定ガイド線 4

固定ガイド線には、次のような、車両の後方における距離を示す色付きのマーカー **A**、**B**、**C** が含まれています。

- 車両からの距離が約 30 cmであることを示す **A** (赤色)。
- **B** (白色) 車両から約 60 cm。
- **C** (青色) 車両から約120cm。



このガバリは固定したままで、車輪が車両と平行していれば車両の軌道を示します。

このシステムはひとつ、または複数のゲージ（軌道は可動式、距離は固定ゲージ）をもとにしています。赤の部

パーキングアシスト

分に達したら、バンパーのイメージを参照して、正確に停車してください。

i スクリーン上には、反転した映像が映ります。
ガイドは平坦な地面の上に投影された映像であり、地上にある物体を無視し、ガイドがその上に重なった状態で映し出されます。
スクリーン上に、物体がゆがめられた状態で映ることがあります。
光度が強すぎる場合（雪、車両に直射日光が当たっているなど）、カメラの視覚が妨害されることがあります。
トランクが開いているか、または誤って閉じられている場合は、「トランク開口部制御」メッセージが表示されます。

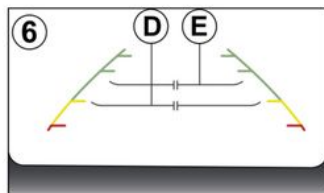
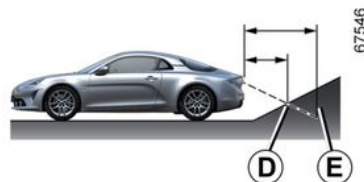
作動異常

シフトレバーが「後進」位置の状態ですシステムが作動不良を検出すると、マルチメディア画面 **2** が一時的に暗転します。

これは、カメラまたは画面に影響を与える故障（クリア、固定画像、通信の遅れなど）によって引き起こされる可能性があります。

暗転画面の一時的な表示が続く場合は、認定ディーラにお問い合わせください。

推定される距離と実際の距離の相違

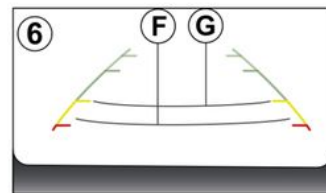
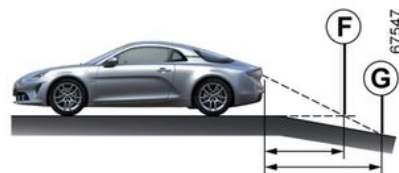


きつい上り勾配での後退

固定ガイド線 **6** の示す距離が実際よりも近くなります。

画面に表示される対象物は、斜面では実際にはより遠くにあります。

具体例を挙げると、画面の **D** 位置に対象物が表示されている場合、対象物が実際にある場所は **E** であり、そこまでの距離が実際の距離となります。



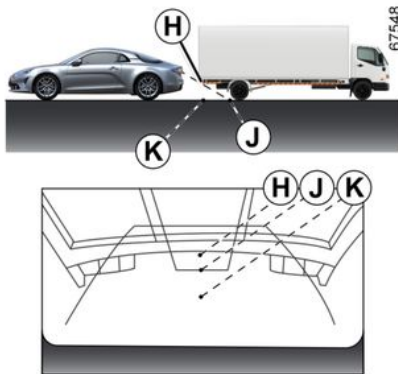
きつい下り勾配での後退

固定ガイドライン **6** の示す距離が実際よりも遠くなります。

したがって、画面に表示される対象物は、斜面では実際にはより近くにあります。

具体例を挙げると、画面の **G** 位置に対象物が表示されている場合、対象物が実際にある場所は **F** であり、そこまでの距離が実際の距離となります。

パーキングアシスト



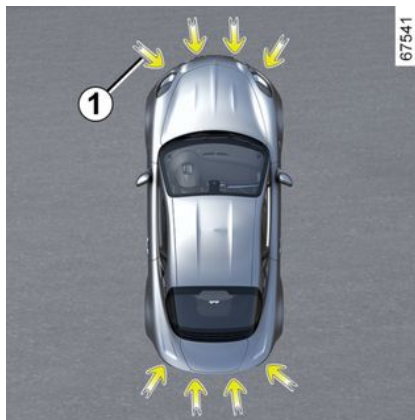
突き出た対象物に向かう後退

画面上では、位置 **H** が位置 **J** より遠くに見えますが、実際には、位置 **H** と位置 **K** と同じ距離にあります。

固定ガイドラインおよび移動ガイドラインによって示される行跡では、対象物の高さは考慮されていません。そのため、位置 **K** に向かって後進すると、車両が対象物に衝突するリスクがあります。

パーキングアシスト

はじめに



車両付近の障害物を検出できるよう、車両のバンパーには、矢印 **1** が示すような超音波センサーが取り付けられています。

この機能は、信号音と表示により、障害物検出箇所であることをドライバーに警告します。

車両装備により、システムは、車両の後方、前方および側面にある障害物を検出します。

パーキングアシストシステムは、車速約 10 km/h 未満での走行中以外は作動しません。

この機能では、システムによって認識されない運搬システムは考慮されません。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

したがってドライバーは後退時、責任をもって慎重に後退させなければならないことを忘れないでください。

ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください：車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがいないことを確認します。



操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）

車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

パーキングアシスト

超音波センサの位置

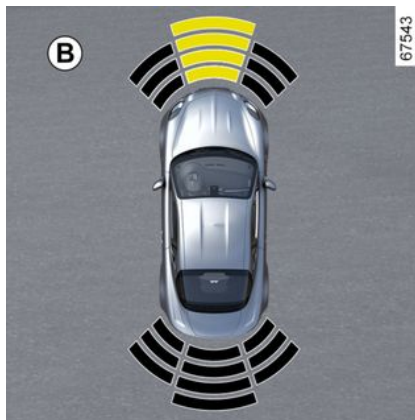
矢印**1**で示す超音波センサに障害物がないこと（汚れ、泥、雪、取付け不良のナンバープレートなど）、傷がないこと、変形がないこと（塗装を含め）、後部または車両に応じて車両の前方に取り付けられたアクセサリで妨げられていないことを確認します。

作動



ディスプレイ **A** が車両周辺の状況を表示しビープ音を鳴らします。

障害物の検出



車両の後方付近（機器によっては前方も）にあるほとんどの物体を検知します。

接近するにつれてビープ音の頻度が高くなり、前方または後方に障害物を検知すると、約 30 cm の距離になると、連続したビープ音になります。

障害物検出箇所が（表示 **B**）のように表示されます。車両によっては、検出障害物までの近さに応じて、検出箇所が緑色、オレンジ色または赤色で表示されます。

i 操作中に進行方向が変わると、障害物との衝突リスクを示す信号に遅れが生じることがあります。

ON/OFF

パークアシストは、設定メニューからオン/オフにできます ➔ 63。

パーキングアシスト自動作動解除スイッチ

次のときにシステムは自動的に解除されます：

- 車速が約 10km/h 以上になったとき。
- 車両によっては、車両が約 5 秒を超えて静止し、前方に障害物が検知された場合（渋滞時など）。
- シフトレバーが **N** 位置にある場合。
- 作動不良が検出された場合。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、次のいずれかの状態になります。

- 後進ギヤにした際にビープ音が約 3 秒間鳴り、「パーキングアシスト 要確認」というメッセージおよび警告灯



がインストルメントパネル上に表示される状態。

パーキングアシスト

– システムから音が出ない（意図的に無効化していないにもかかわらず音が出ない）か、後進ギヤにしても何も表示されない状態。

超音波センサがきれいか確認します。不具合が続く場合は、正規ディーラーにご相談ください。

i 車両の走行速度が約 10 km/h 未満だと、車両周辺（の自動二輪、ローリー、空気ドリルなど）からの騒音でパーキングアシストの警告音が鳴る場合があります。

i システムサービス / 修理

– 車両が衝撃を受けると、超音波センサーの位置ずれが生じ、その作動に悪影響が及ぶ可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。

– 超音波センサー設置箇所付近での作業（修理、交換など）は、有資格専門作業員にご依頼ください。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– 不安定な天候条件（雨、雪、あられ、薄氷など）、

– 車両周辺（の自動二輪、ローリー、空気ドリルなど）からの騒音。

– 互換性がないけん引ボールまたはフックの取付け。

誤アラームまたは警告なしのリスク

システムの作動に異常が発生した場合は正規ディーラーまでご連絡ください。

i システム作動時間の制限

– システムの正常な動作を保証するためには、超音波検出ゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。

– 車両に近づく小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。

– 車両に近すぎる障害物はシステムにより検出できない場合があります。

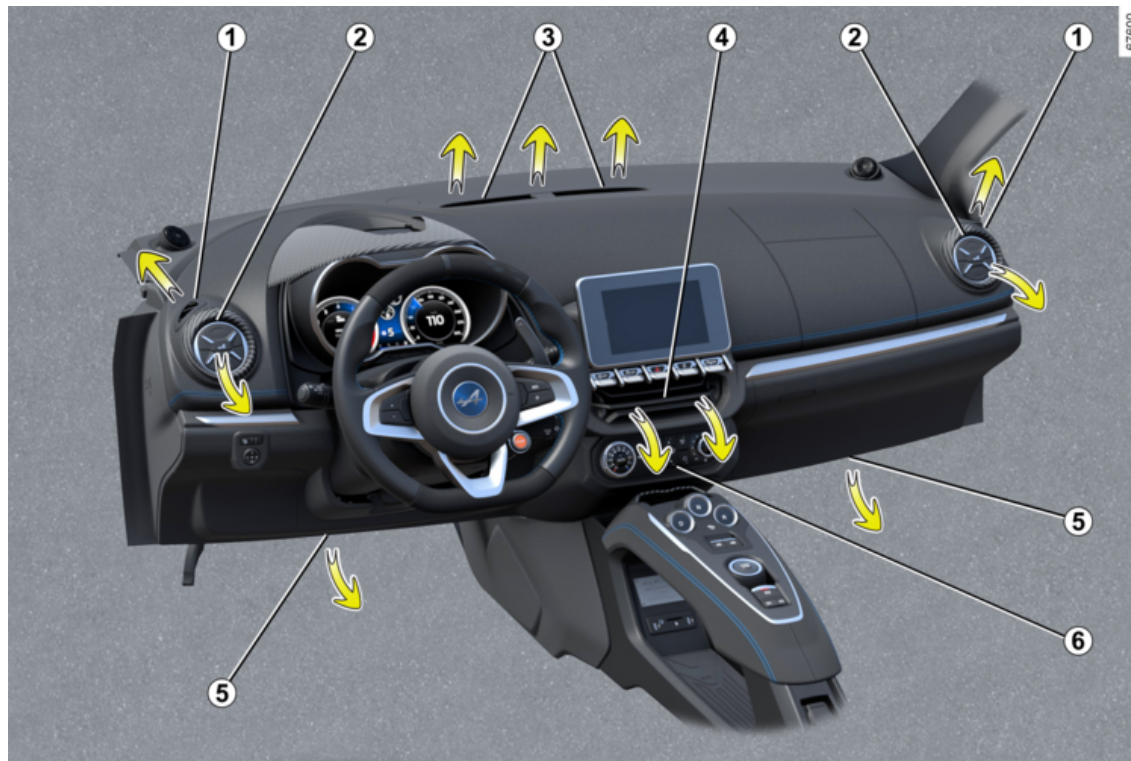
– 他車両または障害物と自車両の走行速度が大きく異なる場合、システムは警告を表示しないことがあります。

– 操縦中の軌道変更時に、システムが障害物を遅れて報告することがあります。

エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

ベンチレーター: エアアウトレット

吹き出し口



エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

1. サイドウィンドウデフロスター吹き出し口
2. サイドベンチレーター
3. フロントウィンドウデフロスター
4. センターベンチレーター
5. 足元吹き出し口
6. コントロールパネル

エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

センターベンチレーター



センターエアベンチレーター4は調整できません。

サイドベンチレーター



風量の調節

エアベンチレーター2を開くには、必要だけエアベンチレーター（7の部分）を押します。

風向きの調節

送風を調整するには、サイドベンチレーター2を回転させます。

車内の悪臭には専用のシステムのみをご利用ください。正規サービス工場にご連絡ください。

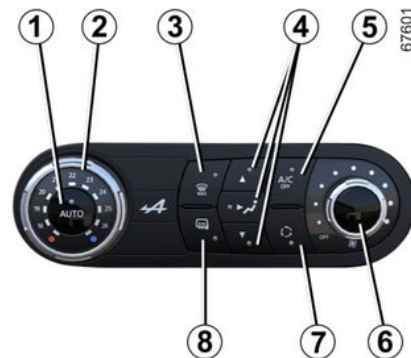


悪臭が入ってくる場合などに車両のフロアに物を挿入しないでください。

故障や火災の恐れがあります。

オートエアコン

スイッチ類



(車種によります)

1. オートモードスイッチ
2. 温度調節。
3. 「シークリアー」機能。
4. 吹き出し口切り替え。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

5. エアコン作動スイッチ

6. 風量調節

7. 内気循環。

8. バックミラーと、車両によってはリアウインドウのデフロスター

- オートモードスイッチ

オートマチックエアコンディショナーは、車内の快適性と良好な視界を確保するシステムで、燃費にも最大限配慮しています（最低温度または最高温度使用時を除きます）。システムはファンの回転速度、吹出し口切替え、内気循環、エアコンの作動または停止およびエア温度を制御します。

AUTO：外部条件に応じて選択された快適さレベルへの最適化。ボタン **1** を押します。

風量の変更

オートモードでは、システムは快適な温度を維持するため最適な風量を制御します。

ただし、スイッチ **6** を回して送風速度を調整し、送風速度を上昇 / 下降することもできます。

温度調節

スイッチ **2** を希望する温度に合わせて回します。

ボタンを右にずらすと温度が上昇します。

「クリアビュー」機能

ボタン **3** を押すと、ボタン **3** と **8** の表示灯が点灯します。

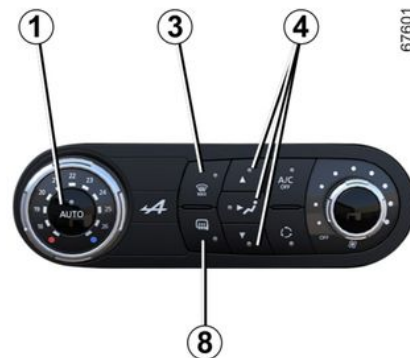
この機能により、フロントウィンドウ、フロントサイドウィンドウ、ドアミラー、リアウインドウ（車両によって）の急速なデフロスターおよびデミスター機能が作動します。これにより、エアコンが自動的に作動します。

この機能を終了させるには、ボタン **3** または **1** を押します。



いくつかのボタンには、作動状態表示灯が内蔵されています。

吹出し口の切替え



ボタン **4** のいずれかを押します。選択されたスイッチに内蔵された表示灯が点灯します）。

一度に2つのポジションを組み合わせることができます。2つのボタン **4** を押します。



主にすべてのベンチレーターに分散され、前席左右のサイドウィンドウデフロスター、フロントデフロスターから送風されます。



主に、ダッシュボードの送風口から送風されます。

エアベンチレーター、ヒーター、エアコン



主に、乗員の足元（ダッシュボード下）にある送風口から送風されます。

デフロスター機能



ボタン **8** を押すと、内蔵警告灯が点灯します。この機能により、バックミラーと、車両によってはリアウィンドウの急速なデフロスター機能が作動します。

この機能を終了するには、もう一度ボタン **8** を押します。デフォルトでは、デフロスターは自動的に停止します。

エアコンディショナーの始動または停止

オートモードでは、システムは外気の気候条件に応じてエアコンの作動または停止を制御します。

エアコンを停止するには、ボタン **5** を押します。内蔵表示灯が点灯します。

内気循環の作動（車内を外気から遮断）



汚染地域を走行する場合などには、再循環機能を随時作動させ、車内への外気流入を遮断することができます。



デフロスター／デミスターは常に内気循環に優先して作動します。

手動でのご使用

ボタン **7** を押すと、内蔵警告灯が点灯します。

注: ウィンドウの結露を防ぐため、この機能は、システムにより自動的に無効化されることがあります。ボタン **7** と一体化された表示灯が消灯します。

この機能を終了するには、もう一度ボタン **7** を押します。

強制内気循環機能の停止

スイッチ **6** を「OFF」に回すと、システムが停止します。システムを作動させるには、もう一度スイッチ **6** を回し、風量を調節するには、スイッチ **1** を押します。

エアコン: 情報と使用に際してのアドバイス

エアコンの上手な使い方

場合によっては（エアコンの停止、内気循環モードの作動、風量調節スイッチが **0** または弱になっているなど）、ウィンドーガラスが水蒸気で曇ることがあります。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

そのような場合には、「クリアビュー」機能を使用して水蒸気を除去してから、エアコンをオートモードでご使用になると水蒸気が発生しません。



悪臭が入ってくる場合などに車両のブローに物を挿入しないでください。

故障や火災の恐れがあります。

点検整備

点検時期については整備手帳を参照してください。



寒冷時にも少なくとも月に一度、約5分間、エアコンを定期的に使用してください。

燃費

エアコンを使用すると燃費が悪くなります（特に市街地）。

マニュアルエアコンディショナー装備車の場合、必要ないときにはエアコンディショナーを停止するようにしてください。

燃料の消費を最小限に抑え、環境を守るためのアドバイス:

換気口は開け、ウインドーは閉めて走行してください。

炎天下に駐車していたときは、走り出す前にドアやウインドウを開けて熱気を車内から逃すようにしてください。

作動異常

作動不良の場合は、指定サービス工場でご点検をお受けください。

– デフロスター、デフォッガー、またはエアコンの効きの低下。

室内フィルタのカートリッジの詰まりが原因かもしれません。

– 冷気が出てこない。

各スイッチが適切な位置にあるか、ヒューズが切れていないか点検してください。これらに問題がない場合には作動を停止します。

車両の下に水が溜まる場合

エアコンディショナーを長時間使用すると車両の下に水が溜まることがありますが、これは室内の湿気が凝縮し、排出されたものです。これは結露が原因です。

冷媒



冷媒流体回路（一部の成分は密閉されています）には、フッ素化された温室効果ガスが含まれている可能性があります。

車種によっては、エンジンルーム内に貼付されたラベルAに次の情報が記載されています。

ラベルAにある情報の有無やラベルの場所は、車両に応じて異なります。



冷媒の種類



(XXX) エアコンディショナ回路のオイルの種類



可燃物

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン



車両の取扱説明書を参照してください



点検整備

x.xxx kg	(1) 車両内の冷媒流体量。
GWP xxxxx	(2) 地球温暖化係数 (CO2換算)。
CO2 eq x.xxxt	(3) CO2換算重量。



エンジンルーム内の作業を始める前に、電源を必ず切ってください。(2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください)。

追加情報

ラベルや冷媒の種類に応じて次のようになります。

冷媒R-1234yf

- (1) 0.535 kg
- (2) GWP 0,501
- (3) 0.0003 t



絶対に自分でエアコンディショナーシステムの配管類を外さないでください。目や皮膚に思わぬ

怪我を負うことがあり非常に危険です。

マルチメディア装備

マルチメディア差し込み口2



USBポートを使用して、アクセサリーのマルチメディアコンテンツにアクセスし、システムをアップデートすることができます。

さまざまなソースは、マルチメディア画面またはラジオとステアリングコラムコントロールを使用して選択できます。



このソケット USB は、アクセサリ充電にも使用でき、充電時の最大電力は、ソケット当たり 12 W (5 V) です。

Jack 差し込み口は、補助ケーブルでラジオを使用できます。



電力が 12 W を超えるアクセサリーは接続しないでください。
火災の恐れがあります。



アクセサリからUSBポートにケーブル（smartphone 充電ケーブルなど）を接続した場合、不要になったらケーブルを外してください。

ケーブルの端部を金属製の物体（シガレットライターなど）に触れさせると、ショートが生じ、USBポートに損傷が及ぶ危険があります。

室内装備

パワーウィンドウ

パワーウィンドウ



スイッチ1または2をいっぱいまで押したり、引いたりすることで、ウィンドウを完全に開けたり、閉めたりできます。作動中にパワーウィンドウスイッチに触れると作動が停止します。運転席からスイッチを操作します。

1. 運転席側
2. 助手席側。



ドライバーの責務

たとえ短い時間でも絶対に、お子様、支援が必要な大人、またはペットを車内に残して、カードを車内に置いたまま、お車から離れないでください。

お子様（やペット）がエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。

体の一部をはさみ込まれた場合は、該当スイッチを押してすぐにウィンドウを下ろしてください。

大ケガを負う危険があります。

ワンタッチパワーウィンドウを作動できない

ワンタッチパワーウィンドウには、熱保護が装備されています。ウィンドウのスイッチを1回連続して押すと、保護モードに入ります（ウィンドウがロックします）。

次のようなことができます：

- パワーウィンドウスイッチを短く、約 30 秒間隔で使用します。
- エンジンが作動している状態で、パワーウィンドウスイッチの約 20 分後にウィンドウがロック解除されます。

作動異常

ウィンドウが閉まらない場合、システムは通常モードに戻ります：該当のスイッチを必要な回数押してウィンドウを完全に閉め（ウィンドウは徐々に締まる）、スイッチを1秒間押し続けて（まだ閉側にある）から、ウィンドウを完全に下げて再び上げ、システムを初期化します。

必要に応じて、指定サービス工場にお問い合わせください。

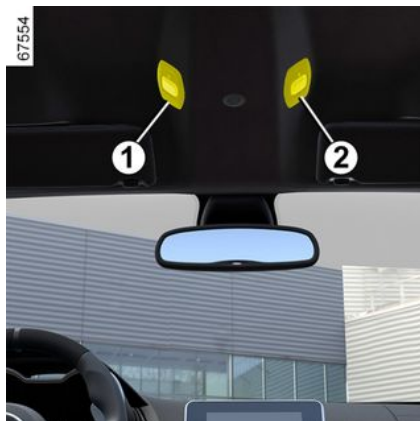


少し開いたウィンドウに物を挟まないように注意してください：ウィンドウレギュレーターが損傷する恐れがあります。

室内装備

ルームランプ

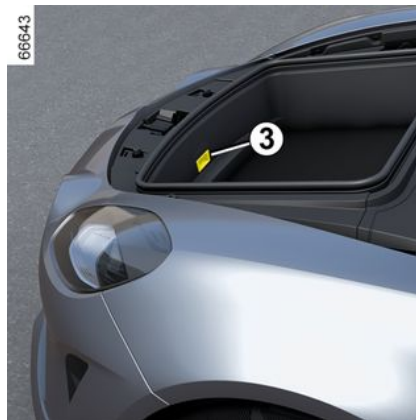
カーテシーランプ



ドアが1つでも開いていると、ランプ**1**または**2**が点灯します。ランプは、開いたドアを正しく閉めた後、しばらくしてから消灯します。

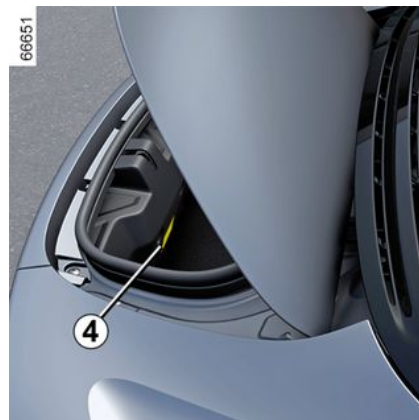
ドアを閉め、運転席のランプ**1**または助手席のランプ**2**を点灯させるスイッチを押すと、常時点灯させたり、すぐに消灯したりできます。

ボンネットグローブボックスライト3



ボンネットを開けるとランプ**3**が点灯します。

ラゲッジルームランプ4



ランプ**4**はトランクを開けると点灯します。

i ドア、リアラゲッジルーム、またはボンネットのロックを解除して開けると、ルームランプとドアランプが一時的に点灯します。

室内装備

アクセサリ電源



ソケット**1**を使用できます。ルノーテクニカルサービス認可アクセサリ接続用です。



電力が 120 W (12 V) を超えるアクセサリは接続しないでください。

複数のアクセサリソケットを同時に使用する場合、接続されたアクセサリの合計電力が 180 W を超えないようにする必要があります。

火災の恐れがあります。

各部の収納スペース

グローブボックス1



携帯電話入れ2



堅くて重いものや先のとがったものは絶対に蓋のない収納部に入れないください。このようなものが入っていると、急角度で曲がったり、急ブレーキをかけたりした時や、事故の時に、飛び出して乗員がケガをするおそれがあります。

カップホルダー3

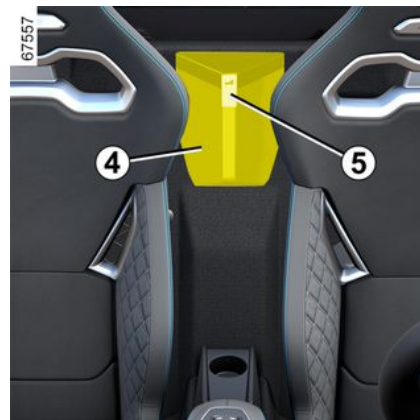


ここには、取外し式灰皿、小瓶などを収納できます。



ペットボトルやコップはカップホルダーに入れ、カーブを切ったり、加速したり、ブレーキをかけたときに中身がこぼれないように気をつけてください。
熱いものがこぼれると、火傷をするおそれがあります。

グローブボックス4



(車種によります)

開くには、カバー5を持ち上げて、グローブボックス4にアクセスします。そこには水のボトルなどを収容することができます。



グローブボックス4の最大許容積載荷重: 2 kg、均一に分散。

各部の収納スペース



走行中は、グローブボックスのカバー4を閉じてください。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



床の上（運転席の前）には物を置かないようにしてください。急ブレーキが必要ときに、ペダルの下に物が滑り込んで急ブレーキを踏む妨げになる危険があります。ペダルの動作を妨げる危険があります。

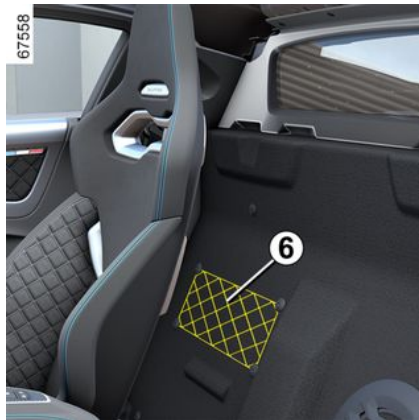


ラゲッジルームや収納スペース以外の場所に重いものや固いものを置かないでください。

急ブレーキや事故の際に、車両の乗員がけがをする恐れがあり大変危険です。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

収納ネット6



(車種によります)

フロントサンバイザー



サンバイザー7を下げます。

カーテシミラー8

(車種によります)

荷物を積み込む

トランクルーム

ボンネット下の収納ボックスA



収納ボックスAにアクセスするには、ボンネットを開けます。

ボンネットを開閉するには、セクション4の「ボンネット」をご覧ください。



収納ボックスの許容積載荷重: 40 kg、均一に分散。

収納ボックスA非装備車両



収納ボックスA非装備車両
機械部品が存在するため、

- ボンネットの下に物をしまうことは禁止されています。
- エンジンルームの作業を行う場合は、エンジンルーム内に物を置き忘れないように注意してください。布や工具などを置き忘れると、機械部品が損傷したり、火災が発生することがあります。

損傷や火災の危険があります。

- エンジンルームで作業を行う場合、機械部品が熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



ボンネットにもたれないようにしてください。ボンネットが意図せずに閉まってしまう恐れがあります。

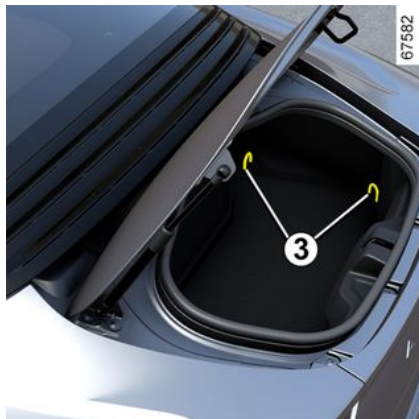
ます。

トランクルーム内の収納

3

荷物を積み込む

ラゲッジルームへの荷物の積み込み



ラゲッジルームの許容積載
荷重: 40 kg、均等に分散。



必ず重い荷物が一番下になるように積み込んでください。ラゲッジルームフロアにフック**3**が装着されている車両では、これを使用します。

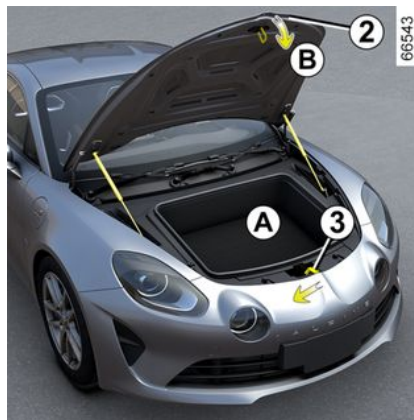
エンジンへのアクセス、レベル

ボンネット



開けるには、ダッシュボード左手にあるハンドル **1** を引きます。

ボンネットの開き方



ボンネットを持ち上げて、上げます。
ボンネットはストラットによって定位
置に保持されます。

ボンネット安全ロックの解除

タブ **3** を左に押すと、ボンネットが開
きます。



ボンネットが確実にロッ
クされていることを確認
します。

小石や布などが挟まって
ロックの妨げになっていないか確
認してください。

エンジンへのアクセス、レベル

ボンネットの閉じ方

ボンネットを閉じるには、ボンネットの中央部を手で持って、閉じる位置までボンネットを下ろします（動作 **B**）。ロックするまで、ボンネットの **2** の部分を押しします。



ボンネットにもたれないようにしてください。ボンネットが意図せずに閉まってしまう恐れがあります。



ボンネットを閉める際には絶対にストラットに触れないでください。



収納ボックスA非装備車両
機械部品が存在するため、

- ボンネットの下に物をしまうことは禁止されています。
- エンジンルームの作業を行う場合は、エンジンルーム内に物を置き忘れないように注意してください。布や工具などを置き忘れると、機械部品が損傷したり、火災が発生することがあります。

損傷や火災の危険があります。

- エンジンルームで作業を行う場合、機械部品が熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

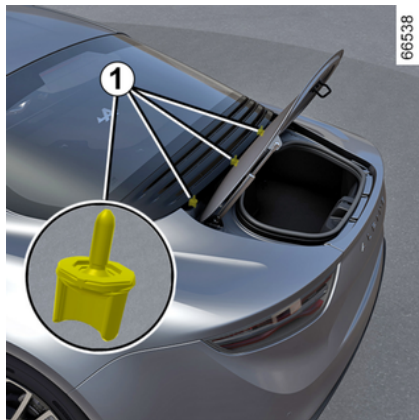


ボンネットの下側での作業を行う前に、必ず、イグニッションをオフにしてください（2章の「エンジンの始動と停止」を参照してください）。

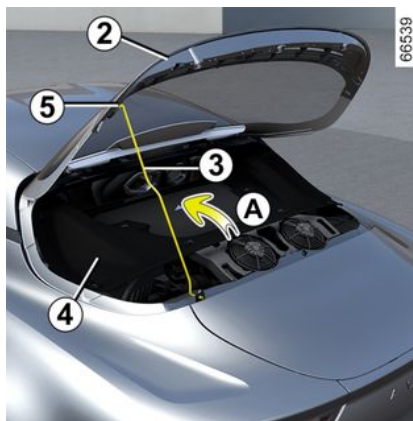
エンジンへのアクセス、レベル

リアエンジンルーム

エンジンルームへのアクセス



- ラゲッジルームを開けます（3章の「ラゲッジルームに荷物を積み込むとき」の項を参照してください）。
- リアウインドウ2の固定ボルト1を緩めます。
- リアウインドウ2を上げ、ステー3を外して、安全のためにハウジング5に置きます（動作A）。
- ボルト6をエンジンカバー4から取り外します。
- エンジンカバー4をきれいな乾燥した面の上にそっと置きます。



エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンル

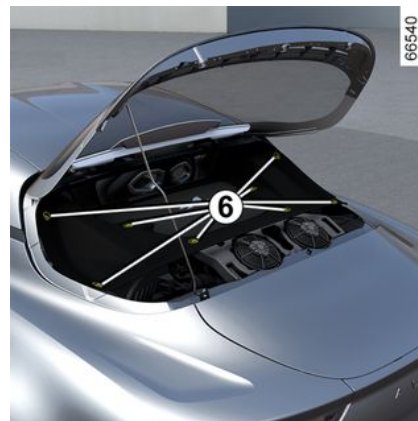


ム内の警告灯により、通知されます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



エンジンルームは高温になるため、エンジンカバー4の上に物を置くことは禁止されています。
エンジンの損傷や火災の危険があります。



エンジンルーム内の作業を始める前に、電源を必ず切ってください。（2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください）。

エンジンへのアクセス、レベル

エンジンオイル

「概要」の項を参照してください

通常エンジンは、エンジン内部の可動部品を潤滑したり冷却する目的のため、少しずつオイルを消費します。したがって定期的なオイル交換時期の間であってもしっかりとオイルを点検し、必要に応じて補充する必要があります。

ただし、慣らし運転後にオイル消費量が1,000 km走行あたり0.5リットルを越える場合は、指定サービス工場にご相談ください。

オイルの点検：定期的にオイルレベルを点検してください。また、エンジンの劣化を防ぐために長距離ドライブの前には必ずオイルレベルを点検してください。



エンジンルーム内の作業を始める前に、電源を必ず切ってください。(2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください)。

オイルレベルの読み取り

読み取りは水平な場所で、エンジンを停めてから十分な時間が経ってから行う必要があります。

必ずゲージを使用してオイルレベルを正確に測定し、上限を超えていないことを確認してください(上限を超えるとエンジンが破損する恐れがあります)。



エンジンオイルの追加
エンジンルームの高温部分や敏感な部品(電装部品など)にエンジンオイルが逃げないように、漏斗を使用するか、充填ネック部分を保護してください。
火災の恐れがあります。

インストルメントパネルのオイルレベル警告表示

車両によっては、メーターパネルの警告は、オイルレベルが下限になったときだけしか表示されません。

メッセージ「オイルを補給してください」がインストルメントパネルに表示される場合、インストルメントパネルがオイルレベルゲージでオイルレベルを点検します。



ディスプレイでは、オイルレベルの最低時にしか警告を行いません。オイルレベルゲージでしかオイル量オーバーは検知できないため、レベルオーバーの表示はありません。

インストルメントパネルでの最低オイルレベル点検

車両を平坦な場所に停止し、イグニッションスイッチを約5分間OFFにして、ブレーキをかけずにエンジンスタート/ストップボタンを押します。メッセージ「コントロール機能点検中」が表示されます。

数秒間待ちます。

- **オイルレベルが正常な場合:** インストルメントパネルにメッセージ「OK」が表示されます。
- **オイルレベルが最低の場合:** インストルメントパネルにメッセージ「オイルを補給してください」が表示されます。

なるべく早くエンジンオイルを補充してください。

エンジンへのアクセス、レベル

オイルレベルゲージで読み取る場合

- エンジンルームの後方からゲージを取り出して、毛羽立っていない清潔な布で拭きます。
 - 突き当たるまでゲージを差し込みます。
 - ゲージを再度取り外します。
 - オイルレベルを読み取ります: オイルレベルは「MINI」レベル**A**を下回ってはいけません。また、「MAXI」レベル**B**を超えてはいけません。
- レベル確認ができれば、ゲージを突き当たるまで差込んでください。



オイルレベル上限オーバー

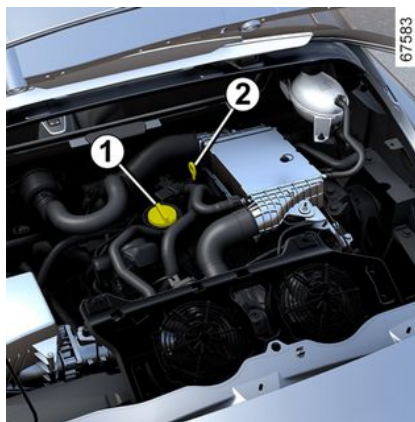
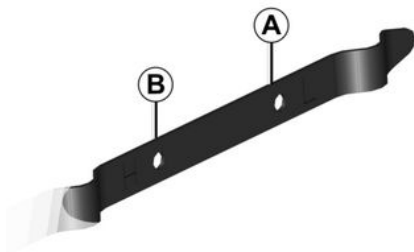
いかなる場合にも最大充填レベル**B**を超えないようにします。エンジンと排ガスシステムを破損する恐れがあります。オイルレベルが「MAXI」レベルを超えているときは、**エンジンをかけず**、正規サービス工場にご連絡ください。



エンジンルーム内の作業を始める前に、電源を必ず切ってください。(2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください)。

補充、注入、オイル交換

オイル補充／注入



- キャップ**1**を緩めます。
 - オイルを規定量になるまで注入します(エンジンによって差がありますが、オイルレベルゲージ**2**の「MINI」および「MAXI」マークの間のオイル容量は約1リットルです)。
 - オイルを行き渡らせるために10分程待ちます。
 - オイルレベルゲージ**2**でオイル残量を確認します(前述のように)。
- 作業が終わったら必ずゲージを奥まで差し込んでキャップを完全に締め付けてください。

エンジンへのアクセス、レベル



「MAXI」レベルを超えないようにしてください。また、キャップ**1**とレベルゲージ**2**を忘れずに元に位置に戻してください。



エンジンオイルの追加
エンジンルームの高温部分や敏感な部品（電装部品など）にエンジンオイルが逃げないように、漏斗を使用するか、充填ネック部分を保護してください。
火災の恐れがあります。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルの交換時期：整備手帳を参照してください。

オイル交換容量

整備手帳を参照するか、ルノー指定サービス工場にお問合せください。

先に説明したように、ゲージを使用してエンジンオイルレベルを常に確認してください（オイルレベルはゲージの「MINI」マーク以上、「MAXI」マーク以下である必要があります）。



オイルレベル上限オーバー
いかなる場合にも最大充填レベルを超えないようにします。エンジンと排ガスシステムを破損する恐れがあります。オイルレベルがMAXI マークを超えているときは**エンジンをかけず**、指定サービス工場にご連絡ください。

エンジンオイルグレード

整備手帳を参照してください。




オイル補充および/またはオイルレベルの点検：
オイル補充またはオイルレベルの点検時には、オイルがエンジン部品に漏れ落ちないようにしてください。高温のエンジン部品へのオイルの飛散を防ぐために、必ずキャップをしっかりと締め、ゲージを忘れずに戻してください。
火災の恐れがあります。



オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、指定サービス工場にご相談ください。



エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルーム内の  警告灯により、通知されます。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



閉めきった場所でエンジンを作動させないでください。身体に有害な排気ガスがこもって非常に危険です。

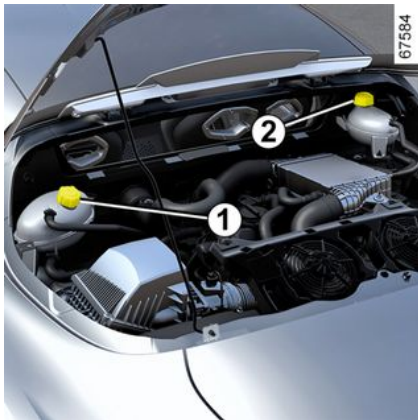
エンジンへのアクセス、レベル



エンジンオイル交換: エンジンが暖まった状態でエンジンオイルを交換する場合は、排出されるエンジンオイルでやけどをしないように注意してください。

4

エンジン冷却水



トレイ**1**と**2**はリアエンジンルームにあります。トレイにアクセスするには、第4章の「リアエンジンルーム」を参照してください。

エンジンを停止して、車両が平坦な場所に置かれた状態で、**冷間時**のレベルが、トレイ**1**および**2**に表示されてい

るマーク「MINI」と「MAXI」の間になっている必要があります。

「MINI」マークまで減る前に補充してください。補充は必ず**エンジンが冷えている**ときに行ってください。

冷却水レベルの点検時期


定期的に冷却水レベルを点検してください（冷却水が不足するとエンジンが重大な損傷を受ける可能性があります）。

補充には必ずメーカー推奨クーラントをご使用ください。メーカー推奨クーラントは以下の成分を含んでいます：

- 冷却回路の凍結防止
- 冷却水系統の錆止め



エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルー

ム内の  警告灯により、通知されます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

交換時期

整備手帳を参照してください。



オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、指定サービス工場にご相談ください。



エンジンルーム内の作業を始める前に、電源を必ず切ってください。（2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください）。



エンジンが熱いうちは、冷却水回路には絶対に手をふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

エンジンへのアクセス、レベル レベル、フィルター ブレーキ液

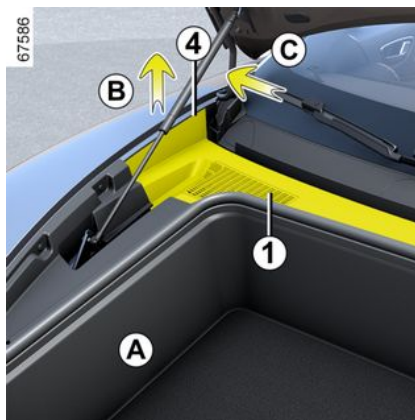


エンジンを停止し、平坦な場所でオイルレベルを点検してください。

ブレーキ液はできるだけこまめに点検してください。またブレーキの効き具合に少しでも異常を感じたら必ず点検してください。



ボンネットの下側での作業を行う前に、必ず、イグニッションをオフにしてください（2章の「エンジンの始動と停止」を参照してください）。



アクセス

車両によっては、ブレーキ液3にアクセスするために、スカットルパネルグリルランチャネルを取り外さなければならないことがあります。

方法:

- スカットルパネルグリルランチャネル1のウィング4の後端を持って、上方向に引き抜き、ランチャネルをスカットルパネルグリル2から外します。
- ランチャネルの左側を持ち、上方向（自分の方）に引き抜いて（動作B）完全に外します。
- ランチャネルの右側を外すには、左に動いて（動作C）、ストラットに対してランチャネルを動かしやすいくします。

– ランチャネル1をきれいな乾燥した面の上にそっと置きます。



収納ボックスA非装備車両
機械部品が存在するため、

- ボンネットの下に物をしまうことは禁止されています。
- エンジンルームの作業を行う場合は、エンジンルーム内に物を置き忘れないように注意してください。布や工具などを置き忘れると、機械部品が損傷したり、火災が発生することがあります。

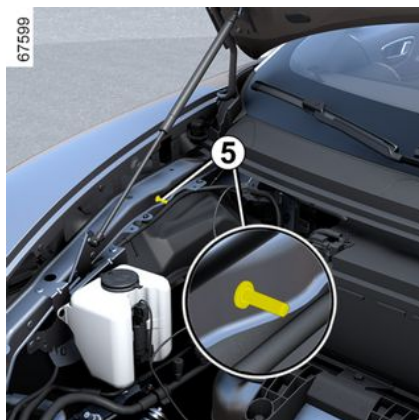
損傷や火災の危険があります。

- エンジンルームで作業を行う場合、機械部品が熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

エンジンへのアクセス、レベル

4



スカットルパネルグリルランチャネルの取付け

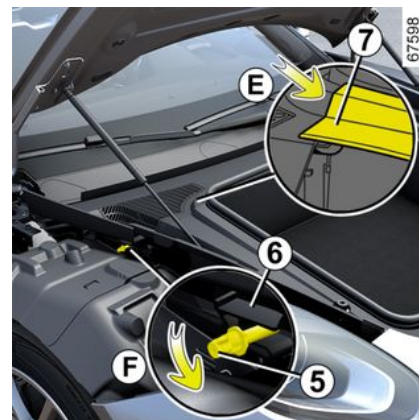
ランチャネル1を正しく取り付けることが重要です。

方法:

- ランチャネル1を取付け位置に合わせます（動作D）。
- 車両によっては、ランチャネル1をウィングカバーハウジング7に挿入します（動作E）。
- ランチャネルの両端にある部品6をボディマウント5に留めます（動作F）。
- ランチャネルを押し込んで（動作G）固定します。



注: ランチャネル1がうまく固定できない場合（動作G）は、ランチャネルが部品5および7に正しく挿入されているか（ランチャネルが損傷するリスク）を確認してください。



エンジンへのアクセス、レベル



レベル3

通常はブレーキパッドが消耗するとブレーキ液レベルも下がりますが、絶対に「MINI」の目盛りを下回らないようにしてください。

ご自分でディスクやトリムの摩耗状態を点検する場合は、指定サービス工場またはメーカーのウェブサイトから、点検手順を記載した文書を入手してください。

ブレーキ液の補充

ブレーキ油圧系統に何らかの整備を実施したら、必ず専門家にブレーキ液を交換してもらってください。

補充するときは、必ず（シールされたボトルの）メーカー推奨ブレーキ液をご使用ください。

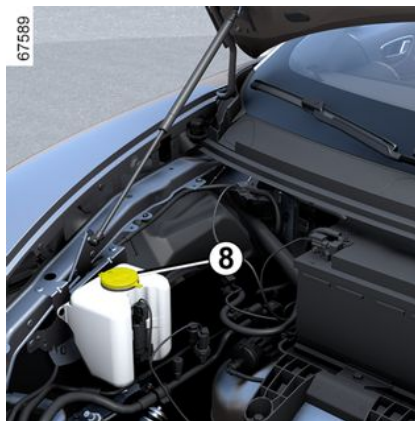
交換時期

整備手帳を参照してください。



オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、指定サービス工場にご相談ください。

ウインドウウォッシャータンク



ブレーキ液の補充

エンジンを停止し、キャップ8を開けます。ウォッシャー液が見えるま所まで補充した後、キャップを取り付けます。

注: タンクのウォッシャー液量を定期的に点検して、走行前に補充してください。

ウォッシャー液

ウインドウウォッシャー液。冬季には不凍液を使用してください。正規サービス工場推奨の製品を使用してください。

フィルター

各種フィルター（エアフィルター、キャビンフィルタ）の交換は車両のメンテナンスに含まれています。

フィルターの交換時期: 車両の整備手帳を参照してください。



点検のためにボンネットを開ける場合、ワイパーのレバーがOFF位置にあることを確認してください。

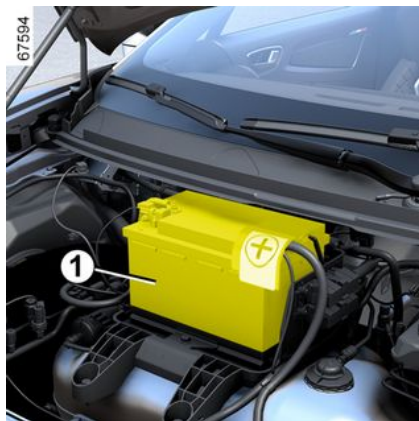
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

エンジンへのアクセス、レベル



ボンネットの下側での作業を行う前に、必ず、イグニッションをオフにしてください（2章の「エンジンの始動と停止」を参照してください）。

バッテリー：



バッテリー **1** はメンテナンス不要です。バッテリーを開いたり、液を追加したりしないでください。



バッテリー液には希硫酸が含まれています。眼や皮膚に付かないように十分注意してバッテリーを取扱ってください。万一眼に入ったり皮膚に付いたりした場合には、多量の水で洗い流してください。必要に応じて病院で診察を受けてください。

（爆発の恐れがあるため）バッテリーには火炎、白熱体、火花などを近づけないでください。



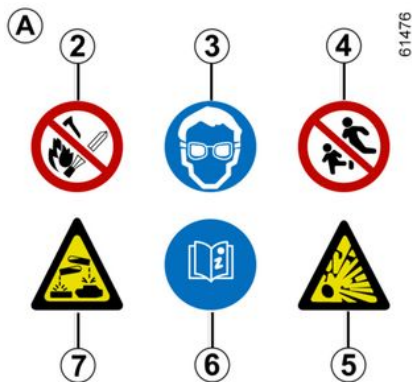
お客様の安全および車両の電装品（ライト、ワイパ、ABS など）の適切な作動のために、バッテリーのすべての操作（取外し、ディスコネクションなど）は、必ず専門スタッフが行う必要があります。重大なやけどまたは感電の危険性があります。

メンテナンス資料に記載された交換間隔に（超過なく）従う必要があります。

バッテリーは専用タイプです。同型のバッテリーと交換してください。

正規ディーラにご連絡ください。

バッテリー：



ボンネットの下側での作業を行う前に、必ず、イグニッションをオフにしてください（2章の「エンジンの始動と停止」を参照してください）。

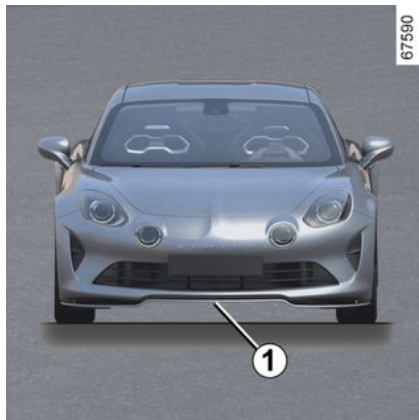
ラベル A

バッテリーに記載されている次の注意事項を守ってください：

- 2 火気を近づける行為や喫煙は禁じられています。
- 3 必ず目を保護してください。
- 4 子供を近づけないでください。
- 5 爆発性物質。
- 6 マニュアルを参照してください。
- 7 腐食性物質。

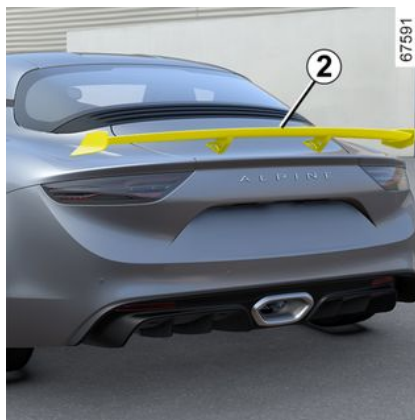
エアロパーツ

フロントブレード1とリアスポイラー2



フロントブレード**1**とリアスポイラー**2**は、高速時の車両の安定性を確保します。

損傷がある場合は、速度を下ろして、できるだけ早く指定サービス工場に連絡してください。



フロントブレードやリアスポイラーに干渉しないでください。

車両の下側に衝撃が加わった場合（例: 支柱、縁石の隆起、その他のストリートファニチャー）、またはリアスポイラーに衝撃が生じた場合は、指定サービス工場に車両の点検を依頼してください。

ローラタイプの洗車機は絶対に使わないで下さい。第4章の「ボディのメンテナンス」の項を参照してください。

ケガや車両故障の原因となります。

クリーニング

ボディのメンテナンス

ボディのお手入れ

洗車時はエンジンを停止し、テクニカルサービス推奨のシャンプーをお使いの上こまめに洗車を行ってください。

(研磨剤入りの洗剤は使わないでください。) 前もってジェットウォッシャーを使用して十分に洗い流してください。

- 樹木の樹脂や産業による汚染物質。
- 泥が付着していると水分を吸収し、錆が発生しやすくなります。ホイールハウス内側やボディ下側など泥が付きやすいところをよく洗ってください。
- 鳥の糞(塗料と化学反応を起こして塗装の変色を促進し、最終的には塗装が剥がれます)。

こうした跡を見つけたら直ちに洗い流してください。放置すると研磨しても取り除けないようになります。

- 凍結防止剤が散布された道路を走行したあとは、ホイールハウス内側やボディ下側を特によく洗ってください。
- 車両から落ち葉(樹液、樹膜など)を定期的に除去します。

砂利道を走行するときは、塗装面を傷つけないようにするため、前車との車間距離を十分にとってください。

塗装面が傷ついたら、できるだけ早く修理を受けるか、タッチアップペイン

トなどで補修してください。錆が広がるのをくい止めることができます。

防錆保証対象車の場合、忘れずに定期点検を受けてください。整備手帳を参照してください。

洗車をする場合には、現地の規制に従ってください(公道での洗車禁止等)。

高压洗浄装置で車両を洗浄する場合は、次の注意事項を踏まえて行ってください。

- 車両の塗装、洗浄箇所または洗浄コンポーネントが、高压洗浄装置で洗浄可能なものか確認してください。
- 高压洗浄装置の圧力は 100 bar 未満でなければなりません。
- 洗浄時には、噴射ノズルを、車両から 15cm 以上離して使用し、水量も、1 分あたり 15 L 未満にしてください。
- (塗装に傷が付いたりシールが剥がれたりする危険があるため) 同じ箇所、衝突痕のある箇所、またはシールの連続洗浄はお止めください。

機械部品やヒンジ部などを洗浄した場合は、必ずテクニカルサービス認可のケア製品をスプレーして性能を維持するようにしてください。



ルノー販売店で求められる専用のケア製品を選びました。

ボディのお手入れに関する注意



日差しの強い日や凍える日に洗車しないでください。

泥や汚れを液体などで軟化せずに削り落とす。

汚れやごみを付着したままで放置しないでください。

傷から発生する錆を放置しないでください。

メーカー推奨外の溶剤で汚れを除去する。塗装面を傷めるおそれがあります。

雪や泥の中を走行後、特にホイールアーチやボディの下回りなどを洗わずに放置する。

高压洗浄や、メーカーが推奨するスプレー洗浄液以外などで脱脂や洗浄しないでください。

これらは、錆の発生や故障を招くおそれがあります。

マット塗装の車両の特性

このタイプの塗装には一定の注意が必要です。

クリーニング

ボディのお手入れ

やわらかい布やスポンジなどを使用して、十分な水で車両を手洗いしてください。

ボディのお手入れに関する注意



ワックス（艶出し）を原料とした製品の使用。

強い摩擦を与える。

洗車機に車両を通す。

塗装にステッカー類を貼り付ける（跡が残るおそれがあります）。

高圧洗浄装置を使用した洗車

洗車機使用の場合

必ずワイパーのスイッチレバーを停止位置に戻してください。（1章の「フロントワイパー、ウォッシャー」の項を参照してください。）車両の外装、追加ランプ、ドアミラーの取付けを確認し、ワイパーブレードをテープで固定してください。

ラジオアンテナが付いている場合は、アンテナを取外してください。

洗浄を終えたら、忘れずに接着剤を取り除き、アンテナを（一番奥までねじ込む方法で）取り付け直してください。

エアロパーツ装備車の特徴



リアスポイラー装備車では、絶対にローラ式洗車機を使用しないでください。

車両に損傷を与える危険性があります。

ヘッドランプ、センサ、カメラのクリーニング

必ず柔らかい布で拭いてください。まだ汚れが残っている場合は、石鹸水を少し付けて、柔らかい布か脱脂綿で拭き取ってください。最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

アルコールベースの洗浄剤やスクレーパなどの工具は使用しないでください。

クリーニングステッカー、装飾フィルムなど

ボディのお手入れ

必ず柔らかい布で拭いてください。石鹸水で湿らせてから、いつも柔らかい布やコットンできれいに拭いてください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

ボディのお手入れに関する注意



アルコール系洗浄剤を使用してください。工具（スクレーパーなど）を使用します。強い摩擦を与える。

高圧洗浄装置を使用した洗車

内装のお手入れ

マルチメディア画面

画面のメンテナンスは、マルチメディア機器のタイプによって異なる場合があります。詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

計器類の透明カバー

（例：インストルメントパネル、時計、外気温計など）

必ず柔らかい布で拭いてください。

汚れが落ちないときは、石けん水を少量含ませた布で拭き、その後水で濡らした別の柔らかい布で拭き取ってください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

アルコールを含む製品やスプレーはこのエリアに使用しないでください。

クリーニング

シートベルト

清潔でなければなりません。

ルノー認定製品（ルノーショップ）または石鹸水（ぬるま湯）をスポンジにつけて拭き、乾いた布で拭き取ります。

溶剤や染料は絶対に使用しないでください。

布地（シート、ドアトリムなど）

定期的に埃を取り除くようにしてください。

液体の汚れ

石けん水を使用してください。

液体を柔らかい布に含ませるか（こすらずに）軽く叩いて拭き取ってから、水拭きをし、最後に余分な水分を拭き取ってください。

固形の汚れや粘着質の汚れ

ヘラを使って、**直ちに**固形の汚れや粘着質の汚れを慎重に落とします（汚れが広がらないように外側から内側に向かってヘラを動かします）。

液体汚れの場合は、指示に従って清掃します。

飴やチューイングガムについての注意事項

汚れの上に氷を当てて固まらせます。その後は固形の汚れと同じ手順です。



内装のお手入れについてアドバイスをお受けになりたい場合、または満足の行くようにお手入れできなかった場合は、ルノー代理店までご相談ください。

車内の電気系統またはコンピューターの機能を低下させたり、故障の原因となったりする可能性があります。

取り外し可能な車内装備の取り付け／取り外し

汚れを取り除くために、取り外し可能な装備（フロアマットなど）を取り外した場合は、装備を正しい側に（例えば運転席側フロアマットは運転席側に）正確に取り付け、所定のパーツでしっかりと固定（例：必ずもとから付いていた固定具を使って運転席フロアマットを固定）してください。

必ず停車した状態で、運転の妨げになるものがないか確認してください（ペダルの下に障害物がないか、足がフロアマットに引っかからないかなど）。

ボディのお手入れに関する注意



防臭剤や香水などを吹き出し口の付近に置くこと。ダッシュボードのトリムを傷める恐れがあります。

車内で高圧洗浄機やスプレーを使用すること。

タイヤ

タイヤ

タイヤ - ホイールの安全性

タイヤは車と地面とを結ぶ唯一の接点です。したがって安全な走行のためにはタイヤを常に良好な状態に維持することが大切です。

それぞれの国、地方の道路交通法規を遵守してください。

タイヤのメンテナンス

67613



タイヤは、良好な状態で、タイヤ接地面（トレッド）の溝にも十分な深さが必要となります。ルノー技術部門認定タイヤには、**トレッドの数カ所に摩耗状態を示すための摩耗警告ストリップ1**が備わります。

トレッドが磨耗すると、摩耗インジケータが現われ、**タイヤ交換が必要だと一目でわかります**。摩耗インジケータが現れた状態では、**トレッドの溝の深さが最大でも約1.6 mmしかない状態に達しており、滑りやすく、濡れた路面などでは十分な排水ができず、正常なグリップ力を発揮できない状態にあるため、必ずタイヤを交換してください。**

また荷物の積み過ぎや夏期の長距離走行、高速走行あるいは悪路の走行などはタイヤの摩耗や劣化を早めます。安全のためタイヤはこまめに点検しましょう。



「歩道にあたる」など運転中のトラブルにより、タイヤやリムが損傷したり、フロントまたはリアアクスルの調整不良を引き起こしたりします。このような場合は、ルノー指定サービス工場での点検を受けてください。

タイヤ空気圧

規定のタイヤ空気圧を守ってください（スペアタイヤも同様）。規定のタイヤ空気圧を守ってください。少なくとも毎月1回、またはサーキットで車両を走行させる前または長距離走行をす

る前はタイヤ空気圧を点検してください（運転席側のドアの端、または車両によっては運転席側のドアの下部に貼ってあるラベルをご覧ください）。



タイヤ空気圧が適正でないと、タイヤが異常に磨耗したり、異常に熱くなったりします。これらは、安全性に重大な影響を及ぼし、次の原因につながる可能性がある要因です。

– ロードホールディングが低下します。

– バーストやトレッドのはく離が起こるおそれがあります。

適切なタイヤ空気圧は、積載重量と走行速度によって異なります。

車の使用状況に応じて空気圧を調整してください（運転席ドアの端、車両によっては運転席ドアの下部に貼ってあるラベルを参照）。

空気圧の点検はタイヤが冷えているときに行ってください。気温の高いときや高速走行後はタイヤ空気圧が通常よりも高くなっているため、その測定値は無視してください。

タイヤ

タイヤが冷えていて空気圧を点検することができない場合は、**測定値に0.2～0.3バール（3 PSI）を足してください。**

温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。



注意:バルブキャップがなかったり締め方が悪かったりすると、タイヤの気密性が損なわれてタイヤ空気圧が低下することがあります。
バルブキャップを必ず元のバルブに装着し、完全に締めてください。

タイヤ空気圧監視システム装備車

（パンクや空気圧不足などにより）タイヤの空気圧が基準を下回ると、



警告灯がインストルメントパネル（「➡110」の項を参照）。

スペアタイヤ

第5章の「スペアタイヤ」と「タイヤ交換」の項をご覧ください。

左右のホイールの交換

タイヤのローテーションは、特に必要ではありません。



フロントホイールとリアホイールのサイズが異なります。安全のため、フロントホイール（タイヤ/リム）とリアホイールを交換することは禁止されています。

タイヤの交換



安全上の理由。
タイヤは新車時の標準装備品と同じ製品か、または指定サービス工場推奨の同等品をご使用ください。
これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれる可能性があります。これは、車体とタイヤの間の安定性、動作、制動またはクリアランスに悪影響を及ぼす可能性があります。
これらの影響によって、特定の運転条件の下で車両の制御が失われる可能性があります。



安全性を守り、道路交通法に従うために：
タイヤを交換する場合は、必ず元のタイヤと同じメーカー、サイズ、タイプ、アキュルスのものを取付けてください。
それらは、少なくとも元のタイヤと同等の荷重容量と速度定格を持ち、指定サービス工場が推奨するタイヤに対応していなければなりません。
これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれると共に車両の適合性を無効にする可能性があります。
車両制御の喪失の危険性があります。

タイヤ

冬期の使用

チェーン

安全のため、後輪には必ずチェーンを装着してください。前輪にも装着することを強くお勧めします。

標準装備のタイヤよりも大きなサイズのタイヤを取り付けると、チェーンが装着できなくなります。



チェーンを装着する場合は、**専用装備**を使用する必要があります。

正規サービス工場にご連絡ください。

「スノー」タイヤまたは「スタッドレス」タイヤ

正常なグリップ力を確保するため、**四輪ともに**同一種類のタイヤを装着することをおすすめします。

注意: これらのタイヤには回転方向が決められている場合があります、使用可能な設定速度が車両の最高速度より低いことがあります。

スパイクタイヤ

スパイクタイヤはそれぞれの国や地方の法律で定められた期間以外は使用できません。法定制限速度を遵守してください。

スパイクタイヤは最低限リアホイール両輪に装着してください。



いずれの場合にも、お車に最適な装備を選択させていただくために、ルノー正規サービス工場にお問い合わせいただくことをお勧めします。

タイヤ

タイヤ規定空気圧

ラベル A



ラベルを読み取るには、運転席ドアを開けてください。ラベルAはドアの端、または車両によってはドアの下部にあります。

空気圧の点検はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤが冷えていて空気圧を点検することができない場合は、測定値に**0.2～0.3バール（3 PSI）**を足してください。温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。



タイヤ空気圧監視システム装備車

（パンクや空気圧不足などにより）タイヤの空気圧が基準を下回ると、



警告灯がインストルメントパネル ➔ 110 上に表示されます。

A		
	B	B
C	F	G
D	F	G
E	F	G

B. : 車両に装着されているタイヤの直径

C. : 一般道路および高速道路での意図されている走行速度。

D. : 燃料消費を最適化するための推奨圧力。

注: ドライビングコンフォートが変わることがあります。

E. : サーキットでの意図されている走行速度。

F. : フロントタイヤの空気圧。

G. : タイヤ規定空気圧

タイヤの安全性とチェーンの取付け:
モデル別のタイヤの保守条件やスノーチェーン取付けの条件については、基本マニュアルの5章の「タイヤ」の項 ➔ 161 を参照してください。

タイヤ



安全性を守り、道路交通法に従うために：

タイヤを交換する場合は、必ず元のタイヤと同じ

メーカー、サイズ、タイプ、アックスルのものを取付けてください。

交換後のタイヤは、少なくとも耐荷重と速度定格が元のタイヤと同じであるか、認定ディーラ推奨のものでなければなりません。

これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれると共に車両の適合性を無効にする可能性があります。

車両制御の喪失の危険性があります。

タイヤ空気注入キット

67612



このキットを使うと、4 mm未満の物が原因でタイヤのトレッド部分Aに生じた傷を修理できます

す。4 mm以上の傷やタイヤの側面Bについた切り傷などにより生じたパンクの修理には、このキットをお使いいただけません。ホイールリムが良好な状態にあることも確認してください。

パンクの原因となった異物がタイヤに刺さったままである場合は、それを取り除かないでください。



パンクした状態での走行により損傷したタイヤにはタイヤ空気圧注入キットを使用しないでください

い。

修理を行う前にはタイヤ側面を入念に点検してください。

また、空気圧の不足したタイヤや、空気が完全に抜けた（またはパンクした）タイヤで走行することは危険であり、タイヤも修理不可能になります。

これはあくまでも応急処置です。

パンクしたタイヤは、できるだけ速く専門家に点検（可能なら修理）してもらってください。

このキットを使って修理したタイヤを交換する場合は、そのことを作業員に伝えてください。

走行時、タイヤ内に注入された内容物による振動が感じられることがあります。

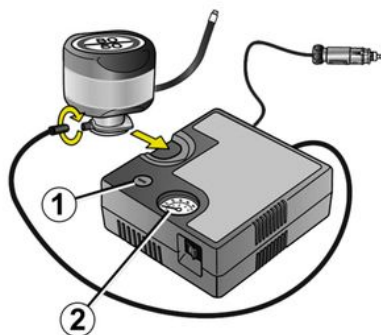


このキットは、装備車両のタイヤだけを修理するために認定を受けています。

いかなる場合でも、他の車両のタイヤを修理したり、その他の物（救命具やボートなど）を膨らませることに使用しないでください。

パンク修理剤の製品ボトルを扱う際に、液体が皮膚にかからないようにしてください。もし付着した場合は、大量の水で洗い流してください。

修理キットを子供の手の届くところに放置しないでください。ボトルは絶対に投棄しないでください。指定サービス工場または回収業者までお届けください。ボトルの使用期限はボトルに貼られたラベルに記載されています。使用期限を点検してください。注入チューブとパンク修理剤ボトルを交換するときは、指定サービス工場においてください。



67606



キットを使用する前に車両を交通の妨げにならない場所に移動してハザードランプを点灯し、パーキングブレーキをかけ、車両の全乗員を車から下ろして安全な場所に退避させてください。

パンク時は、ラゲッジルームにあるキットをご使用ください。

タイヤ空気圧監視システム装備車

（パンクや空気圧不足などにより）タイヤの空気圧が基準を下回ると、



警告灯がインストルメントパネル → 110 上に表示されます。

エンジンを回転させ、パーキングブレーキをかけた状態で、

- 車両のアクセサリソケットからアクセサリをすべて外します。
- 車両のトランクにある**空気注入ポンベットに関する情報を参考に**、取扱説明に従って作業します。
- タイヤを推奨圧力まで膨張させます → 164。

- 15 分間を上限として空気を注入したら、注入を止め、（圧力計 1 に表示されている）空気圧を読み取ります。

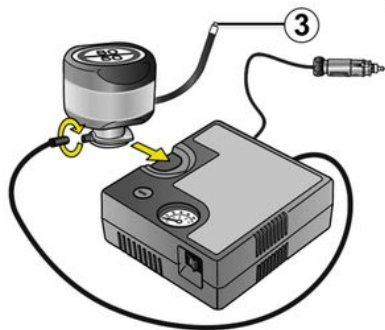
注: 容器が空になるまでの間（約30秒間）は、圧力計 1 に表示される値が最大で6 barに達することもありますが、その後、圧力は下がります。

- 空気圧の調整: 空気圧を上げるには、キットを使って空気注入を続けます。空気圧を下げるにはボタン 2 を押します。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。

タイヤ



15 分かけても推奨空気圧 1.8 bar にならない場合は、修理不能です。車両を走行させないでください。正規サービス工場にご連絡ください。



ドライバーの足元には何も置かないでください。急ブレーキなどが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込みブレーキ操作の妨げとなる危恐れがあります。

正しい空気圧になるまで空気を注入したら、キットを取外します。ポンベから空気注入ポンベのエンドピース 3 を液体が噴射しないようにゆっくり緩

め、ポンベは液体が漏れないようプラスチック容器に保管します。

– 運転時の推奨事項のラベル（ポンベ下にある）を、ダッシュボード上のドライバーからよく見える場所に貼り付けます。

– キットを収納してください。

– 一回目に空気注入を行った後は、タイヤからまだ空気が漏れます。穴をふさぐために走行を行うことが必要です。

– ただちににエンジンを始動して、20～60 km/h の速度で走行し、空気をタイヤ全体に行き渡らせます。3 km ほど走行したら停車して、空気圧を点検します。

– 圧力が 1.3 bar を超えていても推奨圧力未満の場合は再調整します（運転席ドアの端、または車両によっては運転席ドアの下部に貼られているラベルを参照）。それ以外の場合は、正規代理店にご連絡ください。タイヤは修理できません。

キットの使用上の注意

キットは 15 分以上連続して使用しないでください。

液体が残っていてもポンベは使用後に交換する必要があります。

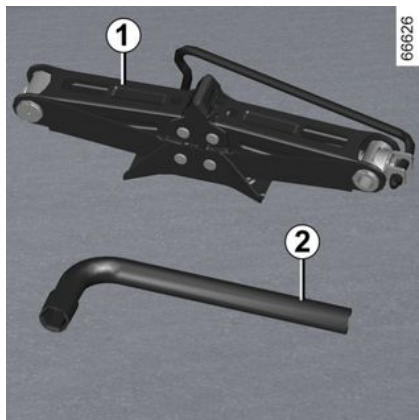


キットで修理した後、200 km 以上走行しないでください。また、走行速度を抑え、いかなる場合も 80km/h を超えないようにしてください。ダッシュボード上のドライバーからよく見える場所に貼り付ける運転時の推奨事項のラベルが注意を促します。国または地方の法律により、タイヤ空気注入キットで修理したタイヤは交換しなければならない場合があります。



注意:バルブキャップがなかったり締め方が悪かったりすると、タイヤの気密性が損なわれてタイヤ空気圧が低下することがあります。バルブキャップを必ず元のバルブに装着し、完全に締めてください。

タイヤ ツール



ツールの有無は車両によって異なります。

助手席にあるスペアタイヤ収納ケースにはバッグが入っており、次の工具が含まれています。

ジャッキ 1

指定位置に戻す前に、きちんと折りたたんでください（クランクハンドルを正しい位置に戻すようにしてください）。

ホイールレンチ 2

これを使用して、ホイールボルトや牽引フック4のロックやロック解除を行うことができます。



トランクルームの空気注入キットケースには、次の工具が含まれています。

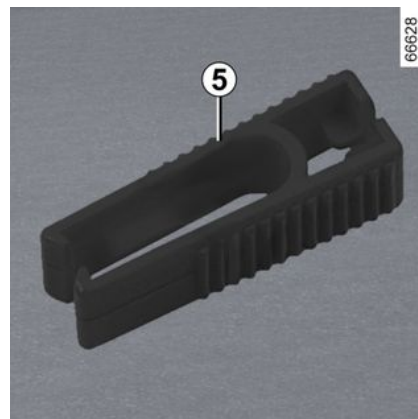
ピンセット 3

ホイールボルトカバーを取り外すのに使用します。

けん引フック 4 → 172

ヒューズプライヤ 5

ヒューズパック → 182



ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。使用後は、すべてのツールがケースの中に取り付けられているか確認のうえ、ケースをトランクルームに正しく収納してください。**放置しておくと乗員がケガをするおそれがあります。**

タイヤ



安全上の理由により、メーカーが推奨しないジャッキの使用は固く禁じられています。

ジャッキはその車両専用となり、ホイールの交換時に使用します。以下のような場合には絶対に使用しないでください。

- 他の車両で使用するこ
- 修理に使用するこ
- ボディ下で作業するために使用すること。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。
車両に損傷を与える危険性があります。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。



同じスペアタイヤを何年も収納したままの場合は、そのタイヤが現在でも安全に使用できるかどうかを整備工場で点検してもらってください。

- 当該車両には絶対にスペアタイヤを取付けないでください。
- スペアタイヤを後輪に使用すると、車両の最低地上高が小さくなることがあります。
- スペアタイヤはできるだけ早くもとのサイズと同じタイヤに交換してください。
- 時的にこのようなスペアタイヤを履いている間は、スペアタイヤホイールのラベルに書かれた制限速度を超えないように走行してください。
- スペアタイヤを装着すると車両の操縦性に影響が出ます。急激な加速や減速は避け、コーナリング時はいつもより速度を抑えてください。
- スペアタイヤを装着するには、適切な道具または専用装備を使用する必要があります。メーカーにお問い合わせください。


パンク、スペアタイヤ

パンクした場合

車両によっては、タイヤパンク応急修理キットまたは応急スペアタイヤが装備されています。

タイヤ空気圧監視システム装備車

アンダーインフレーション（パンク、空気圧不足など）の場合は、インスト

ルメントパネル上に警告灯  が点灯します ➔ 110。

タイヤ

スペアタイヤ

車両にスペアタイヤが装備されている場合、スペアタイヤ**1**は、助手席に紐で固定された収納ケースの中に入っています。

タイヤの交換

ジャッキおよびホイールブレース 装備車両

空気注入キットケースに入っているプライヤを使用してホイールボルトカバーを取り外します（車両に装備されている場合）。

ホイールボルトのロックを、ホイールレンチ**1**を使って解除します。そのときホイールレンチの上から力を加えられるように位置を選びます。

ジャッキ**2**を手で回して、ジャッキヘッドを、交換するホイールに一番近いジャッキポイントに当てます（矢印**3**の目印）。



ジャッキやホイールレンチなどが車両に備え付けられていない場合は、ツールキットを指定サービス工場でお求めいただけます。

さらにジャッキを回してベースプレート
を正しい位置に配置します（ベース

プレートは車両の下に入り、ジャッキヘッドと垂直に一直線になっている必要があります）。

ホイールレンチを回してホイールを地面から離します。



怪我や車両の損傷を避けるために、地面から最大3センチ浮くまでジャッキアップしホイールを交換してください。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。

ホイールボルトを外してホイールを取り外します。

スペアタイヤをセンターハブに取り付けて回転させ、タイヤとハブの穴の位置を合わせます。

タイヤがしっかりとハブに取り付けられていることを確認してボルトを締めます。

ジャッキを下げます。

タイヤを接地させてボルトをきつく締めます。なるべく早めにボルトの締め付けトルクとスペアタイヤの空気圧を点検してください。



タイヤがパンクしたら、できるだけ早く交換してください。

パンクしたタイヤは専門の技術者の点検を受け、修理可能なら修理してもらってください。

タイヤ空気圧監視システム装備車

（パンクや空気圧不足などにより）タイヤの空気圧が基準を下回ると、



警告灯がインストルメントパネル
→ **110** 上に表示されます。

タイヤ



ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。使用後は、すべてのツールがケースの中に取り付けられているか確認のうえ、ケースをトランクルームに正しく収納してください。放置しておくと乗員がケガをするおそれがあります。



安全上の理由により、メーカーが推奨しないジャッキの使用は固く禁じられています。

ジャッキはその車両専用となり、ホイールの交換時に使用します。以下のような場合には絶対に使用しないでください。

- 他の車両で使用する。
- 修理に使用する。
- ボディ下で作業するために使用すること。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。
車両に損傷を与える危険性があります。

車両故障時の対処の仕方

けん引: 故障車両

すべてのけん引操作の前に、ギアボックスを**N**の位置に置き（第2章の「オートマチックトランスミッション」を参照）、ステアリングコラムのロックを解除します。次に、パーキングブレーキを解除します（第2章の「パワーアシストパーキングブレーキ」を参照してください）。

トランスミッションを**N**のポジションに移動することができない場合は、販売代理店にお問い合わせください。

ステアリングコラムのロック解除

車内にカードがある状態で、エンジン始動ボタンを**約2秒間押します**。

シフトレバーは、必ず**N**位置に戻してください。

ステアリングコラムのロックが解除され、アクセサリ機能の電源が**ON**になり、車両の各ライト（方向指示灯やブレーキランプなど）の使用が可能になります。夜間はさらに外部照明を点灯してください。

車種によって、けん引が終了したら、エンジン始動ボタンを**2回押します**（そうしないとバッテリーがあがるおそれがあります）。

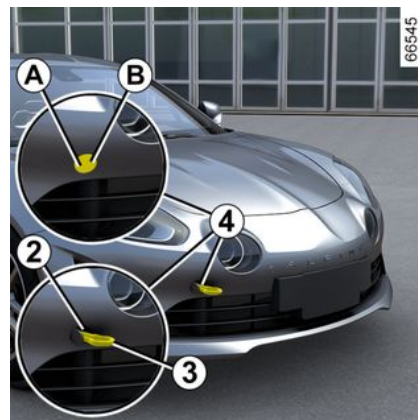
イグニッションをOFFにすると、トランスミッションの潤滑が行われなくなります。平台型トラックで車両を運搬してください。

例外的な状況では、4輪すべてを地上につけて車両をけん引することができます。この場合、トランスミッションをニュートラル（**N**）ポジションに入れ、車両を前方方向にのみけん引し、距離は最大80 kmまで、速度は最大25 km/hまでとします。

必ずけん引に関する現行の規則を守ってください。



車両をけん引しているときに、「ハンズフリーカード」を車両に差し込んだままにします。また、車両によっては、リーダからリモコンカードを抜き取らないようにします。
ステアリングコラムロックの危険性。



前方のけん引ポイント2のみを使用してください

（ドライブシャフトや車両の他の部分を絶対に使用しないでください。）

このけん引ポイントは車をけん引するためのものです。車体を持ち上げるために使用してはなりません。



エンジンを停止すると、パワーステアリングやブレーキの作動はできません。

車両故障時の対処の仕方

けん引ポイントへのアクセス

ゾーンBを引いてフラップ4を開いた状態で、ゾーンAを押して圧力をかけ続けます。

けん引フック3を最大限まで締めます：最初止まるまで手で締め、次にオイルレンチを使用してロックし終了します。

けん引フック3のみをご使用ください（5章の「ツール」の情報を参照してください）。



けん引用の目が正しくボルトで固定されていることを確認します。

けん引対象物を失う恐れがあります。



ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。



- 堅いけん引用のバーを使用してください。
- 走行に支障のある車両をけん引してはなりません。
- 急に加速したり急ブレーキをかけたりしないでください。そのような場合には車両が損傷するおそれがあります。
- どのような状況でも、**25 km/h**以下の速度で走行してください。

バッテリー: 故障時の対処

バッテリーを取扱うときの注意

- バッテリーを切り離すか再接続する場合は、その前に「電装品」（車内灯など）のスイッチをOFFにしてください。
- バッテリーチャージャで充電するときは、バッテリーに接続または接続を外す前に必ずチャージャの電源をOFFにしてください。
- バッテリーの上には絶対に工具や金属製のものを置かないでください。バッテリーがショートするおそれがあります。
- エンジン停止後、必ず1分以上待ってからバッテリーの接続を外してください。

- バッテリーを取り付けた後は、バッテリー端子が正しく接続されていることを確認します。



ボンネットの下側での作業を行う前に、必ず、イグニッションをオフにしてください（2章の「エンジンの始動と停止」を参照してください）。

バッテリーチャージャの接続

定格電圧が12Vのバッテリーに適合するチャージャを使用してください。

エンジンが作動しているときにバッテリーの接続を外さないでください。充電の際はバッテリーチャージャに付属の取扱説明書の指示に従ってください。

車両故障時の対処の仕方



一部のバッテリーには、充電に関する特別な注意事項があります。指定サービス工場にご連絡く

ださい。

火花が飛ばないように十分注意してください。火花はただちに爆発事故の発生につながります。バッテリーは風通しの良い場所で充電してください。

大ケガを負う危険があります。



バッテリー液には希硫酸が含まれています。眼や皮膚に付かないように十分注意してバッテリー

を取扱ってください。万一眼に入ったり皮膚に付いたりした場合には、多量の水で洗い流してください。必要に応じて病院で診察を受けてください。

（爆発の恐れがあるため）バッテリーには火炎、白熱体、火花などを近づけないでください。

エンジンルームで作業を行う場合、機械部品が熱くなっていることがあります。

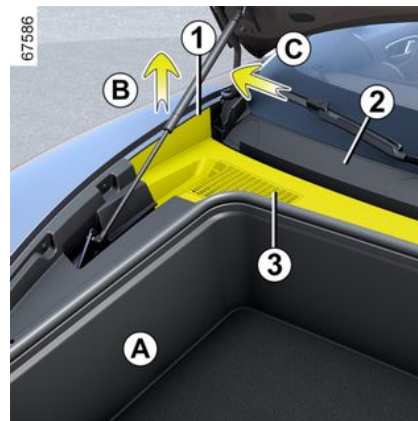
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

他車のバッテリーからのエンジン始動

バッテリーがあがり、エンジンを始動するために他の車両のバッテリーを使用しなければならない場合は、ルノー指定サービス工場で適切なブースターケーブル（セクションが重要です）をお求めになれます。また、ブースターケーブルをすでにお持ちの場合は、ブースターケーブルの状態が良好か確認してください。

2つのバッテリーは同一の公称電圧12Vでなければなりません。また、電流を供給するバッテリーは、少なくとも放電したバッテリーと同じ容量（アンペア/時間、Ah）でなければなりません。

救援車と救援を受ける車は、絶対に接触させないでください（プラスターミナルを接続したときにショートするおそれがあります）。放電したバッテリーが正しく配線されていることを確認します。救援を受ける車のイグニッションスイッチをOFFにします。



車両によっては、バッテリーにアクセスするために、スカトルパネルグリルランチャネルを取り外さなければならないことがあります。

方法:

車両故障時の対処の仕方

- スカットルパネルグリルランチャネル**3**のウィング**1**の後端を持って、上方向に引き抜き、ランチャネルをスカットルパネルグリル**2**から外します。
- ランチャネルの左側を持ち、上方向（自分の方）に引き抜いて（動作**B**）完全に外します。
- ランチャネルの右側を外すには、左に動いて（動作**C**）、ストラットに対してランチャネルを動かしやすくします。
- ランチャネル**3**をきれいな乾燥した面の上にそっと置きます。



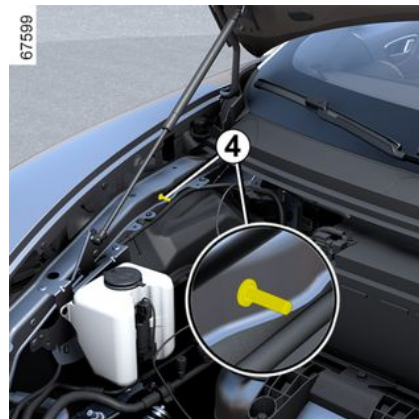
収納ボックスA非装備車両
機械部品が存在するため、

- ボンネットの下に物をしまうことは禁止されています。
- エンジンルームの作業を行う場合は、エンジンルーム内に物を置き忘れないように注意してください。布や工具などを置き忘れると、機械部品が損傷したり、火災が発生することがあります。

損傷や火災の危険があります。

- エンジンルームで作業を行う場合、機械部品が熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



スカットルパネルグリルランチャネルの取付け

ランチャネル**3**を正しく取り付けることが重要です。

方法:

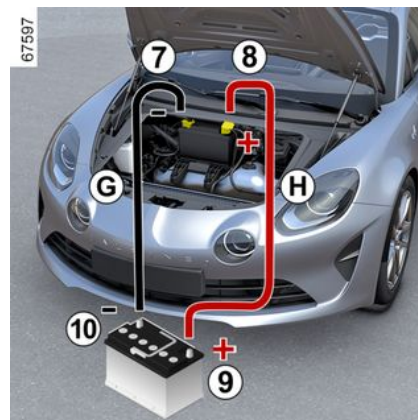
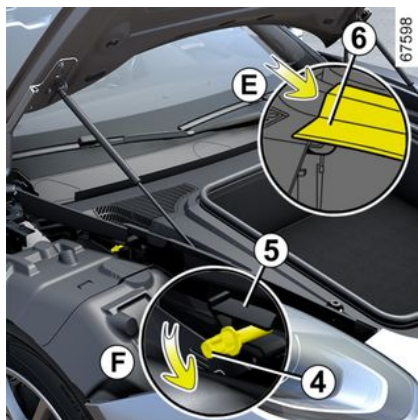
- ランチャネル**3**を取付け位置に合わせます（動作**D**）。
- 車両によっては、ランチャネル**3**をウィングカバーハウジング**6**に挿入します（動作**E**）。
- ランチャネルの両端にある部品**5**をボディマウント**4**に留めます（動作**F**）。
- ランチャネルを押し込んで（動作**G**）固定します。

車両故障時の対処の仕方

5



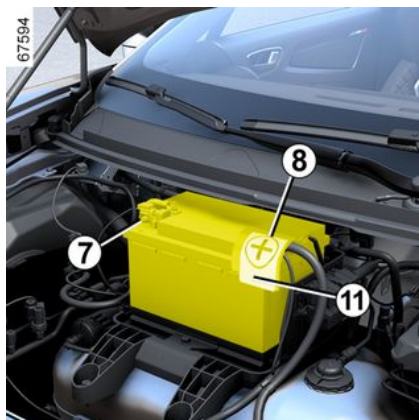
注: ランチャネル 3 を留める（動き **G**）のが難しい場合は、構成部品 4 および 6 に正しく挿入されているかご確認ください。これを怠ると、ランチャネルに傷が付く恐れがあります。



車両によっては、カバーを外します。
赤いタブ **11** を持ち上げて、端子 **8** (+) にアクセスします。プラスケーブル **H** を端子 **8** (+) に接続し、その後、供給側のバッテリーに端子 **9** (+) を接続します。

マイナスケーブル **G** を供給側のバッテリーの端子 **10** (-) に接続し、その後、放電したバッテリーの端子 **7** (-) に接続します。

車両故障時の対処の仕方

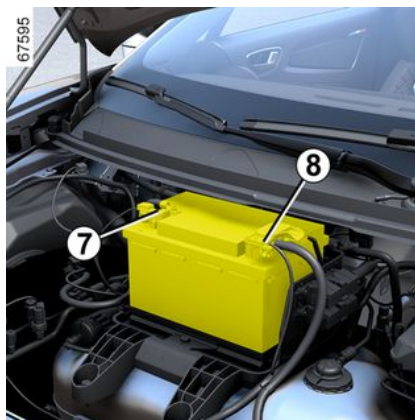


救援車のエンジンを始動させて中速で回転させます。



ケーブル **G** と **H** が接触しておらず、プラスケーブル **H** が、給電車両の金属部分に触れていないか確認します。

ケガや車両故障の原因となります。



車両のエンジンがすぐに始動しない場合は、イグニッションスイッチを切り、数秒待ってから操作を繰り返してください。

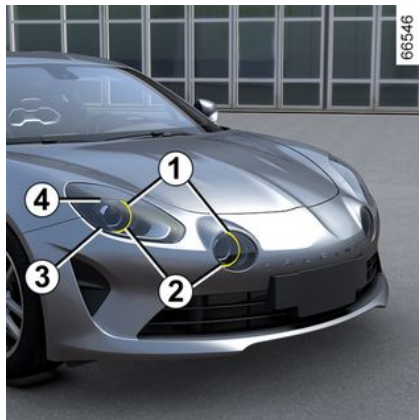
エンジンを回転させた状態でケーブル **G** と **H** を逆の順序（**7 - 10 - 9 - 8**）で切り離します。

ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

エクステリアランプ: 電球の交換

ヘッドランプ

LEDデイトタイムランニングランプとフォグランプ1



正規サービス工場にご連絡ください。

LEDハイビーム2

正規サービス工場にご連絡ください。

LEDロービーム3

正規サービス工場にご連絡ください。

LED方向指示灯4

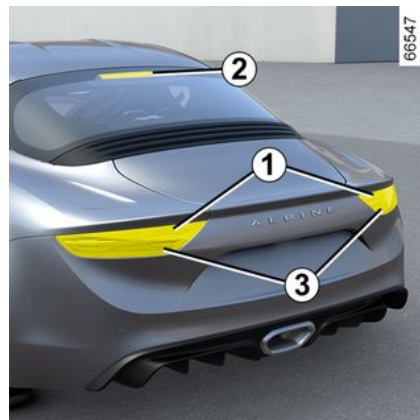
正規サービス工場にご連絡ください。



接続が間違っていると電気機器（ハーネス、コンポーネント、特にオルタネーター）の損傷につながる可能性があるため、電気系統の操作（または変更）は必ず指定サービス工場で実施する必要があります。さらに、指定サービス工場には、これらのユニットを取り付けるために必要なすべての部品がそろっています。

テールランプと表示灯

スモールランプ / ブレーキランプおよび方向指示灯1



正規サービス工場にご連絡ください。

ハイマウントストップランプ2

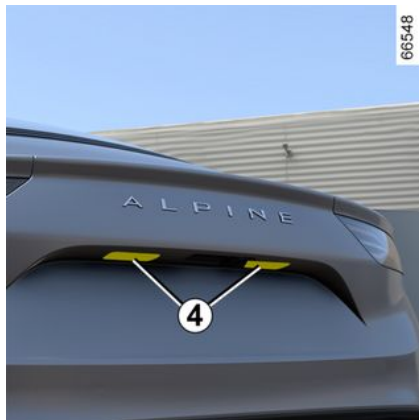
正規サービス工場にご連絡ください。

バックランプとリアフォグランプ3

正規サービス工場にご連絡ください。

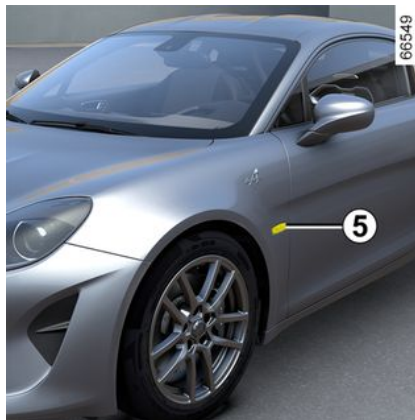
ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

ナンバープレートランプ4



正規サービス工場にご連絡ください。

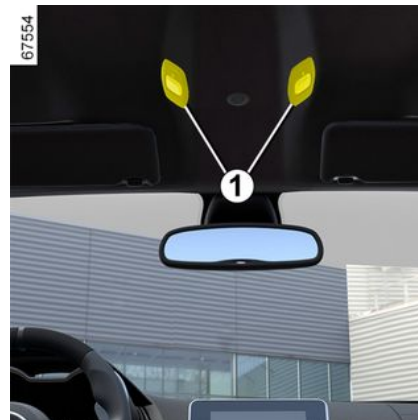
サイドウinker5



正規サービス工場にご連絡ください。

ルームランプ: バルブ交換

カーデシーランプ1

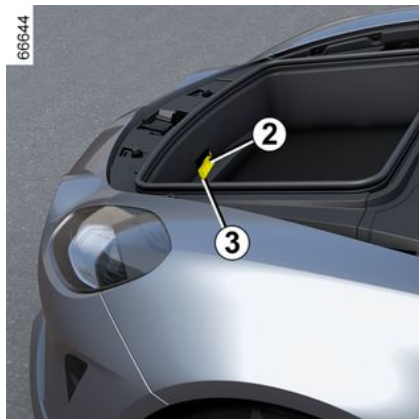


正規サービス工場にご連絡ください。

5

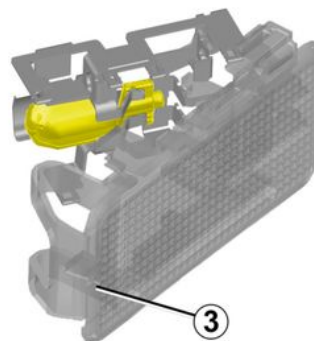
ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

ボンネット収納ボックスランプ2

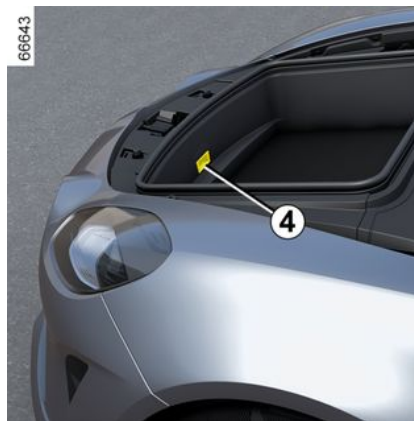


- タブ③を押してランプ②を取り外します。
- ランプユニットのカバーを外してバルブを交換します。

バルブタイプ: W5W。



ラゲッジルームランプ4



左側のタブを押しながら、ランプ④を外します（マイナスドライバーなどを使用します）。

交換するバルブを取外します。

バルブタイプ: W5W。

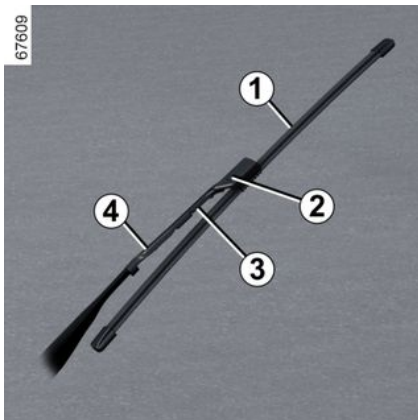


ランプには圧力が掛かっている、交換時に破裂するおそれがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ワイパーブレード: 交換

ウィンドウワイパーブレード 1 の交換



ウィンドウワイパーアーム4を上げないでください。

- ワイパースイッチレバーを完全に下げます。ワイパーブレードはボンネットから外れた位置に停止します。
- イグニッションスイッチをOFFにし、ブレード1のタブ2を押します。
- ブレードを手前に引いて取り外します。
- ウィンドウウォッシャー液パイプ3を切り離します。

取付け

ワイパーブレードの取付けは、逆の手順で行います。ブレードがロックされており、ウィンドウウォッシャー液パイプが正しく接続されていることを確認してください。

i ワイパーブレードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- ブレード、フロントウィンドウは定期的にセッケン水で洗ってください。
- フロントウィンドウが乾燥している状態で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、ワイパーをフロントウィンドウから離してください。



フロントワイパーブレード1は、フロントウィンドウに固有であるため、同等のフロントワイパーブレードと交換する必要があります。正規サービス工場にご連絡ください。



– 気温が低く、ワイパーが凍結している可能性があるときは注意してください。凍りついたワイパーを無理やりに作動しようとすると、ワイパーモーターが過熱し、傷む恐れがあります。

– ワイパーブレードの状態をこまめに点検してください。

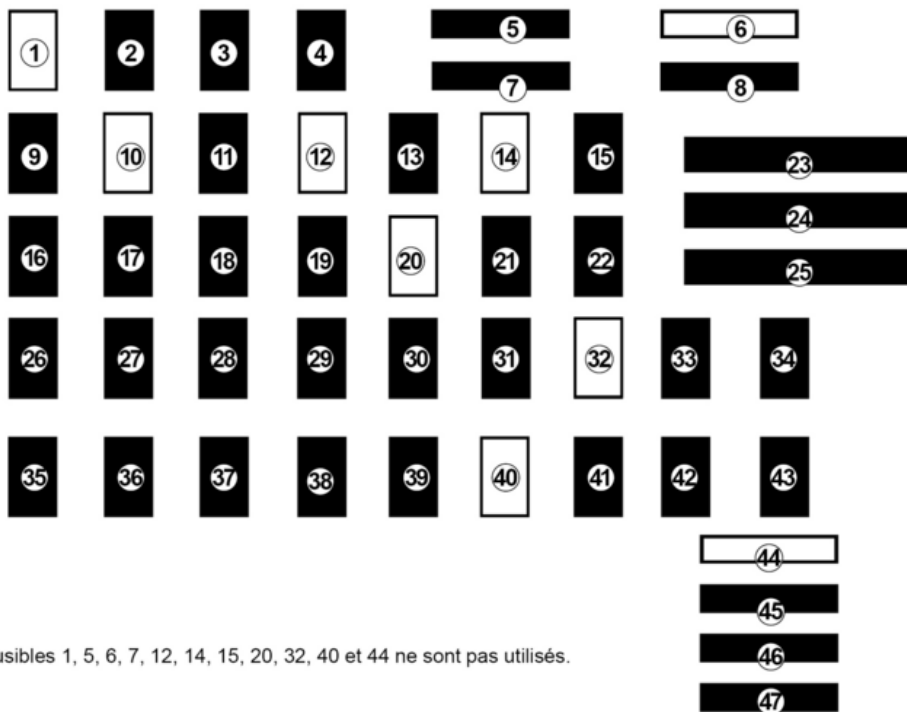
ワイパーブレードは、性能が低下してきたらすぐに交換してください（1年に1回は交換してください）。

ブレードの交換中、ブレードが取外されているときは、アームがウィンドー上に落ちないように注意してください（ウィンドーが損傷するおそれがあります）。

ヒューズ

ヒューズの配置

(ヒューズの有無と場所は、車両のエキップメントレベルによって異なります。)



Nota : les fusibles 1, 5, 6, 7, 12, 14, 15, 20, 32, 40 et 44 ne sont pas utilisés.

42793

ヒューズ

用語

2 UCH (室内コントロールユニット)

3 助手席側のウインドウスイッチ

4 運転席側のパワーウインドウ

8 サービスリレー

9 電熱、クルーズコントロール/スピードリミッター、パーキングアシスト、リアウインドーウデフロスタ (リレー)

10 リアウインドーデフロスター

11 電動ドアミラーのデフロスター

13 右ハイビーム、左ロービーム、左スモールランプ

16 アクセサリ電源

17 ライトスイッチ

18 ホーン

19 ブレーキランプ

20 ラジオ、マルチメディアアクセサリソケット

21 オーディオアンプ

22 フロントワイパー

24 左ハイビーム、右ロービーム、右スモールランプ

25 リアフォグランプ、プレートライト

26 ABS /ESC ブレーキランプユニット

27 ルームランプ、ボンネットランプ、ラゲッジルームライト、ギアボックス、ワンタッチウインドウレギュレーター

28 レインセンサー、日射センサー、エンジンスタートボタン

29 電動式ドアミラー

30 室内コントロールユニット、インジェクションユニット、燃料ポンプ、イグニッションコイル、セルモーター

31 Airbag ユニット

33 電動パワーステアリング

34 ラジオ、診断ソケット

35 パワーウィンドウ、ラジオ、オーディオアンプ、マルチメディアアクセサリソケット、ブレーキランプ

35 ルームランプ、ラゲッジルームライト、ボンネットランプ、エアコン、ギアボックス、スタートボタン、レインセンサ/ランプ、スイッチ、ESC/ABS ユニット

36 電源管理センターユニット、テレマティックユニット

37 方向指示灯、アシストパーキングブレーキスイッチ、クルーズコントロール

38 ドア-ロック/ロック解除

39 電源管理センターユニット

41 アラーム、ランプスイッチ、ホーン

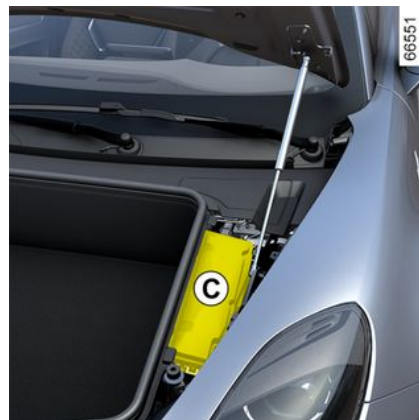
42 インストルメントパネルユニット

43 ギアボックス

45 ヒーティングシート

46 ルームミラー

47 室内コントロールユニット、ワイパー/ウォッシャースイッチレバー



いくつかの機能は、次の場所にあるヒューズによって保護されています。

- フロントルーム (ユニットC)
- リアエンジンルーム (ユニットD)

アクセスの難しい場所にあるため、**ヒューズの交換は正規ディーラーにお任せください。**

ヒューズ



5

オーディオ（標準装備）

ドアスピーカー1



装備を後付けするときは、ルノー指定サービス工場にご相談ください。

- ① - すべての場合で、メーカーの取付説明書をよく読み、それに従ってください。
- サポートおよびケーブル（指定サービス工場で購入できます）の仕様は、車両の装備のレベルとラジオのタイプによって異なります。

装備の部品番号はルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

- 電気系統の追加、変更や修理などはすべて指定サービス工場におまかせください。不適切な配線や取り付けをすると車両の電装品やそれらに接続されている部品が損傷するおそれがあります。

アクセサリの取付けと使用



電装品アクセサリーの後付け

電装品または電子機器を後付けする前に（特にに送受信機の場合：周波数帯域、出力レベル、アンテナの位置など）、それらがお車に適合するか確認してください。ルノー指定 サービス工場にご連絡ください。

アクセサリをソケットに接続する前に、ソケットに許可された最大電力を超えないようにしてください。第3章の

「マルチメディア機器」および「アクセサリースOCKET」の項を参照してください。**火災の恐れがあります。**

車両の電気系統／電子回路を対象とする作業は、有資格専門スタッフに限り行えます。これを無視し、メーカー非承認の電装品／電子機器を誤った方法で接続する／取り付けると、次のような問題が生じる恐れがあります。

- 電装機器の損傷。
- 接続されている部品の損傷。
- 車両データの収集および使用。
- プライバシー侵害（個人データの改変、削除、または個人データへの不当アクセス）。
- サービス開始許可の取消し。

重大な事故のリスク。プライバシーの侵害の危険性。

将来に電装品を取り付けた場合は、該当するヒューズの定格と位置が通知されていることを確認してください。

ダイアグノシスソケットの使用

診断ソケットで電装品アクセサリーを使用すると、車両の電子装置に重大な障害が発生したり、プライバシーの侵害（個人データの改変、削除、または不当なアクセス）が生じたりする可能性があります。安全のため、メーカーによって承認された電装品アクセサリーのみ使用することをお勧めします。指定サービス工場にご相談ください。**重大な事故のリスク。**

プライバシーの侵害の危険性。

アクセサリーの後付け

お車にアクセサリーを取付けたいときは、ルノー指定 サービス工場にご相談ください。車両の機能を良好に維持し、安全な走行を確保していただくために、メーカー車にはメーカー車専用のアクセサリーを装備することをお勧めします。メーカー車専用 アクセサリーは車両に適應するように作られており、メーカーが保証する唯一のアクセサリーパーツです。

盗難防止用ロッドをお使いの場合は、ブレーキペダルにのみ取り付けてください。

運転の妨げになるもの

運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分にはいけません。**ペダルの動作を妨げる危険があります。**

作動異常

下の表では、トラブルが発生したときの簡単な応急処理について説明しています。安全のためにできるだけ早くルノー指定サービス工場にご相談ください。

カードキーの使用	考えられる原因	対処方法
カードが作動せず、ドアが施錠/解錠しない。	カードキーの電池切れ	電池を交換してください。車をロック/ロック解除して発進できます（第1章の「開口部の施錠と開錠」、第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください）。
	カードと同じ周波数で作動する機器を使用する場合（携帯電話など）。	装置の使用を停止し、カードの内蔵キーを使用してください（第1章の「開口部の施錠と開錠」）。
	強い電磁波の影響内に車両がある 車両のバッテリーがあがっている場合。	カードの内蔵キーを使用してください（第1章の「開口部の施錠と開錠」を参照してください）。
	発進しました。	エンジンが作動中に、カードを使用してロック/ロック解除できない。イグニッションスイッチを OFF にします。
	カードの非同期化。	カードの内蔵キーをドアロックに差し込み、運転席ドアのロックを解除します（第1章の「開口部の施錠と開錠」の項を参照）。そして、配置エリアにカードを置き（第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照）、STARTボタンを押してカードを同期します。

エンジンを始動してください	考えられる原因	対処方法
メーターパネルの表示灯／警告灯が暗い、または点灯しない、スターターが作動しない。	ケーブルの接続不良、切断、酸化。	再締付け、再接続または酸化の場合には清掃する。
	バッテリーの放電または故障。	ブースターケーブルを他車のバッテリーに接続してエンジンを始動する。第5章の「バッテリー: 故障時の対処」の項を参照するか、必要に応じてバッテリーを交換してください。

作動異常

エンジンを開始してください	考えられる原因	対処方法
		ステアリングコラムがロックされているときは車を押さないでください
	回路に欠陥があります。	メーカーにお問い合わせください。
エンジンが始動しない	始動条件が満たされていない。	第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください。
	「ハンズフリー」カードが機能しない。	カードリーダーにカードを挿入して始動させてください。 第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください。
車両が停止しておりエンジンが冷えた状態で、エンジンのアイドリング速度が速い。	必ずしも異常ではありません。これは、エンジン温度の上昇によって引き起こされる場合があります。	エンジンのアイドリング速度は、約 1 分後には低下するはずですが、そうでない場合は、別の故障が原因かもしれません。メーカーにお問い合わせください。
エンジンが停止しない。	カードが探知されません。	カードキーをカードリーダーに差込みます。
	電装システムの故障	エンジンスタートボタンを、素早く 5 回押してください。
ステアリングコラムのロックが解除できない	ステアリングホイールのロック	エンジン始動ボタンを押しながらステアリングを動かします（第2章の「エンジンの始動と停止」の項を参照してください）。
	電気回路に障害があります。	メーカーにお問い合わせください。

走行中	考えられる原因	対処方法
異常な振動がある	タイヤ空気圧が不適切、バランス不調、タイヤの損傷	タイヤ空気圧を点検し、空気圧が正常ならばルノー指定サービス工場で点検をお受けください。

作動異常

走行中	考えられる原因	対処方法
エグゾーストパイプから白煙が出る。	必ずしも異常ではありません。気候条件（寒さ、湿度など）によっては、車両の急激な加速時に煙が発生することがあります。	エンジンの回転数を落とし、急な加速を避けて徐々に煙が消えるようにします。そうでない場合は、別の故障が原因かもしれません。メーカーにお問い合わせください。
エンジンルームから発煙	ショートまたは冷却回路漏れ。	車を止め、イグニッションスイッチを OFF にして車から離れてください。指定サービス工場にご連絡ください。
油圧警告灯が点灯		
旋回時または制動時	エンジンオイルレベルが低すぎる	エンジンオイルの補充（4 章の「エンジンオイルレベル、補充／注入」の項を参照してください）。
消灯が遅い、または加速時に点灯したままになる。	油圧不足	車を止めて、指定サービス工場にご連絡ください。

走行中	考えられる原因	対処方法
ステアリングが重い	パワーステアリングシステムのオーバーヒート。 電動アシストモータの故障。 アシストシステムの故障。	低速度で慎重に走行し、ハンドルに必要以上の力をかけないように運転します。メーカーにお問い合わせください。
- エンジンのオーバーヒート。水温計の針が警告ゾーンにあり、警告灯 STOP が点灯します。	電動冷却ファンの故障	車を止め、エンジンを停止して、ルノー指定サービス工場にご連絡ください。

作動異常

走行中	考えられる原因	対処方法
	冷却水漏れ	クーラントリザーバを点検します。液体が含まれているはず です。入っていない場合には、なるべく早くルノー正規 サービス工場にご連絡ください。
クーラントリザーブタンク内の沸騰。	シリンダーヘッドガスケットの破損。	エンジンを止める 正規ディーラにご連絡ください。



ラジエータ:冷却水が大幅に不足している場合、エンジンが非常に熱い間は絶対に冷たい液体を補充しないでください。車両の点検整備などで冷却水を一部でも抜いた場合には、必ず規定濃度に薄めた新しい冷却水を補充します。メーカー指定以外の製品は、絶対に使用しないようお願いいたします。

電装品	考えられる原因	対処方法
ワイパーが作動しない	ワイパーブレードの固着	ブレードを慎重にガラスからはがします。
	電気回路に障害があります。	メーカーにお 問い合わせください。
	損傷ヒューズ	ヒューズを交換します。第5章の「ヒューズ」の項を参照してください。
ワイパーが停止しない。	電動スイッチの故障	メーカーにお 問い合わせください。
方向指示灯の点滅速度が通常より速い	作動不良のランプ。	第5章の「ヘッドランプ: バルブ交換」または「テールランプとサイドランプ: バルブ交換」の項を参照してください。
方向指示灯が点灯しませぬ。	電気回路またはスイッチに障害があります。	メーカーにお 問い合わせください。
	損傷ヒューズ	ヒューズを交換します。第5章の「ヒューズ」の項を参照してください。

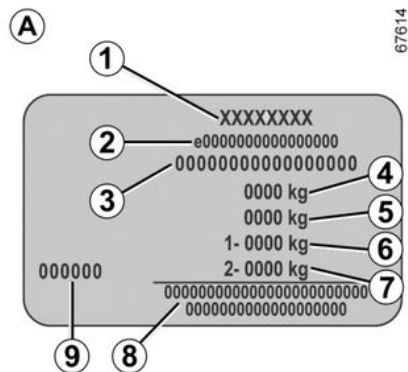
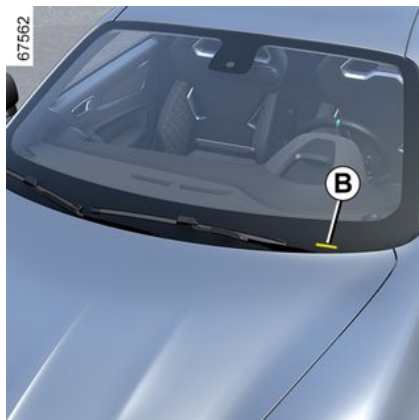
作動異常

電装品	考えられる原因	対処方法
ヘッドランプまたはその他のランプが点灯または消灯しない。	電気回路またはスイッチに障害があります。	メーカーにお 問い合わせください。
	損傷ヒューズ	ヒューズを交換します。第5章の「ヒューズ」の項を参照してください。

電装品	考えられる原因	対処方法
ランプとテールランプの内部の結露。	結露は温度と湿度の変化によって生じる自然現象なので故障ではありません。 このような場合、汚れはランプを使用しているうちに消えます。	
前方シートベルト未着用の表示ランプが実際の装着状態を反映していない。	何かがフロアとシートの上に挟まって、センサーの働きを阻害しています。	前方座席の下には何もおかないでください。

車両に関する情報

ビークルプレート



メーカープレートに刻印された情報が、あなたの注文した車両の仕様と同じであることを確認してください。

これらの情報の有無と設置場所は、車種によって異なります。

メーカープレートA

1. メーカーの名称
2. EC識別番号、またはホモロゲーション番号
3. 識別番号

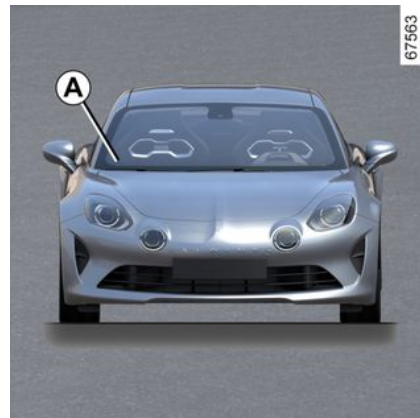
B. 車両により、この情報はラベルにも表示されています。

4. MMAC車両総重量
5. MTR（連結総重量）。
6. MMTA前アクスル(最大許容軸荷重)
7. MMTA後アクスル

8. パートナーシップまたは追加登録に限りです。

9. カラーデータ（カラーコード）

緊急サービスに関する技術情報

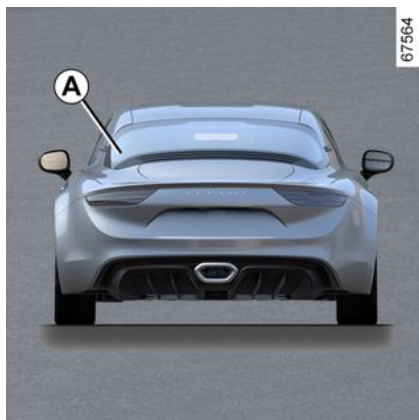


緊急時に対応する作業者は、タブレットまたはスマートフォンを使用してラベルAのQR Codeを読み取ることにより、事故時の車両に対処するために役立つ技術情報をすぐに入手できます。

常にラベルAがフロントウィンドウとリアウィンドウに、見えるように貼られている必要があります。



改変または損傷がある場合、この情報を入手できない恐れがあります。

車両に関する情報



車両に関する情報

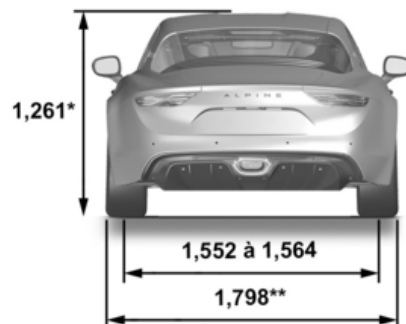
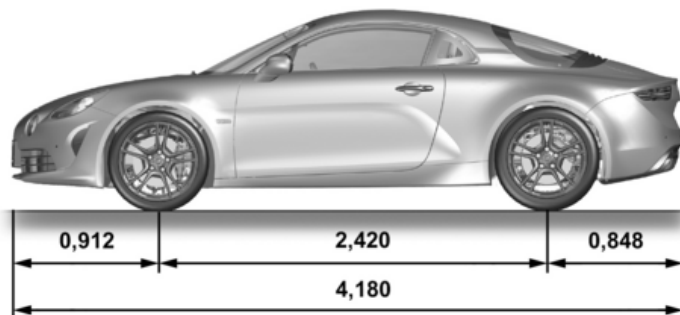
エンジン諸元

モデル	1.8 Tce
エンジンタイプ (エンジンプレートに表示されています)	M5P Turbo
総排気量 (cc)	1798
使用燃料 オクタン価	必ず フューエルフラップ内のラベルに記載されているオクタン 価の無鉛燃料を使用してください。
点火プラグ	エンジンに適合したプラグ以外は使用しないでください。 点火プラグのタイプはエンジンルーム内のラベルに表示されています。不明の場合は指定サービス工場にお問い合わせください。 不適切な点火プラグを使用すると、エンジンを損傷する恐れがあります。
欧州規格に適合し、欧州で販売された車両のエンジンに互換性がある燃料タイプ (いずれの場合でも、ルノー正規ディーラーにお問い合わせください)。	<div>  容量あたり5%以内のエタノールを含む、標準EN 228準拠の無鉛ガソリン。 </div> <div>  容量あたり10%以内のエタノールを含む、標準EN 228準拠の無鉛ガソリン。 </div>

車両に関する情報

車両寸法 (単位:m)

61553



車両に関する情報

* 空車時

** 1.854 ドアミラーを折りたたんだ状態

車両に関する情報

重量 (kg)

表示された重量はオプションの取付部品を含まないベース車両の重量です。重量は車両の装備に応じて変わります正規代理店にお問い合わせください。	
最大許容荷重（MMAC） 最大許容軸荷重（MMTA） 連結総重量（MTR）	メーカープレートに表示された重量（6章の「車両識別プレート」の情報を参照）
ブレーキ付きトレーラのけん引重量	不可
ブレーキなしトレーラのけん引重量	不可
トレーラー連結装置の最大許容重量	不可
ルーフ最大積載重量	不可

部品および修理

ルノーの純正部品は非常に厳密に仕様書に基づいて製造され、特殊なテストを受けています。したがって純正部品は、新車に装着されている商品と同等またはそれ以上の品質水準を保っています。

メーカーの純正部品を正しく装着することにより、お車の性能を長く維持することができます。またルノー指定サービス工場
で実施された純正部品を使用しての修理には保証規定が適用されます。

整備証明

VIN:

日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

6

日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付： Km:		請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付： Km:		請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付： Km:		請求書 No.：	備考
作業タイプ： 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検： OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

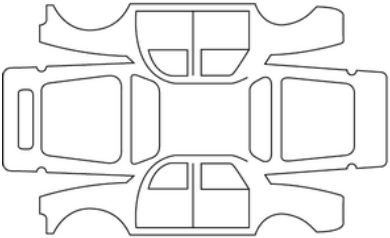
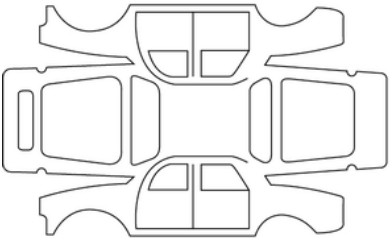
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付：	Km:	請求書 No.：	備考
作業タイプ：	スタンプ		
点検 <input type="checkbox"/>			
..... <input type="checkbox"/>			
防錆点検：			
OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

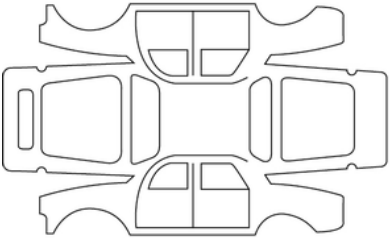
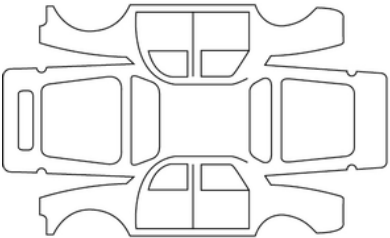
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

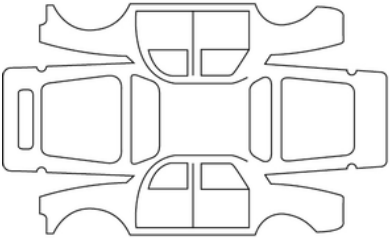
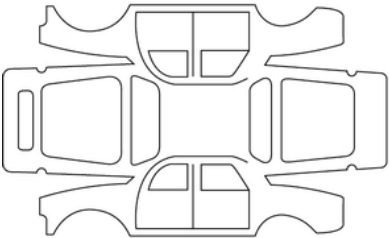
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

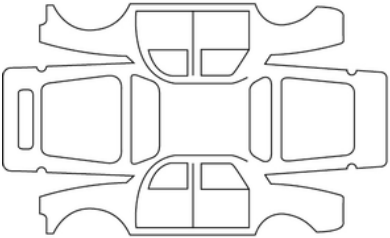
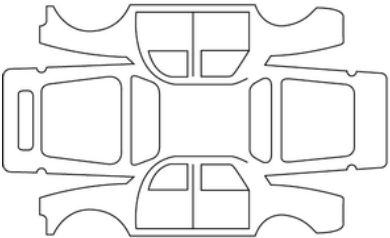
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

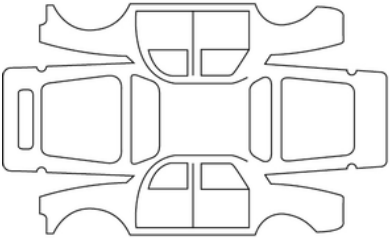
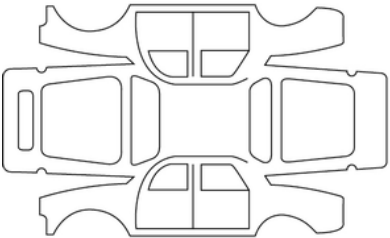
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

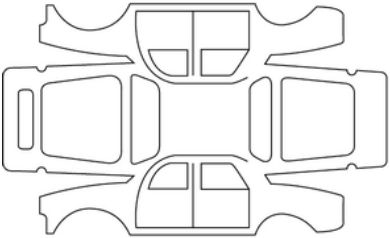
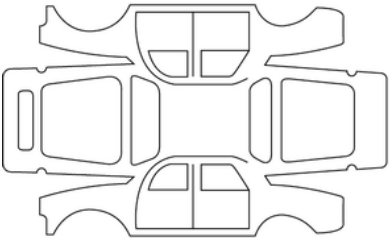
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

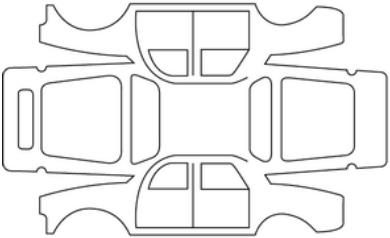
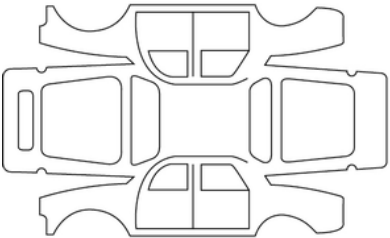
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

索引

記号・数字

「Stop and Start」機能、 [86](#)

「ハンズフリー」カード: バッテリー、 [10](#)

A

ABS、 [114](#)

Airbag、 [23](#)

Airbag : 助手席エアバッグ無効化、 [40](#)

Airbag : 助手席エアバッグ有効化、 [40](#)

Airbags : チャイルドセーフティー、 [40](#)

E

ECO ドライブ、 [107](#)

ESC : エレクトロニックスタビリティープログラム、 [89](#)、 [114](#)

S

Sport モード、 [89](#)

Stop and Start、 [86](#)

W

Warning、 [76](#)

ア

アンチロックブレーキシステム: ABS、 [114](#)

アンロック、 [14](#)

イ

インジケータ、 [76](#)、 [178](#)

インストルメントパネル、 [48](#)、 [60](#)

インストルメントパネル上のメッセージ、 [48](#)

インストルメントパネル上の警告灯、 [48](#)、 [60](#)

インテリアトリム: お手入れ、 [159](#)

ウ

ウィンドウウォッシャー、 [77](#)

エ

エアコン: 情報や用法アドバイス、 [132](#)

エアコンディショナー、 [128](#)、 [130](#)、 [130](#)、 [130](#)、 [132](#)、 [132](#)

エアバッグ: airbag、 [23](#)

エアロパーツ、 [157](#)

エレクトロニックスタビリティープログラム: ESC、 [114](#)

エンジン: アクセス、 [145](#)

エンジンオイル、 [147](#)、 [148](#)

エンジンオイルの交換、 [148](#)

エンジンオイルレベル:、 [147](#)、 [148](#)

エンジンオイルレベルゲージ、 [147](#)

エンジンの始動、 [83](#)、 [86](#)

エンジンの停止、 [83](#)

エンジンルームへのアクセス、 [143](#)

エンジンをスタンバイにする、 [86](#)

エンジン始動 / 停止ボタン、 [83](#)

エンジン識別、 [-2](#)

索引

エンジン諸元、[-2](#)

オ

オイルフィルター、[148](#)

オーディオ（標準装備）、[185](#)、[185](#)

オートマチックトランスミッション（用法）、[93](#)

オンボードコンピューター、[48](#)

お子様、[29](#)

お子様の運搬、[29](#)、[36](#)

お手入れ: インテリアトリム、[159](#)

お手入れ: フィルター、[151](#)

お手入れ: 機械のお手入れ、[147](#)

お手入れ: 車体点検整備、[158](#)

カ

カーテシーランプ、[137](#)

カードキー: スペアカードキー、[4](#)

カードキー: ハンズフリー、[4](#)

カードキー: ハンズフリーモードでエンジン始動不可、[4](#)

カードキー: 開口部のロック／ロック解除、[4](#)

カードキー: 電池、[10](#)

カードキー: 用法、[4](#)、[6](#)、[12](#)

ガソリン車特記事項、[103](#)

ギ

ギアチェンジ、[93](#)

キー／リモコン、[12](#)

キャタライザー、[103](#)

ク

クルーズコントロール、[119](#)

クルーズコントロール - スピードリミッター、[117](#)、[119](#)

グローブボックス、[139](#)

コ

コントロール警告灯、[48](#)、[60](#)

シ

シートベルト、[20](#)、[23](#)

シートベルトプリテンショナー、[23](#)

シートベルト補助拘束装置、[23](#)

シフトコントロール、[93](#)

ス

ステアリングホイール: 調整、[72](#)

スピーカー: 位置、[185](#)

スピードリミッター、[117](#)

スペアキー、[4](#)

スペアタイヤ、[169](#)

スポットライト、[137](#)

スモールランプ、[178](#)

セ

セントラルドアロック、[6](#)、[12](#)、[14](#)、[16](#)

索引

タ

タイヤ、[110](#)、[161](#)

タイヤの交換、[170](#)

タイヤ規定空気圧、[110](#)、[164](#)

タイヤ空気圧モニターシステム、[110](#)

タイヤ空気注入、[110](#)、[164](#)

タイヤ空気注入キット、[167](#)

チ

チャイルドシート、[29](#)、[33](#)、[36](#)

チャイルドシートの取付け、[33](#)

チャイルドシート拘束システム、[29](#)、[36](#)

チャイルドシート拘束装置、[29](#)、[29](#)、[36](#)

デ

ディスプレイ、[60](#)

デミスター: フロントウィンドウ、[130](#)

デミスター: リアウィンドウ、[130](#)

ド

ドア、[13](#)、[16](#)

ドア／テールゲート、[4](#)、[6](#)、[12](#)、[13](#)、[14](#)、[16](#)

ドア／ルームミラー、[73](#)

ドアをロックする、[4](#)、[6](#)、[12](#)、[13](#)、[14](#)、[16](#)

ドア開放、[13](#)、[14](#)

ドア閉鎖、[13](#)、[14](#)

ドライビングポジション、[44](#)

トラクションコントロール、[89](#)、[114](#)

トランク、[17](#)

トリップコンピューター、[117](#)、[119](#)、[122](#)、[124](#)

ナ

ナビゲーション、[135](#)

ナビゲーションシステム、[135](#)

ハ

ハザードフラッシャ、[76](#)

ハザードランプ、[76](#)

バッテリー：、[173](#)

バッテリー：故障修理、[173](#)

バルブ: 交換、[178](#)、[178](#)、[178](#)、[179](#)

バルブ交換、[178](#)、[179](#)

パワーウィンドウ、[136](#)

パンク、[169](#)、[170](#)

パンク: スペアタイヤ、[169](#)

ハンズフリーカードキー: 用法、[4](#)、[6](#)

ハンズフリー電話コントロール、[135](#)

パーキングアシスト、[124](#)

パーキングブレーキ故障、[99](#)

ヒ

ヒーター、[128](#)、[130](#)、[132](#)

ヒーター付きフロントウィンドウ、[130](#)

ヒューズ、[182](#)、[182](#)

索引

ブ

ブレーキランプ、 [178](#)
フロントウインドウのデフロスター／デミスター、 [130](#)
フロントシート: 調整、 [18](#)
フロントシートベルトプリテンショナー、 [23](#)
フロントシートベルト補助拘束デバイス、 [23](#)
フロントシート調整、 [18](#)
フロントワイパーブレードの 交換、 [181](#)

ヘ

ヘッドランプ、 [74](#)、[76](#)、[178](#)、[178](#)
ヘッドランプ: バルブ交換、 [178](#)

ホ

ホイール（安全機能）、 [161](#)
ホーン、 [76](#)
ホーン／バッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯、 [76](#)
ボンネット、 [143](#)

マ

マルチメディア装備、 [135](#)

ラ

ラゲッジルームへの荷物の積み込み、 [17](#)
ラジオ、 [135](#)
ランプ類、 [74](#)、[76](#)

リ

リアビューカメラ、 [122](#)
リモコンカードキー: バッテリー、 [10](#)
リモコンカードキー: 用法、 [4](#)、[12](#)

ル

ルームランプ、 [137](#)、[179](#)
ルームランプ: バルブ交換、 [179](#)

レ

レベル：、 [143](#)、[151](#)

ロ

ロービーム、 [178](#)

ワ

ワイパー、 [77](#)
ワイパー: ブレード、 [181](#)
ワイパーブレード、 [181](#)
ワイパーブレード: 交換、 [181](#)

運

運転支援、 [114](#)、[117](#)、[119](#)、[122](#)、[124](#)
運転席: 設定、 [20](#)
運転席調整、 [18](#)、[20](#)

索引

温

温度調節、 [130](#)、 [132](#)

開

開口部、 [13](#)、 [16](#)

開閉部のロック、ロック解除: ドア、 [14](#)

換

換気、 [130](#)、 [132](#)

換気装置、 [128](#)、 [130](#)

機

機器: マルチメディア、 [135](#)、 [185](#)

緊

緊急ブレーキ、 [114](#)

緊急時ブレーキアシスト、 [114](#)

牽

牽引: 車両故障時の対処、 [173](#)

牽引リング、 [173](#)

故

故障修理: バッテリー、 [173](#)

後

後進レーダー、 [124](#)

坂

坂道発進アシスト、 [114](#)

作

作動不良: カードキーの電池、 [4](#)

子

子供を乗車させるとき、 [29](#)、 [36](#)

時

時計、 [66](#)、 [66](#)

車

車体点検整備（お手入れ）、 [158](#)

車両カスタマイズ設定、 [63](#)

車両のイグニッションスイッチを ON にする、 [83](#)

車両持上げ: ホイール交換、 [170](#)

車両設定カスタマイズ、 [63](#)

車両調整のパーソナリゼーションメニュー、 [63](#)

取

取付け部品、 [139](#)

収

収納スペース／取付け部品: 車内、 [139](#)

索引

省

省燃料、 [107](#)

乗

乗員安全確保: 助手席airbag、 [40](#)

清

清掃: 車内、 [159](#)

洗

洗浄、 [158](#)

大

大型収納、 [139](#)

地

地球にやさしい車づくり、 [105](#)

着

着信ランプ、 [76](#)

点

点検: 排出ガスコントロール、 [106](#)

点検ツール、 [48](#)、 [60](#)、 [66](#)

点検整備、 [106](#)

電

電動パーキングブレーキ、 [99](#)

電話、 [135](#)

塗

塗装: お手入れ、 [158](#)

灯

灯火類、 [74](#)

灯火類: バルブ交換、 [178](#)

燃

燃料: 等級、 [80](#)

燃料: 燃料消費量の低減に役立つヒント、 [107](#)

燃料: 補給、 [80](#)

燃料タンク、 [80](#)

燃料タンクキャップ、 [80](#)

燃料タンク容量、 [80](#)

排

排出ガスコントロール: アドバイス、 [106](#)

発

発進する、 [83](#)、 [93](#)、 [99](#)、 [103](#)、 [107](#)、 [110](#)、 [114](#)、 [117](#)、 [119](#)、
[124](#)

索引

部

部品および修理部品、 [199](#)

方

方向指示灯、 [76](#)、[76](#)、[178](#)

容

容量: エンジンオイル、 [148](#)



SOCIÉTÉ DES AUTOMOBILES ALPINE, SA par actions simplifiée à associé unique
AVENUE DE BREUTE, 76200 DIEPPE - SIRET 662 750 074 / SITE INTERNET : alpinecars.com

NU 1171-15 – 77 99 000 591 - 07/2025 - Edition japonaise



7799000591